

2025（令和7）年度

履修要項・シラバス
臨床コア実習

[M4]

順天堂大学医学部

目 次

はじめに	1
コンピテンシー	2
医学部での教育のあり方について・教員の責務と学生の義務	8
順天堂大学医学部の使命	9
順天堂大学医学部 3 ポリシー	10
順天堂の建学の理念	15
病院等での実習の心得	16
医師の服装についてのマニュアル	17
緊急事態発生時の連絡マニュアル	18
実習中の災害などの緊急時における行動について	19
順天堂大学医学部における臨床実習ガイドライン	20
本学における学生の診療行為ガイドライン	20
医学教育モデル・コア・カリキュラム (抜粋)	24
個人情報について(保護方針/利用目的)	49
職業倫理・倫理指針・医療倫理について	51
M2～M6 ナンバリング	54
医学部カリキュラム・ツリー	55
カリキュラム概略図及びカリキュラム表	56
患者さんをお願いするアンケートの実施手順	59
患者さんアンケート	60
臨床実習 (コア科実習)	
1. コア科実習の一般目標・到達目標	61
2. 内科系コア科実習 (本郷・附属病院)	
1) 【CBM 403】循環器内科学	64
2) 【CBM 404】消化器内科学	72
3) 【CBM 405】呼吸器内科学	96
4) 【CBM 407】神経学 (脳神経内科)	103
3. 外科系コア科実習 (本郷・附属病院)	
1) 【CBM 410】上部消化管外科学 (食道・胃外科)	116
2) 【CBM 411】下部消化管外科学 (大腸・肛門外科)	123
3) 【CBM 412】肝・胆・膵外科学	129
4) 【CBM 415】呼吸器外科学	135
5) 【CBM 414】乳腺腫瘍学(乳腺科)	137
4. 【CBM 401】小児系コア科実習 (本郷・附属病院)	143
5. 【CBM 402】周産期・婦人科系コア科実習 (本郷・附属病院)	166
6. 【CBM 408/CBM 518】救急実習 (附属病院)	176

はじめに

医学部長 高橋 和久

近年の医学の進歩は目覚ましく、医学部の学生が修得しなくてはならない知識・技能は膨大なものとなっています。したがって、限られた授業時間のなかで十分な学習効果をあげるためには、皆さんの「**active** な学びの姿勢」が不可欠です。医学部の6年間では、将来自分が医師や研究者として活躍するために必要な知識・技能・態度を勉強することになりますが、実は医学部卒業後も生涯を通じてこの「**active** な学びの姿勢」を保持し続けることが求められます。医学部教育において最も大切なことは、受動的に知識を取得するのではなく、自ら学び、考え、問題を解決する能力を育成することです。皆さんには自ら学習する習慣（**passive** なものから **active** なものへ）を培ってもらいたいと思います。実際、教員による一方向の講義ではなく、**Team-Based Learning (TBL)** や質疑応答を多く取り入れた双方向の講義の学習効果が高いと言われています。

このシラバスはこのような理念に基づき、皆さんが自主学習しやすいようにと、担当の先生方が思いを込めて作成されたものです。シラバスには、どの日にどのようなテーマで講義や実習が行われるかが記載されています。あらかじめ一読し予備知識をもって、講義や実習に臨んで下さい。そうすることで、より一層理解することができ、医学に興味をもてるようになると思います。このシラバスを大いに活用し、積極的に知識や技術を学んでいただくことを心から期待しています。

順天堂大学医学部 コンピテンシー

1. 診療技能・患者ケア

- a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。
- b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。
- c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。
- d. 病状説明・患者教育に参加できる。

2. 医学的知識

- a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。
- b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。
- c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。
- d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。
- e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。
- f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。

3. 医療安全

- a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながることを理解できる。
- b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。
- c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。
- d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。
- e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。
- f. 自己の健康管理ができる。

4. チーム医療

- a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。
- b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。
- c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。

5. コミュニケーション

- a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。
- b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。
- c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。

6. 医療の社会性

- a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。
- b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。
- c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。

7. 倫理とプロフェッショナリズム

- a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。
- b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。
- c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。
- d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。

8. 自律的学習能力

- a. 自分の目標に向けた学習ができる。
- b. 適切な情報収集ができ、活用できる。
- c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。
- d. 医学研究に対する興味を高めることができる。

9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任

- a. 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。
- b. 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。
- c. 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。
- d. 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む)。

順天堂大学医学部コンピテンシー達成レベルの説明

Millerの臨床能力評価ピラミッドのレベル	Advanced	Applied	Basic	Very Basic	記入 なし
	A (Does)	B (Shows how)	C (Knows how)	D (Knows)	
順天堂大学医学部コンピテンシー	解説	解説	解説	解説	
1 診療技能・患者ケア	自ら診療できる(任せられる)・監視下で診療できる・診察に参加・手伝いができる。	シミュレーターや模擬患者を使い、診療的に関係する内容(診察・診断・治療計画など)ができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 成人・小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。					
b 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。					
c 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる					
d 病状説明・患者教育に参加できる。					
2 医学的知識	実践の場で問題解決に応用できる。	問題解決に応用できる知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識を示せることができる。	該当なし
a 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。					
b 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。					
c 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。					
d 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。					
e 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。					
f 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。					
3 医療安全	実践の場で修得した能力・知識を応用できる。	模擬的な状況に対して、必要な能力・知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 正確な医療知識・技術が医療安全につながる事が理解できる。					
b インフォームド・コンセントを理解し実践できる。					
c 個人情報扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。					
d 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。					
e 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。					
f 自己の健康管理ができる。					
4 チーム医療	診療の一部として、患者や診療チームのメンバーと問題なくコミュニケーションできる。	模擬的な状況で、患者や診療チームのメンバーとのコミュニケーション内容を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 医療チームの一員として積極的に参加できる。					
b 他職種の仕事内容やチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することが出来る。					
c 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。					
5 コミュニケーション	診療の一部として患者や診療チームのメンバーと、あるいは一般社会や大学において問題なくコミュニケーションできる。	模擬的な状況で、コミュニケーション内容を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。					
b 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。					
c プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。					
6 医療の社会性	実践の場で問題解決に応用できる。	問題解決に応用できる知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識を示せることができる。	該当なし
a 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。					
b 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。					
c 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。					
7 倫理とプロフェッショナリズム	実際の診療の場で、要求されている内容を示す、あるいは価値観を示すことができる。	模擬診療的な状況で要求されている内容を示す、あるいは価値観を示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 医療の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。					
b 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。					
c 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。					
d 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。					
8 自律的学習能力	要求されている内容を実際の場で示すことができる。	要求されている内容を模擬的な場面で示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 自分の目標に向けた学習ができる。					
b 適切な情報収集ができ、活用できる。					
c 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。					
d 医学研究に対する興味を高めることができる。					
9 順天堂大学医学部出身者としての誇りと責任	要求されている内容を実際の場で示すことができる。実践できる。	要求されている内容を模擬的な場面で示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。					
b 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。					
c 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。					
d 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE対策、交換留学などを含む)。					

医学部での教育のあり方について・教員の責務と学生の義務

【ミッション】

- 1) 授業は、単に知識・技術の伝達ばかりではなく、教員と学生との直接的なコミュニケーションを通して、医師としての人間性を育成するための教育の場でもある。ベッドサイドでも、実習の場でも、教室においても当然そうである。
- 2) 教員には教育する責任があり、学生には履修義務がある。それがどうでもよい、来なくてもよいというのでは、学習の場としての大学の存在意義を自己否定するものである。特に、医学部学生の不勉強は、患者に迷惑をかける。
- 3) 学生を教育することは、教員自らの研究・診療活動能力を向上させるうえで最も重要である。
- 4) 学生の学習意識を **PASSIVE** なものから **ACTIVE** なものに変化させるよう、教員側が全教科を通じて努力することと、その手法を工夫することが重要である。学生も自ら学ぶ意識を堅持し、積極的な姿勢で勉学に臨むことは必須である。
- 5) 学生のモチベーションの向上を図り、それに基づく教育体制を整備することは、本学全体の教育のみならず研究や臨床における活動水準を高めることに繋がる。
- 6) 授業時間中に前回または当日の授業内容の理解度を問う試験を行い、出席をとる。同時に学生の授業に対する意見を聞くことの徹底（教務課にて用意されている「授業評価票」使用の徹底）を図る。また、教育者としての自己評価・他者評価を重視する。
- 7) 学部教育や臨床教育（BSL）においては、教授・准教授・講師・助教が学生に対して直接教育するが、そのみに止まらず大学に集う者全てが教育に関与すべきである。病院などの現場においては、『屋根瓦方式』による教育の重要性を認識することが重要である。これは教員のみにも留まらない。学生も同級生・下級生に教えることによって知識の確認を行うべきである。

順天堂大学医学部の使命

医学部は、人類の健康・福祉に寄与できる専門的な知識、技術を身につけ、「科学者」の視点を持ちつつ、感性豊かな教養人としての医師・医学者を養成することを目的（＝使命）とする。そのために、以下の目標を定める。

1. 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術を身につける。
2. 不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につける。
3. 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養する。
4. チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣を身につける。
5. 国際社会に役立ち、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を培う。

順天堂大学医学部 3ポリシー

1. アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

求める学生像

医学部では、医学・医療の知識・技能のみならず豊かな感性と教養を持ち、国際社会や地域社会に貢献し、未来を拓く人間性溢れる医師・医学者を養成するため、次のような学生を求めます

- 1.一人の人間として、人間と自然を愛し、相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観を有する人
- 2.幅広い人間性、柔軟性と協調性を備えた基本的なコミュニケーション能力を有する人
- 3.自ら課題を発掘し、知的好奇心を持って、課題解決に取り組む主体性を有する人
- 4.国際的な視点から医学・医療の進歩に貢献しようとする熱意を有する人
- 5.入学後も、自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲を有する人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

医学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

- 1.理科:物理、化学、生物についての十分な知識と科学的な思考力・探究心
- 2.数学:数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについての十分な知識と論理的思考力
- 3.英語:国際社会で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力、十分な読解力、表現力、思考力、会話能力、言語や文化についての理解、TOEFL-iBT 68点程度/IELTS 6.0程度、もしくは同等水準の英語能力
- 4.国語:十分な文章読解力、文章構成力、論理的表現力
- 5.地理歴史・公民:世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済についての基礎的な知識
- 6.特別活動及び課外活動等を通じた主体性、協調性、思いやり、奉仕の心

入学者選抜の基本方針

医学部では、医師・医学者になろうと努力する学生に対し、6年間で卒業し、ストレートで医師国家試験に合格させるよう教育しますが、単に医師国家試験合格だけを目指すのではなく、国家試験をものとし、知性と教養と感性溢れる医師・医学者を養成するため、入学者選抜方法として、学力試験のみならず、受験生の感性や医師・医学者となるべき人物・識見・教養を見極めるために、小論文試験・面接試験を課し、また、小中高に至る活動を知る資料の提出により、総合的な判定に基づき、入学者を選抜します。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後の継ぎ目のない教育を目指し、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を修得するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。また、学修成果を適切に評価し、教育方法の改善を行います。

1. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に約1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。
2. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識、確実な技術・技能、適正な態度を身に付けるため、1年次には自然科学と英語を中心とした基礎教育及び医療入門を提供します。また、特定の課題を少人数による議論と思考で進めるPBL(Problem Based Learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。1年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の水平的・垂直的統合型カリキュラムを採用します。
3. 3年次には、科学的思考能力を高め、医学における研究の重要性を理解し、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。将来、研究者を目指す者に対しては、研究医を養成するコースを設けます。
4. 入学後の早い時期から病院見学、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療の現場に参画することにより、保健医療制度を理解し、多様な職種との連携や共同作業を行えるコミュニケーション能力の涵養を目指します。特に、4年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属6病院で患者を受け持ち、実際に医療チームに加わることにより、臨床能力を身に付ける教育を行います。
5. 教養教育を重視するとともに、国際社会で活躍できる能力を養うため、実践英語を高学年まで課します。5、6年次の臨床実習では、海外での実習機会(2~8週間、留学先は自ら選べる)を提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって、包括的に評価します。各科目のコンピテンシー達成レベルはシラバス等に明示します。

学生によるコンピテンシーに基づくカリキュラム評価結果を活用し、カリキュラムの自己点検・評価を行います。内部質保証の維持、向上のため、第三者の視点を踏まえ、カリキュラムの自己点検・評価を定期的に行い、教育方法の改善につなげていきます。

3. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

医学部では、順天堂大学医学部の使命の下で策定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士(医学)の学位を授与します。

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p>I. 診療技能・患者ケア, 医学的知識</p> <p>科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床の医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。</p> <p>II. 医療安全</p> <p>医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。</p>	<p>1. 診療技能・患者ケア</p> <p>a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。</p> <p>b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。</p> <p>c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。</p> <p>d. 病状説明・患者教育に参加できる。</p> <p>2. 医学的知識</p> <p>a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。</p> <p>b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。</p> <p>c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。</p> <p>d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。</p> <p>e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。</p> <p>f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。</p> <p>3. 医療安全</p> <p>a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながることを理解できる。</p> <p>b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。</p> <p>c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。</p> <p>d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。</p> <p>e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。</p> <p>f. 自己の健康管理ができる。</p>

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p>Ⅲ. チーム医療, コミュニケーション</p> <p>チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。</p> <p>他者と信頼関係を構築ことができ、良好なコミュニケーションがとれる。</p> <p>Ⅳ. 医療の社会性</p> <p>行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。</p> <p>Ⅴ. 倫理とプロフェッショナリズム</p> <p>医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。</p>	<p>4. チーム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。 b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。 c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。 <p>5. コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。 b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。 c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。 <p>6. 医療の社会性</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。 b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。 c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。 <p>7. 倫理とプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。 b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。 c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。 d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p>VI. 自立的学習能力, 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</p> <p>順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり慈しむ心(学是「仁」)を持った行動ができる。</p> <p>グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。</p>	<p>8. 自立的学習能力</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 自分の目標に向けた学習ができる。 b. 適切な情報収集ができ、活用できる。 c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。 d. 医学研究に対する興味を高めることができる。 <p>9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。 b. 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。 c. 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。 d. 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む)。

順天堂の建学の理念

「順天堂」の歴史は、天保9年（1838年）初代堂主佐藤泰然が江戸・薬研堀（両国橋の袂）に蘭方塾を開いた時に遡る。そして順天堂は医育機関を併設した西洋医学の医療機関として、日本で最も長い歴史と伝統を持つ。

天保14年（1843年）、佐倉に新たに塾を開くが、この幕末から明治初期に至る佐倉順天堂時代には、最新の西洋医学と医療技術の導入により患者に最善の医療を提供しようとあらゆる努力が払われた。これは、即ち、今でいう **patient-oriented medicine** の実践を信条とした医療であった。また、順天堂は全国から入門する百数十名をこえる塾生の教育に力を入れたが故に、【日新の医学、佐倉の林中より生ず】という言葉が生まれるに到った。爾来、順天堂は常に時流を見据えて【不断前進】の理念を持ち続け、創造的な歩みを進めてきた。

たゆまぬ前進と改革を続ける一方で、不易に守り通してきた精神は、【天道に則り、自然の摂理に順う】ことで、これこそが、中国の古典・易経に表された【順天応人】、孟子の言葉に見られる【順天存者、逆天滅者】であり、本学の名称の由来となる精神となっている。

医学に携わる者は、常に天道に真摯に従い、人間世界の援護者であり続けなければならない。従って、開学以来、本学が重視してきた信条は、まさに【人間医師】の育成であり、順天の精神を根底に持つ人材の育成である。

また、現在における【学校法人 順天堂】では医療と医学教育に併せて、スポーツ健康科学部を設け、少人数制による全人格的教育をもって、体育・スポーツ・健康の維持、そして、健康増進の相互関連を究明し、医学知識の豊かな保健体育指導者の養成、更に、医療看護学部では看護師と保健師、助産師の育成にも力を注いでいる。このように順天堂は国民の病を癒すことのみならず、高齢者を含めた全国民の健康維持と増進をその理念として歴史を刻んできた。

順天堂の校章は、「仁」の文字を意匠化したもので明治時代から順天堂医院の薬袋に使用されていたものである。「人ありて我あり、他を思いやり、慈しむ心」これ即ち「仁」。病める人々の立場に立つ心、学是であるこの「仁」を大切に育み、次世代を担う学生や若い研究者の涵養をしつつ近代医療を推進している。

病院等での実習の心得

順天堂医院理念

順天堂の「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し、人間としての尊厳および権利を守る。更に「不断前進」の精神で、創造的な改革を進め、医療人の育成および最善の医療の提供を目指す。

基本方針

1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。
 2. 患者さんと家族が満足できるサービスを提供する。
 3. 患者さんが安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。
 4. 特定機能病院として、先進医療の開発・導入を行い、優れた医療技術を提供する。
 5. 救急医療活動や在宅医療における役割を担う。更に災害時の拠点病院として地域医療に貢献する。
 6. 省エネ、エコロジーを推進し、環境保全活動に努める。
- すべての医療従事者は、この実現のために取り組むものとする。

「患者さんの権利」

医療は患者さんと医療機関との十分な信頼関係で成り立っております。順天堂医院では、すべての患者さんに次の権利があると思料し、尊重した医療を行います。

1. 良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
2. 一人ひとりの人格や価値観などが尊重された医療を受ける権利があります。
3. ご自分の希望や意見を述べる権利があるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
4. 理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
5. 十分な説明と情報提供を受けた上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報を守られる権利があります。
7. 患者さんが主治医（かかりつけ医）から勧められた治療を選択するにあたり、納得して治療を受けられるよう、セカンドオピニオンにより、主治医（かかりつけ医）以外の医師に意見を求める権利があります。

「患者さんへのお願い」

順天堂医院では、さまざまな医療を提供していますので、次のことを十分にご理解いただき、適切な医療の提供にご協力くださいますようお願いいたします。

1. 誤認防止のため、患者さんに氏名（フルネーム）および生月日を確認しています。
2. 治療上必要なルールは、お守りください。また、治療について不安を感じましたら、どんなことでもすぐにお知らせください。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう配慮に努めています。他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
4. 治療を目的に、患者さんの姿や顔を撮影した場合には、当該映像も個人情報として適切に管理し、医療に関わる範囲でのみ使用いたします。
5. 当院では、防犯および安全管理上の理由により、院内における任意の場所にビデオカメラを設置しています。撮影された映像データは、防犯および安全管理上に問題がある場合に限り使用し、一定時間保管後破棄いたします。

順天堂医院：職員の心得

順天堂医院の職員は、医療従事者として日常業務に全力を尽すとともに以下の心得を固く遵守されたい

1. 何より医療安全に留意すること（絶対に患者さんの心身を傷付けるような言動は慎むこと）
2. 患者さんに、やさしく、思いやりをもって、謙虚に！！接遇に最大の注意を払うこと！（医療訴訟防止の原点）
3. 患者さんの秘密を守る（守秘義務）
4. コスト意識を持ち、無駄を省く
5. 順天堂医院に相応しい上品で清潔な服装と言動
6. エレベーターは患者さん最優先、原則として私語禁止
7. 廊下は患者さん最優先！横に広がらず、どちらか片側を歩く
8. 医療福祉・地域連携を念頭により良いサービスを心がける
9. 十分なインフォームドコンセントの徹底
10. 院内のレストランへの出入りは、患者さんや65歳以上の方が見舞いの方が最優先（混雑時は遠慮すること）

医師の服装、みだしなみについてのマニュアル

医療現場では医師の服装、行動は患者、家族から見られている。患者から信頼感を得られる服装を心がける必要がある。

- 1) ケーシー型白衣着用の際には、下に無地または薄い色の半袖のシャツを着用する。
- 2) 白衣の下に着用するものは、清潔で不快感を与えないものとし、男性が上着型白衣を着用する際には、ネクタイを着用することが望ましい。
- 3) 緊急時を除き、手術着・検査着・スクラブを着用したまま当該部署以外に出てはならない。やむを得ない場合には手術着・検査着・スクラブの上に白衣を着用し、白衣の前ボタンは留める。
- 4) 薄手の黒色ストッキングは避ける。
- 5) 「おしゃれ」と「みだしなみ」は異なることを理解し、就業に相応しい頭髪、化粧を心がける。

医師・職員の服装、みだしなみについての心得

順天堂の歴史と伝統に恥じないように心掛けること。

- 1) 清潔で不快感を与えないこと。
- 2) 緊急時にも速やかに対処できるような動きやすい服装であること。
- 3) ネームプレートは必ずよく見える位置に着用すること。
- 4) 頭髪が肩にかかる場合には束ねたりまとめたりすること。
- 5) アクセサリーは控えること。
- 6) 化粧は清楚で品位のあるものとし、香りにも注意すること。
- 7) 白衣の前ボタンはきちんと留めること。
- 8) 白衣着用したまま、院外施設（コンビニ、レストランなど）へ立ち入らないこと。
- 9) 白衣の下に着用する服装は機能面を重視するが、ジーンズ等の作業着は控えること。
- 10) 素足・派手な柄のストッキング・靴下は避けること。また踵の出るような短い靴下も控えること。
- 11) 靴も機能面に優れたものとする。ブーツ、サンダル（クロックスを含む）、ハイヒールまた派手な色のものは控えること。

緊急事態発生時の連絡マニュアル [学内(院内)での急病等]

～学内での急病、院内実習中の針刺し事故などが起こったとき～

1. 緊急事態（急病、針刺し事故等）の発生時

- ・あなたが目撃者の場合は、救助者として自らの安全を確保する。
必要に応じ応急処置の介助、状況把握に努め、報告等を手伝う。
- ・周囲へ緊急事態であることを知らせ、応急処置を行う。

2. 応急処置（2時間以内に処置を完了）

- ・患者に使用した鋭利物品による受傷の場合（針刺し・切創事故）

1. 傷口を流水でよくすすぐ。（口で吸い出してはならない）
2. ペーパータオルで水気を拭取り、カットバンで保護する。

- ・目や口などに血液・体液が入った時（粘膜曝露事故）

1. 直ちに開口栓の生理食塩水（アイウォッシュ用生理食塩水）でよく洗浄する。
上向き水栓のある部署では水栓を使用する。

※病院の各部署に掲示されているファーストエイドポスターを必ず確認すること。

3. 報告

- ・報告内容：

1. 「急病」「針刺し事故」「血液・体液による汚染」の別など
2. 学生氏名、学年
3. 病状（受傷の状況、および患者氏名・IDなど含む）
4. 応急処置を行ったかどうか など

- ・報告先：

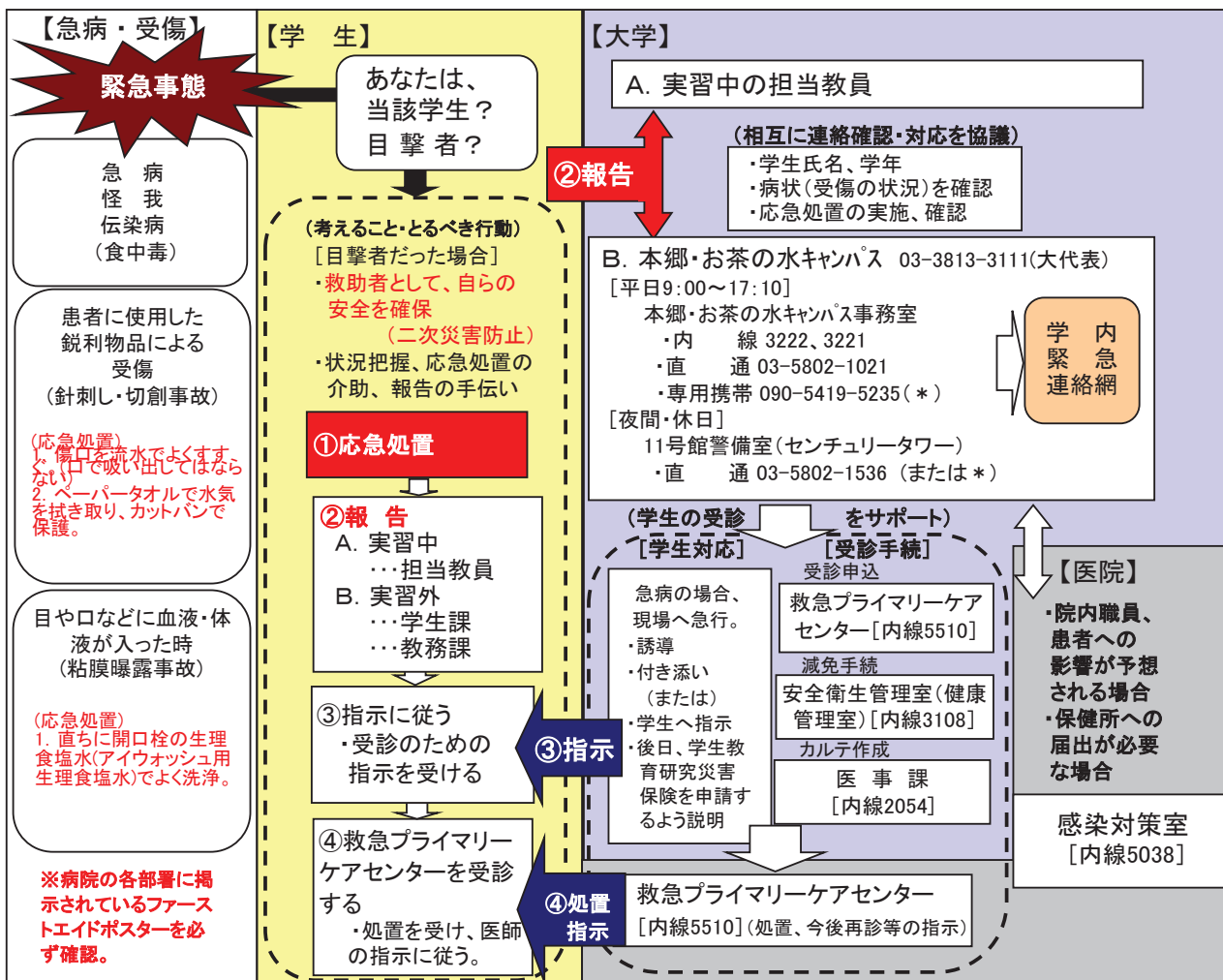
- A. 実習中の場合：担当教員へ報告。（担当教員は学生課・教務課へ連絡し対応を協議）
- B. 実習外の場合：学生課・教務課へ報告

本郷・お茶の水キャンパス事務室 学生課（内線3222）・教務課（内線3221）
救急プライマリーケアセンター（内線5510）への受診申込、カルテの作成など、必要な事務手続を行う。
また必要があれば、現場に急行し、学生に付き添うなどの対策をとる。

4. 救急プライマリーケアセンターを受診

- ・学生課・教務課からの指示に従い、救急プライマリーケアセンターを受診する。
- ・処置を受け、その後の再診等の指示を受ける。

5. 発生から通報・連絡までのフロー



実習中の災害などの緊急時における行動について

実習を行っている時に災害などの緊急事態が発生した場合は、以下の項目に留意して行動してください。

1. 自分自身の安全確保

2. 周りの人の安全確保

救助に伴う2次被害を回避する。

施設における避難活動に協力し、園児・児童の安全確保に努める。

3. 連絡・報告・相談

実習施設、大学、家族等に対して自分自身の状況を連絡する。

4. 組織的な行動をとる

実習施設内では施設内の指揮命令系統に従う。

5. 移動の際は安全第一とする

安全が確認されない場合は、無理して移動せずに、実習施設内に留まること。

移動の際には、出発場所（例：施設）と目的地（例：大学・自宅・避難所）を実習先あるいは大学に連絡のこと。

連絡が難しい場合は、出発場所、目的地、中継点（途中）等のどこかに情報が伝わるように努力する。

6. 大学・病院には備蓄がある

無理して帰宅しない。

施設連絡先

大学（教務課）（直通）03-5802-1019／（大代表）03-3813-3111（内線）3221
（学生課）（直通）03-5802-1021／（内線）3222

E-mail kyomu@juntendo.ac.jp gakusei@juntendo.ac.jp

静岡病院（総務課）（代表）055-948-3111（内線）3103

浦安病院（総務課）（代表）047-353-3111（内線）2051

越谷病院（総務課総務係）（代表）048-975-0321（内線）391

江東高齢者医療センター（総務課）（代表）03-5632-3111（内線）2055

練馬病院（総務課）（代表）03-5923-3111（内線）5910、5903

順天堂大学医学部における臨床実習ガイドライン

本学学生が所定の診療に関する教育を教授されるとき（以下「臨床実習」という。）、学生が行うことのできる診療行為のガイドラインを次のとおり規定する。

1. 学生が臨床実習において診療行為（医業）を行うことができるときの条件

- 1) 診療対象者の状態が安定しており、学生の診療行為が患者にとって精神的・身体的に過度の負担にはならないと判断できること
- 2) 学生の医学知識・技能が十分に高く、その診療行為を遂行するに支障がないと判断できること
- 3) 診療対象者に対して、学生が診療行為を行うこと、およびその内容を説明しておくこと
- 4) これら諸条件を満たすとともに、下記の医師法 17 条の 2 の条件に合致していること

医師法 第十七条の二

大学において医学を専攻する学生であつて、当該学生が臨床実習を開始する前に修得すべき知識及び技能を有しているかどうかを評価するために大学が共用する試験として厚生労働省令で定めるものに合格したものは、前条の規定にかかわらず、当該大学が行う臨床実習において、医師の指導監督の下に、医師として具有すべき知識及び技能の修得のために医業（政令で定めるものを除く。）をすることができる。

2. 学生が行うことのできる診療行為（医業）の内容

- 1) 本学において学生が行うことのできる診療行為を、厚生省の臨床実習検討委員会報告書に提示されている例示をもとに、下表「本学における学生の診療行為ガイドライン」のとおり水準Ⅰから水準Ⅳに区分し、提示する。
- 2) 学生にはできるだけ診療行為を行わせることが望ましいが、学生の知識・能力、診療対象者の状態あるいは病院の性格等を考慮して学生が行う診療行為の内容を特定すること
- 3) これらの水準は一般論として提示され、学生が行うことのできる診療行為の最大限度が示されていること。従って、実際の学生による診療行為は、当該科の教授によって決定される必要があること

本学における学生の診療行為ガイドライン

水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ	水準Ⅳ	
指導医の指示により学生が単独で実施してもよい。	研修医を含む医師・専門技師の指導・監視のもとに実施が許容される。	当該科の医師の指導監視のもとに実施が許容される。	助手以上の医師の指導・監視のもとに実施が許容される。	原則として見学にとどめる。
診 察				
a. 問診 b. 全身の視診、打診、触診、聴診器・打腱器、血圧計等を用いる身体診察 c. パルスオキシメーター d. ピークフロー	a. 直腸診 b. 耳鏡、鼻鏡、検眼鏡による診察 c. 膀胱双手診	a. 内診 b. 産科的診察		

測定				
水準0	水準I	水準II	水準III	水準IV
指導医の指示により学生が単独で実施してもよい。	研修医を含む医師・専門技師の指導・監視のもとに実施が許容される。	当該科の医師の指導監視のもとに実施が許容される。	助手以上の医師の指導・監視のもとに実施が許容される。	原則として見学にとどめる。
検 査				
	<u>(生理学的検査)</u> a. 心音図 b. 脳波 c. 呼吸機能 d. 聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚 e. 視野、視力 f. 眼底検査 <u>(消化管検査)</u> <u>(画像検査)</u> a. 超音波検査（腹部超音波検査、心臓超音波検査等） b. 単純X線検査介助 <u>(採血)</u> a. 耳朶、指先 <u>(穿刺)</u> <u>(産婦人科)</u>	<u>(生理学的検査)</u> a. 眼球に直接触れない検査 <u>(消化管検査)</u> a. 直腸鏡・肛門鏡介助 <u>(画像検査)</u> a. MRI, CT 介助 b. 各種造影検査介助 c. 胃腸管透視介助 <u>(採血)</u> a. 末梢静脈 b. 年長児の静脈 <u>(穿刺)</u> <u>(産婦人科)</u> a. 卵胞計測（経膈超音波） b. 子宮卵管造影介助 c. 膈内容採取 d. コルボスコピー e. 妊婦健診時の触診（腹部・下腿）	<u>(生理学的検査)</u> a. 運動負荷心電図検査介助 b. 眼球に直接触れる検査 <u>(消化管検査)</u> <u>(画像検査)</u> a. 心カテ検査（冠動脈造影・右心カテテル）介助 b. 電気生理学的検査介助 <u>(採血)</u> <u>(穿刺)</u> a. 腰椎 b. 胸・腹腔 c. 体表の嚢胞膿瘍 <u>(産婦人科)</u>	<u>(生理学的検査)</u> a. 筋電図（全般） <u>(消化管検査)</u> a. 胃腸管、気道などの内視鏡検査 <u>(画像検査)</u> a. 気管支造影等造影剤を用いた検査 b. 核医学（アイソトープ）検査介助 <u>(採血)</u> a. 乳幼児の静脈 b. 末梢動脈 <u>(穿刺)</u> a. バイオプシー b. 硬膜外 c. 羊水穿刺 d. 骨髄 e. 小児の腰椎 f. 小児の胸腔 <u>(産婦人科)</u> a. 子宮内操作 b. 正常分娩介助

	<u>(その他)</u>	<u>(その他)</u> a. 抗生物質皮内テスト b. アレルギー検査(貼布) c. 発達テスト	<u>(その他)</u> a. 知能テスト b. 小児のアレルギー検査	<u>(その他)</u> a. 心理テスト b. 腹腔鏡検査
水準0	水準I	水準II	水準III	水準IV
指導医の指示により学生が単独で実施してもよい。	研修医を含む医師・専門技師の指導・監視のもとに実施が許容される。	当該科の医師の指導監視のもとに実施が許容される。	助手以上の医師の指導・監視のもとに実施が許容される。	原則として見学にとどめる。
治 療				
<u>(看護的業務)</u> a. 体位変換、おむつ交換、移送(看護師の指導・監視が必要)	<u>(処置)</u> a. 軟膏処置 b. 皮膚消毒 c. 包帯ガーゼ交換 d. 外用薬貼布塗布 e. ギプス巻き介助 f. シーネ固定 g. ドレーン挿入部の消毒 <u>(注射)</u> a. 皮内、皮下、筋肉 b. 神経ブロック介助 <u>(外科的処置)</u> a. 抜糸 <u>(その他)</u> a. 作業療法介助	<u>(処置)</u> a. 創傷処置 b. カニューレ、バルーンの交換 気管切開のカニューレ交換 c. 気道内吸引 d. ネブライザー e. 導尿、浣腸 f. 胃管の挿入交換 g. ギプス巻き h. 尿道カテ留置 <u>(注射)</u> a. 末梢静脈 b. 留置針刺入 c. 小児の皮内、皮下 <u>(外科的処置)</u> a. 膿瘍切開、排膿の介助 b. 外来における小外科手術の助手 c. 骨折、脱臼徒手整復の介助 <u>(その他)</u> a. 鼠径ヘルニア用手還納介助 b. 人工授精操作(良好運動精子回収) c. 血液透析の開始・終了操作介助	<u>(処置)</u> a. 小児のカニューレ、バルーン交換 <u>(注射)</u> a. 局所麻酔 b. 年長児の末梢静脈 <u>(外科的処置)</u> a. 各種穿刺による排液 b. 手術室における手術助手として、皮膚切開、止血、鉤引き、皮下・皮膚縫合、糸切り、穿頭等 c. 手術時の気道確保喉頭展開、気管内挿管、マスクベンチレーション d. 麻酔表記入 e. 会陰切開縫合術 <u>(その他)</u>	<u>(処置)</u> <u>(注射)</u> a. 中心静脈、動脈 b. 全身麻酔 c. 輸血 d. 幼小児 <u>(外科的処置)</u> a. 止血、縫合 b. 硬膜外針の挿入 <u>(その他)</u> a. 精神療法 b. 吸引、鉗子分娩 c. 眼球に直接触れる治療 d. 子宮内容清掃術・除去術

		d. 光線療法		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ	水準Ⅳ	水準Ⅴ
指導医の指示により学生が単独で実施してもよい。	研修医を含む医師・専門技師の指導・監視のもとに実施が許容される。	当該科の医師の指導監視のもとに実施が許容される。	助手以上の医師の指導・監視のもとに実施が許容される。	原則として見学にとどめる。
救急				
原則として全てが水準Ⅴ、即ち学生は見学にとどめる。但し、状況が許す場合はバイタルサインのチェック等は水準Ⅲ、心臓マッサージ、人工呼吸等は水準Ⅳとする				
そ の 他				
	a. 健康教育 b. カルテ記載 (症状・経過、診察所見、検査所見、診療計画等を学生のサインと共に記入し主治医のサインを受ける)		a. 患者への疾患の説明	a. 患者、患者家族への病状の説明

医学教育モデル・コア・カリキュラム（抜粋）

医師として求められる基本的な資質・能力

1 プロフェッショナリズム

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道（みち）を究めていく。

2 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療<EBM>を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

3 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨くとともにそれらを用い、また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践する。

4 コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な関係性を築き、意思決定を支援する。

5 チーム医療の実践

保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。

6 医療の質と安全管理

患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供する。

7 社会における医療の実践

医療人として求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する。

8 科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考も身に付けながら、学術・研究活動に関与する。

9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続ける。

A 医師として求められる基本的な資質・能力

A-1 プロフェッショナリズム

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道（みち）を究めていく。

A-1-1) 医の倫理と生命倫理

ねらい：

医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶ。

学修目標：

- ①医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。
- ②臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。
- ③ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。

A-1-2) 患者中心の視点

ねらい：

患者及びその家族の秘密を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ。

学修目標：

- ①リスボン宣言等に示された患者の基本的権利を説明できる。
- ②患者の自己決定権の意義を説明できる。
- ③選択肢が多様な場合でも適切に説明を行い患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援する。
- ④インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。

A-1-3) 医師としての責務と裁量権

ねらい：

豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚する。

学修目標：

- ①診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。
- ②患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも

柔軟に対応できる。

- ③医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。
- ④医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。
- ⑤医師の法的義務を列挙し、例示できる。

A-2 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療(evidence-based medicine<EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

A-2-1) 課題探求・解決能力

ねらい：

自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を獲得する。

学修目標：

- ①必要な課題を自ら発見できる。
- ②自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位付けできる。
- ③課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。
- ④課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
- ⑤適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。

A-2-2) 学修の在り方

ねらい：

科学や社会の中で医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、表現する基本的能力（知識、技能、態度・行動）・リベラルアーツを獲得する。

学修目標：

- ①講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
- ②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
- ③実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。
- ④後輩等への適切な指導が実践できる。
- ⑤各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究等）に参加する。

A-3 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨くとともにそれらを用い、また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践する。

A-3-1) 全人的実践的能力

ねらい：

統合された知識、技能、態度に基づき、患者の立場を尊重しながら、全身を総合的に診療するための実践的能力を獲得する。

学修目標：

- ①病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴、システムレビュー等）を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。
- ②網羅的に系統立てて適切な順序で効率的な身体診察を行える。異常所見を認識・記録し、適切な鑑別診断が行える。
- ③基本的な臨床技能（適応、実施方法、合併症、注意点）を理解し、適切な態度で診断や治療を行える。
- ④診療録（カルテ）についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented medical record<POMR>)形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
- ⑤患者の病状（症状、身体所見、検査所見等）、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と意見交換ができる。
- ⑥緊急を要する病態や疾患・外傷の基本的知識を説明できる。診療チームの一員として救急医療に参画できる。
- ⑦慢性疾患や慢性疼痛の病態、経過、治療を説明できる。医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員として慢性期医療に参画できる。
- ⑧患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学・就労、育児・介護等との両立支援を含め患者と家族に対して誠実に適切な支援を行える。

A-4 コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な関係性を築き、意思決定を支援する。

A-4-1) コミュニケーション

ねらい：

医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。

学修目標：

- ①コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
- ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
- ③患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。

A-4-2) 患者と医師の関係

ねらい：

患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を獲得する。

学修目標：

- ①患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
- ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。
- ③患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。
- ④医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。
- ⑤患者の要望（診察・転医・紹介）への対処の仕方を説明できる。
- ⑥患者のプライバシーに配慮できる。
- ⑦患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

A-5 チーム医療の実践

保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。

A-5-1) 患者中心のチーム医療

ねらい：

医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。

学修目標：

- ①チーム医療の意義を説明できる。
- ②医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。
- ③自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。

④保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

A-6 医療の質と安全の管理

患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供する。

A-6-1) 安全性の確保

ねらい：

医療上の事故等（インシデントを含む）や医療関連感染症（院内感染を含む）等は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。

学修目標：

- ①実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。
- ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。
- ③医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。
- ④医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）、やっではないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
- ⑤医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。
- ⑥医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度）を概説できる。
- ⑦医療関連感染症の原因及び回避する方法（院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム（infection control team <ICT>）、感染対策マニュアル等）を概説できる。
- ⑧真摯に疑義に応じることができる。

A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防

ねらい：

医療上の事故等（インシデントを含む）が発生した場合の対処の仕方を学ぶ。

学修目標：

- ①医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。
- ②医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。

- ③医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。
- ④基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フールプルーフの考え方等）を概説し、指導医の指導の下に実践できる。

A-6-3) 医療従事者の健康と安全

ねらい：

医療従事者が遭遇する危険性（事故、感染等）等について、基本的な予防・対処及び改善の方法を学ぶ。

学修目標：

- ①医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。
- ②標準予防策(standard precautions)の必要性を説明し、実行できる。
- ③患者隔離の必要な場合を説明できる。
- ④針刺し事故（針刺切創）等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
- ⑤医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

A-7 社会における医療の実践

医療人として求められる社会的役割を担い、地域・国際社会に貢献する。

A-7-1) 地域医療への貢献

ねらい：

地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。

学修目標：

- ①地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ②医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。
- ③地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ④かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ⑤地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。

⑥災害医療（災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team<DMAT>)、災害派遣精神医療チーム(Disaster Psychiatric Assistance Team<DPAT>)、日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team <JMAT>)、災害拠点病院、トリアージ等)を説明できる。

⑦地域医療に積極的に参加・貢献する。

A-7-2) 国際医療への貢献

ねらい：

国際社会における医療の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。

学修目標：

- ①患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。
- ②地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。
- ③保健、医療に関する国際的課題を理解し、説明できる。
- ④日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。
- ⑤医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。

A-8 科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考も身に付けながら、学術・研究活動に関与する。

A-8-1) 医学研究への志向の涵養

ねらい：

医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。

学修目標：

- ①研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。
- ②生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。
- ③患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。
- ④抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続ける。

A-9-1) 生涯学習への準備

ねらい：

キャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

学修目標：

- ①生涯学習の重要性を説明できる。
- ②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
- ③キャリア開発能力を獲得する。
- ④キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解する。
- ⑤臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。

G 臨床実習

臨床実習は診療参加型を基本形態とする。診療参加型臨床実習は、「指導医や研修医、さらには看護師や薬剤師等の他の職種も含めた診療チームの中で、医学生が診療チームの一員として一定の役割・責任を担いながら行う臨床実習」と定義される。外来で予診をとる役割や、病棟患者の疾患についての知見（エビデンス）を確認する役割、また患者の検査に同行して不安を和らげる役割等が例として挙げられる。診療現場では、医学生が担うことのできる役割は、一般的に指導医が想定しているよりも大きい。正統的周辺参加論を参考に、「些細なことでもよいので臨床現場で実際に役割を担うことによって得られるやりがい」を医学生の学修動機（モチベーション）とできるような臨床実習を構築する。また期間等の関係で見学型の臨床実習にならざるを得ない場合は、学生が臨床現場で観察したことを記録して指導医との振り返りでそれを基に討論するなど、積極的な学びになるように実習を計画する。

G-1 診療の基本

G-1-1) 臨床実習

G-1-1)-(1) 医師として求められる基本的な資質・能力（A 参照）

「A 医師として求められる基本的な資質・能力」（以下、再掲）を常に意識しながら、臨床実習を行う。

- 1 プロフェッショナリズム
- 2 医学知識と問題対応能力
- 3 診療技能と患者ケア
- 4 コミュニケーション能力
- 5 チーム医療の実践
- 6 医療の質と安全の管理
- 7 社会における医療の実践
- 8 科学的探究
- 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

G-1-1)-(2) 診療の基本（F 参照）

「F 診療の基本」の内容を基盤として、臨床の現場で研鑽を積む。

G-1-1)-(3) 学生を信頼し任せられる役割

臨床実習で学生の評価を行う際は entrustable professional activities <EPA>の考え方を参考にする。下記の大項目を枠組みにししながら、それぞれの診療科で「臨床実習で学生にどのような業務を信頼して任せられることができるか」「初期臨床研修の初日にできなければならない業務は何か」について考慮し、実際に行う臨床業務の形で学修目標を設定する。

1. 病歴を聴取して身体診察を行う。
2. 鑑別診断を想定する。
3. 基本的な検査の結果を解釈する。
4. 処方計画を計画する。
5. 診療録（カルテ）を記載する。
6. 患者の状況について口頭でプレゼンテーションする。
7. 臨床上的問題を明確にしてエビデンスを収集する。
8. 患者さんの申し送りを行う・受け取る。
9. 多職種チームで協働する。
10. 緊急性の高い患者さんの初期対応を行う。
11. インフォームド・コンセントを得る。
12. 基本的臨床手技を実施する。
13. 組織上の問題の同定と改善を通して医療安全に貢献する。

G-2 臨床推論

臨床実習では、各診療科で自分が担当する患者について、健康上の問題に関するプロブレムリストを作成する。以下に「F-1 症候・病態からのアプローチ」にある症候・病態ごとに、頻度・重症度を考慮した、想定すべき鑑別診断例を記す。プロブレムごとに、以下の鑑別診断を想定しながら診断に必要な病歴聴取・身体診察をとり、基本的な検査の実施に参加する。なお、このリストは平成30年版医師国家試験出題基準「必修の基本的事項」から抽出した疾患例であり、症候に該当する疾患を網羅しているわけではない。臨床推論では可能性のある病態から疾患を導き出すプロセスが重視され、原因疾患を単純に全て暗記することを期待しているわけではないからである。この推論プロセスの学習により、各論で十分には学んでいない疾患についても、鑑別診断として想定できるようになることを目標とする。

G-2-1) 発熱

感染症：肺炎、結核、尿路感染症

腫瘍：悪性リンパ腫、腎細胞癌

自己免疫：全身性エリテマトーデス(SLE)、炎症性腸疾患

環境：熱中症

G-2-2) 全身倦怠感

感染症・炎症性：結核、肝炎

精神：うつ病、双極性障害

中毒性：アルコール依存症、薬物依存症

内分泌・代謝：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、更年期障害

腫瘍：悪性腫瘍全般

G-2-3) 食思(欲)不振

腫瘍：悪性腫瘍全般

消化器：機能性ディスぺプシア<FD>

呼吸器：慢性閉塞性肺疾患<COPD>

循環器：心不全

精神：うつ病

G-2-4) 体重増加・体重減少

(体重増加)

急性：心不全、ネフローゼ症候群

慢性：甲状腺機能低下症

(体重減少)

腫瘍：悪性腫瘍全般

内分泌：糖尿病、甲状腺機能亢進症

精神：うつ病

感染症：結核

自己免疫：炎症性腸疾患

消化器：慢性膵炎

中毒：アルコール依存症

G-2-5) ショック

循環血液量減少性：急性消化管出血、大動脈瘤破裂、熱傷

心原性：急性心筋梗塞、心筋炎

閉塞性：緊張性気胸、肺塞栓症

血液分布異常性：敗血症、急性膵炎、アナフィラキシー、脊髄損傷

G-2-6) 心停止

心血管：急性心筋梗塞、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂

呼吸器：緊張性気胸、外傷性気胸

神経原性：くも膜下出血、頭部外傷、脊髄損傷

自己免疫：アナフィラキシー

環境：熱中症、寒冷による障害

G-2-7) 意識障害・失神

脳原発性：くも膜下出血、頭蓋内血腫、脳炎

全身性：心筋梗塞、不整脈、肺塞栓症、てんかん、急性消化管出血、肝不全

G-2-8) けいれん

脳血管障害：脳梗塞

中毒：薬物依存症、アルコール依存症

感染症：脳炎、脳症、熱性けいれん

G-2-9) めまい

末梢性：良性発作性頭位めまい症

中枢性：脳出血、脳梗塞

失神性：不整脈、肺塞栓症、弁膜症

心因性：パニック障害

G-2-10) 脱水

消化器：急性消化管出血、乳児下痢症、急性膵炎

内分泌・代謝：糖尿病

環境：熱中症、熱傷

G-2-11) 浮腫

局所性：深部静脈血栓症

全身性：心不全、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、肝硬変、甲状腺機能低下症

G-2-12) 発疹

感染症：ウイルス性発疹症（麻疹、風疹、水痘、ヘルペス）

アレルギー、自己免疫：蕁麻疹、薬疹、全身性エリテマトーデス<SLE>

G-2-13) 咳・痰

感染症：気管支炎、肺炎、副鼻腔炎

腫瘍：肺癌

特発性：間質性肺疾患

自己免疫：気管支喘息

消化器：胃食道逆流症<GERD>

G-2-14) 血痰・咯血

呼吸器：肺結核、肺癌

心血管系：僧帽弁膜症、心不全

出血傾向：白血病、播種性血管内凝固<DIC>

G-2-15) 呼吸困難

呼吸器：肺塞栓症、急性呼吸促(窮)迫症候群<ARDS>、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、緊張性気胸

循環器：心不全

心因性：パニック障害、過換気症候群

G-2-16) 胸痛

呼吸器：肺塞栓症、気胸

循環器：急性冠症候群

消化器：胃食道逆流症<GERD>

心因性：パニック障害

G-2-17) 動悸

循環器：不整脈

二次性：甲状腺機能亢進症

心因性：パニック障害

G-2-18) 胸水

循環器：心不全

呼吸器：肺炎、肺結核、肺癌

消化器：肝硬変、急性膵炎

自己免疫：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>

腎・泌尿器：ネフローゼ症候群

G-2-19) 嚥下困難・障害

神経：脳出血、脳梗塞

呼吸器：扁桃炎、肺癌

消化器：胃食道逆流症<GERD>、食道癌

心因性：身体症状症

G-2-20) 腹痛

消化器：機能的ディスぺプシア<FD>、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患、消化性潰瘍、急性虫垂炎、胆石症、急性

膵炎、腸閉塞、鼠径ヘルニア

泌尿・生殖器：尿路結石、流・早産

循環器：急性冠症候群

心因性：身体症状症

G-2-21) 悪心・嘔吐

消化管：機能的ディスぺプシア<FD>、腸閉塞、食中毒

循環器：急性心筋梗塞

神経：片頭痛、脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫

精神：うつ病

G-2-22) 吐血・下血

(吐血)

食道：食道静脈瘤、食道癌

胃：消化性潰瘍、胃癌

(下血)

上部消化管：食道静脈瘤、消化性潰瘍

下部消化管：炎症性腸疾患、大腸癌

G-2-23) 便秘・下痢

(便秘)

機能性：過敏性腸症候群、甲状腺機能低下症

器質性：腸閉塞、大腸癌

(下痢)

炎症性：急性胃腸炎、炎症性腸疾患

腸管運動異常：過敏性腸症候群、甲状腺機能亢進症

浸透圧性：慢性膵炎

G-2-24) 黄疸

抱合型：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、胆管炎、膵癌

非抱合型：溶血性貧血

G-2-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤

消化管：腸閉塞、大腸癌

腹水：肝硬変、ネフローゼ症候群、心不全

腫瘤：肝癌、卵巣嚢腫

G-2-26) 貧血

鉄欠乏性貧血：消化性潰瘍、痔核、子宮筋腫

造血器腫瘍：白血病、骨髄腫

二次性貧血：肝硬変、慢性腎臓病、アルコール依存症

G-2-27) リンパ節腫脹

感染症：ウイルス性発疹症（風疹・麻疹）、結核

自己免疫：全身性エリテマトーデス<SLE>

腫瘍：悪性リンパ腫、その他の悪性腫瘍全般

G-2-28) 尿量・排尿の異常

（多尿）

浸透圧利尿：糖尿病

中毒：薬剤性

（頻尿）

畜尿障害：尿路感染症、脊髄損傷

排出困難（排出障害）：前立腺肥大症、尿路感染症、前立腺癌

G-2-29) 血尿・タンパク尿

腎臓：糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群、糖尿病腎症、腎細胞癌

尿管、膀胱：尿路結石、尿路感染症、膀胱癌

G-2-30) 月経異常

無月経：妊娠

月経困難：月経困難症、子宮内膜症

不正性器出血：子宮頸癌、子宮体癌

G-2-31) 不安・抑うつ

一次性：うつ病、双極性障害、不安障害

二次性（不安障害）：甲状腺機能亢進症、悪性腫瘍全般

二次性（うつ病）：甲状腺機能低下症、認知症、Parkinson 病、悪性腫瘍全般

G-2-32) もの忘れ

血管：脳梗塞

変性：認知症、Parkinson 病

精神：うつ病

G-2-33) 頭痛

機能性：緊張型頭痛、片頭痛

症候性：髄膜炎、脳出血、くも膜下出血、緑内障、急性副鼻腔炎

G-2-34) 運動麻痺・筋力低下

脳病変：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頭蓋内血腫

脊髄病変：脊髄損傷、椎間板ヘルニア

末梢神経病変：糖尿病

神経筋接合部病変：肺癌

筋病変：甲状腺機能亢進症、アルコール性中毒

G-2-35) 腰背部痛

呼吸器：肺癌

心血管：急性大動脈解離

消化器：胆石症

泌尿・生殖器：尿管結石、腎細胞癌

脊椎：椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、脊椎圧迫骨折、骨髄腫

G-2-36) 関節痛・関節腫脹

単関節炎：痛風

多発関節炎：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>

G-2-37) 外傷・熱傷

一次性：頭部外傷、骨折、外傷性気胸、脊髄損傷、熱傷

二次性：急性大動脈解離、脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫

G-3 基本的臨床手技

ねらい：

基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法について事前に十分理解した上で、指導医の指導・監督の下で自ら実施する、又は指導医の実施を見学し、介助する。

G-3-1) 一般手技

学修目標：

- ①体位交換、移送ができる。
- ②皮膚消毒ができる。
- ③外用薬の貼付・塗布ができる。
- ④気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
- ⑤静脈採血を実施できる。
- ⑥末梢静脈の血管確保を実施できる。
- ⑦中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- ⑧動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
- ⑨腰椎穿刺を見学し、介助する。
- ⑩胃管の挿入と抜去ができる。
- ⑪尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
- ⑫ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
- ⑬注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる。
- ⑭全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。
- ⑮眼球に直接接触れる治療を見学し、介助する。
- ⑯診療録（カルテ）を作成する。
- ⑰各種診断書・検案書・証明書を作成を見学し、介助する。

G-3-2) 検査手技

学修目標：

- ①尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
- ②末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
- ③微生物学検査（Gram 染色を含む）を実施できる。

- ④妊娠反応検査を実施できる。
- ⑤血液型判定を実施できる。
- ⑥視力、視野、聴力、平衡機能検査を実施できる。
- ⑦12誘導心電図を記録できる。
- ⑧脳波検査の記録ができる。
- ⑨眼球に直接触れる検査を見学し、介助する。
- ⑩心臓、腹部の超音波検査を実施できる。
- ⑪経皮的酸素飽和度を測定できる。
- ⑫エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

G-3-3) 外科手技

学修目標：

- ①無菌操作を実施できる。
- ②手術や手技のための手洗いができる。
- ③手術室におけるガウンテクニックができる。
- ④基本的な縫合と抜糸ができる。
- ⑤創の消毒やガーゼ交換ができる。
- ⑥手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

G-3-4) 救命処置

学修目標：

- ①身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- ②一次救命処置を実施できる。
- ③二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

G-4 診療科臨床実習

臨床実習においては、いずれの診療科においても、主要な疾患をもつ患者を担当し、その診療に可能な限り参加することで、以下の学修目標に到達することが望まれる。臨床実習を行う場については、よくある疾患を経験することの重要性等の理由で、大学病院だけでなく、指導医の質・量が十分に保証された地域の医療機関で行うことも推奨される。また病棟だけでなく、外来も積極的に活用し、十分に経験できない診療内容についてはシミュレーション教育も活用

する。総じて全学年を通して、臨床現場を活用した臨床教育を推進することが望まれる。そして、医師として求められる基本的な資質・能力の将来的な獲得に向けて学生が継続的に歩み続けられるようサポートする。なお経験目標になっている項目（「～に参加する」等）については、振り返りの際などにできるだけ経験した内容を言語化するように心がける。

G-4-1) 必ず経験すべき診療科

G-4-1)-(1) 内科

ねらい：

- ①将来、内科医にならない場合にも必要な内科領域の診療能力について学ぶ。
- ②内科医のイメージを獲得する。

学修目標（一部方略を含む）：

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③内科的治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- ④複数の臓器にまたがる問題を統合する視点を獲得する。
- ⑤基本的な内科的診察技能について学ぶ。
- ⑥どのように内科にコンサルテーションすればよいかわかる。

G-4-1)-(2) 外科

ねらい：

- ①将来、外科医にならない場合にも必要な外科領域の診療能力について学ぶ。
- ②外科医のイメージを獲得する。

学修目標（一部方略を含む）：

- ①外科的治療の適応を知る。
- ②手術計画の立案に可能な範囲で参加する。
- ③周術期管理に可能な範囲で参加する。
- ④手術等の外科的治療に可能な範囲で参加する。
- ⑤基本的な外科的手技について学ぶ。
- ⑥どのように外科にコンサルテーションすればよいかわかる。

G-4-1)-(3) 小児科

ねらい：

- ①将来、小児科医にならない場合にも必要な小児科領域の診療能力について学ぶ。
- ②小児科医のイメージを獲得する。

学修目標（一部方略を含む）：

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- ④保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加する。
- ⑤小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加する。
- ⑥基本的な小児科診察技能について学ぶ。
- ⑦どのように小児科にコンサルテーションすればよいかわかる。

G-4-1)-(4) 産婦人科

ねらい：

- ①将来、産婦人科医にならない場合にも必要な産婦人科領域の診療能力について学ぶ。
- ②産婦人科医のイメージを獲得する。

学修目標（一部方略を含む）：

- ①妊婦の周産期診察及び分娩に可能な範囲で参加する。
- ②女性の健康問題に関する理解を深める。
- ③主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ④疾患の病態や疫学を理解する。
- ⑤手術を含めた婦人科的治療に可能な範囲で参加する。
- ⑥基本的な婦人科診察技能について学ぶ。
- ⑦どのように産婦人科にコンサルテーションすればよいかわかる。

G-4-1)-(5) 精神科

ねらい：

- ①将来、精神科医にならない場合にも必要な精神科領域の診療能力について学ぶ。
- ②精神科医のイメージを獲得する。

学修目標（一部方略を含む）：

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③精神科的治療に可能な範囲で参加する。
- ④基本的な精神科面接技法について学ぶ。
- ⑤どのように精神科にコンサルテーションすればよいかわかる。

G-4-1)-(6) 総合診療科

ねらい：

- ①どの科の医師になっても求められる総合診療能力について学ぶ。
- ②総合診療医のイメージを獲得する。

学修目標：

- ①病歴・身体診察を重視した診断推論（診断が見つからない場合を含む）を組み立てる、又はたどる。
- ②健康問題に対する包括的アプローチ（複数の健康問題の相互作用等）を体験する。
- ③家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療に可能な範囲で参加する。
- ④在宅医療を体験する。
- ⑤多職種連携を体験してその重要性を認識する。
- ⑥臨床現場において、保健・医療・福祉・介護に関する制度に触れる。

G-4-1)-(7) 救急科

ねらい：

- ①どの科の医師になっても求められる救急診療能力について学ぶ。
- ②救急科医のイメージを獲得する。

学修目標：

- ①呼吸、循環を安定化するための初期治療を学ぶ。
- ②症候をベースとした診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ③チーム医療の一員として良好なコミュニケーションを実践できる。
- ④家族や地域といった視点を持ち、保健・医療・福祉・介護との連携を学ぶ。

⑤救急隊員との連携を通じて、病院前救護体制とメディカルコントロールについて学ぶ。

⑥地域の災害医療体制について学ぶ。

G-4-2) 上記以外の診療科

上記以外の診療科（皮膚科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、形成外科、リハビリテーション科、歯科口腔外科等）については、それぞれの大学の状況に合わせて以下のねらい・学修目標を参考に、臨床実習を計画・実施する。

ねらい：

①将来、該当診療科の医師にならない場合にも必要な該当診療科領域の診療能力について学ぶ。

②該当診療科の医師のイメージを獲得する。

学修目標：

①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。

②疾患の病態や疫学を理解する。

③該当診療科の治療に可能な範囲で参加する。

④該当診療科の基本的な診察技能について学ぶ。

⑤どのように該当診療科にコンサルテーションすればよいかわかる。

G-4-3) 地域医療実習

ねらい：

地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶ。

教育方略：

①学外の臨床研修病院等の地域病院や診療所、さらに保健所や社会福祉施設等の協力を得る。

②必要に応じて臨床教授制度等を利用する。

③早期臨床体験実習を拡充し、低学年から継続的に地域医療の現場に接する機会を設ける。

④衛生学・公衆衛生学実習等と連携し、社会医学的（主に量的）な視点から地域を診る学習機会を作る。

⑤人類学・社会学・心理学・哲学・教育学等と連携し、行動科学・社会科学的（主に質的）な視点から地域における生活の中での医療を知り体験する学習機会を作る。

G-4-4) シミュレーション教育

ねらい：

医療安全の観点から臨床現場を想定した環境でシミュレーションによるトレーニングを積むことで、実際の臨床現場で対処できるようになる。

教育方略：

- ①シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- ②模擬患者の協力を得て、臨床技能（コミュニケーションスキルを含む）や医療者に求められる態度を身に付ける。
- ③シナリオを用いたトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を獲得する。
- ④チームトレーニングによって、チーム医療の実践能力を高める。
- ⑤振り返りによって自己省察能力を高める。

個人情報保護方針

順天堂医院は、「患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。」ことを基本方針の一つに掲げ、日々努力を重ねております。患者さんの個人情報につきましても、その重要性に鑑み、個人情報保護に関する方針を以下のとおり定め、教職員および関係者に周知徹底を図り、履行いたします。

1. 個人情報の適正な取得について

当院は患者さんの個人情報を取得する際には、適正な方法により行います。取得に際しては、原則として、利用目的を公表し、利用目的を変更した場合も変更した利用目的を公表します。なお、利用目的の変更は、変更前の利用目的と関連性を有すると合理的に認められる範囲で行いません。

2. 個人情報の利用および提供について

当院は、患者さんの個人情報の利用につきましては、原則として、前項の利用目的達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取り扱いません。

また、不適切な方法により患者さんの個人情報を利用いたしません。

3. 個人データの安全管理について

当院は、1項の利用目的達成に必要な範囲内において、個人データを正確かつ最新の内容に保ち、漏洩、滅失又は毀損の防止その他の個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

4. 個人データの開示、訂正・利用停止等について

当院は、患者さんの個人データについて、患者さんが開示を求められた場合には、原則として、遅滞なく開示いたします。また、患者さんから、その個人データの訂正、追加、削除、利用停止、消去、第三者への提供の停止を求められた場合も、法令に従い、調査し適切に対応いたします。

5. お問い合わせの窓口

当院の個人情報保護方針に関してのご質問や患者さんの個人情報のお問い合わせは、次の窓口でお受けいたします。

窓 口 「患者さん相談コーナー」(1号館1階)

6. 法令の遵守と個人情報保護の仕組みの改善

当院は、個人情報の保護に関する日本の法令、その他の規範を遵守するとともに、上記の各項目の見直しを適宜行い、個人情報保護の仕組みの継続的な改善を図ります。

2022年11月30日 順天堂大学医学部附属順天堂医院 院長

－ 患者さんの個人情報の保護に取り組んでいます－

当院は、個人情報を次の目的に利用し、その取り扱いには細心の注意を払っております。個人情報の取り扱いについてお気づきの点は、窓口（患者さん相談コーナー）までお申し出ください。

－ 患者さんの個人情報保護に取り組んでいます －

当院は、個人情報を次の目的に利用し、その取り扱いには細心の注意を払っております。
個人情報の取り扱いについてお気づきの点は窓口患者さん相談コーナーまでお申し出ください。

順天堂大学医学部附属順天堂医院 院長

順天堂大学医学部附属順天堂医院 個人情報の利用目的

1. 医療提供

- 当院での医療サービスの提供
- 他の順天堂大学医学部附属病院との診療連携
- 順天堂大学医学部附属さくらキャンパス診療所と統一の医療情報システムを用いての情報共有
- 他の病院、診療所等との連携
- 他の医療機関などからの紹介への回答
- 患者さんの診療のため、外部の医師などの意見・助言を求める場合
- 検体検査業務の委託その他の業務委託
- ご家族等への病状説明
- その他、患者さんへの医療提供に関する利用

2. 診療費請求のための事務

- 当院での医療・介護・労災保険、公費負担医療に関する事務およびその委託
- 審査支払機関へのレセプトの提出
- 審査支払機関または保険者からの照会への回答
- 公費負担医療に関する行政機関などへのレセプトの提出、照会への回答
- その他、医療・介護・労災保険、および公費負担医療に関する医療保険事務に関する利用

3. 当院の管理運営業務

- 会計・経理
- 医療事故などの報告
- 当該患者さんの医療サービスの向上
- 入退院などの病棟管理
- その他、当院の管理運営業務に関する利用

4. 企業等から委託を受けて行う健康診断などにおける、企業等へのその結果の通知

5. 医師賠償責任保険などに係る、医療に関する専門の団体、保険会社等への相談または届出等

6. 医療・介護サービスや業務の維持・改善のための基礎資料

7. 当院内において行われる医療実習・教育への協力

8. 医療の質の向上を目的とした当院および学校法人 順天堂における学術研究

- 研究活動を実施する際に、実施に関する法令や倫理指針、関係団体等のガイドライン等が定められている場合は、それに沿って誠実に遂行いたします。
- 学術研究を目的として個人情報を取り扱う場合には、従前通り患者さんのプライバシーに配慮し、匿名化する等の措置を講じ個人情報の適切な取り扱いをしてまいります。

9. 外部監査機関への情報提供

10. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、がん対策基本法に基づく情報提供

11. 災害等非常時に備えたバックアップのための診療録等データの外部保存

* 上記のうち、他の医療機関などへの情報提供について同意しがたい事項がある場合には、その旨を「患者さん相談コーナー」にお申し出ください。

* お申し出がないものについては、患者さんに同意していただいたものとして取り扱わせていただきます。

* これらのお申し出は、後からいつでも撤回、変更などをすることが可能です。

当院は、患者取り違え防止等、業務を安全で適切に実施するため、受付でのお呼び出しや病室における名札の掲示など”フルネーム”で対応しております。ご希望されない場合には、外来受付または病棟ステーションにお申し出ください。

順天堂医院 医療倫理

本院職員は、下記の指針に基づいて安全かつ質の高い医療を提供します。

1. 模範的な行動

- (1)自分たちの過ちを認め、経験から学ぶ。
- (2)ヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデントは遅滞なく報告する。
- (3)病院のポリシーを遵守する。

2. 容認できない行動

- (1)職場での安全上の問題を無視する。
- (2)医療コンフリクトをマネジメントしない。
- (3)個人情報を院外へ持ち出す。

接遇マナーの 10 か条

1. 順天堂の歴史と伝統に恥じない上品な服装と態度
2. 第一印象は 3 秒で決まる
3. 一日のはじまりは挨拶から
4. 正しい言葉づかいと笑顔
5. 目礼のすすめ
6. 白衣・名札を正しく着用
7. 聴診器は首からかけない
8. 「サンダル履き（クロックス含む）」は禁止
9. 一般病棟での「手術着・検査着 着用」の禁止
10. エレベーターでは「患者優先・私語禁止」

順天堂医院 臨床における倫理指針

本職員は、医療を受ける人々の人権に十分配慮し、本指針に従って質の高い医療を提供します。

1. 医師・看護師・メディカルスタッフがそれぞれの専門性を発揮しつつ、情報を十分に共有し、最善の医療を提供します。
2. 十分な説明を行い、患者さん一人ひとりの意思を尊重して治療方針を決定します。
3. 関係法令、指針を遵守し、治療を行います。
 - (1) 母体保護に係る法令を遵守します。
 - (2) 臓器移植に係る法令を遵守します。
 - (3) 胎児診断、生殖補助医療に係る指針を遵守します。
 - (4) 人生の最終段階における医療の決定プロセスに係る指針を遵守します。
 - (5) 医薬品の臨床試験の実施基準に関する省令を遵守します。
 - (6) 臨床研究に関わる法令、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守します。
 - (7) ヘルシンキ宣言、リスボン宣言等を遵守します。
4. 医療を受ける人々の権利、尊厳にかかわる医療、倫理的な課題への対応が必要と考えられる医療行為については、順天堂大学医学部附属順天堂医院における医療行為の倫理に関する臨床倫理コンサルティングチーム定例検討会等での審議を行った上で、治療方針を決定します。
 - (1) 安楽死、尊厳死、延命治療などの生命の尊厳にかかわるもの
 - (2) 医療を受ける人々の信仰、信条に関わるもの 他
5. 医療の発展のために臨床研究を積極的に行い、その実施にあたっては、順天堂大学臨床研究審査委員会、医学系研究等倫理委員会、治験審査委員会等における審査を経ます。

研究の実施にあたっては、参加される患者さんの人権の保護を徹底します。

順天堂医院 職業倫理

「人ありて我あり、他を思いやり、慈しむ心」これ即ち「仁」。学是「仁」の精神で、病める方々中心の医療を大切にする。

1. 職業の尊厳と責任を自覚するとともに、医療の知識と技術の習得に努め、その進歩・発展に尽くす。
2. 医療を受けるすべての人に対し、医療安全と心の通った接遇による医療サービスを何より大切に、最新、最高の医療を提供すべく、順天堂人として全職員が最善を尽くすよう努める。
3. プライバシーの尊重と守秘義務を遵守する。
4. 互いに尊敬し、良き協力関係のもと、チーム医療の実践に努める。

2025年度 M2～M6 ナンバリング

【医学部2年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
基礎医学	INBM 201	INBM : Integrative Basic Medicine	ZoneA	組織学(各論)/神経解剖学
	INBM 202		ZoneB	生化学/発生/症例検討
	INBM 203		ZoneC	動物生理学/植物生理学/薬理学/症例検討
	INBM 204		ZoneD	感染・免疫/症例検討
体験実習等	ANA 101	ANA:Anatomy	Unit1	解剖学
	PDBS 101	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	基本手技	
	PDBS 110		救急医学実習	
	PDBS 120		医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム	
	PDBS 130		施設実習(早期医療・地域医療体験・多職種連携実習)	
	PFR 101	PFR : Preparation For Research	医学研究 I	
PDBS 010	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	OSCE運営補助		
語学	ENG 201	ENG : English	English	English for Medicine I

【医学部3年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
基礎医学	SMGH 101	SMGH : Social Medicine & Global Health	ZoneE	社会医学序論/疫学・統計学・数理科学
	INBM 207	INBM : Integrative Basic Medicine	ZoneF	病理・病態/症例検討
臨床医学	IRM 201	IRM : Introdtion to Research Medicine	基礎ゼミナール	
	INCM 313	INCM : Integrative Clinical Medicine	GroupZERO	腫瘍総論
	INCM 301		Group1	消化器・外科一般
	INCM 303		Group2	心臓・血管・呼吸・胸郭・縦隔
	INCM 305		Group3	腎・生殖・泌尿器
	INCM 306		Group4	脳神経・精神・心身・老年医学
	INCM 309		Group5	感覚器・運動
INCM 302	Group6	内分泌・代謝・栄養・アレルギー・膠原病・免疫・血液		
体験実習等	PDBS 210	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	医療面接実習	
	PDBS 220		診察技法	
	PDBS 201		基本手技	
	PDBS 230		医療体験実習(病棟体験実習・IC実習)	
語学	ENG 301	ENG : English	English	English for Medicine II

【医学部4年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床医学	INCM 311	INCM : Integrative Clinical Medicine	Group7	小児・周産期
	INCM 312		Group8	皮膚・頭頸部・感染症・中毒・災害・漢方
	INCM 300		Group9	臨床医学総論(症候論/臨床疫学・EBM)/ 感染症・感染制御/外科/救急・災害/腫瘍学・緩和医療/ 放射線/病理/臨床薬理/社会医学/倫理・医療安全/輸血/ /医療面接/AI)
行動科学・社会医学	SMGH 102	SMGH : Social Medicine & Global Health	行動科学Ⅱ・社会医学	
臨床実習	PDBS 310	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	臨床実習前トレーニング	
	CBM 400番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M4 臨床コア実習	
語学	ENG 401	ENG : English	English	Clinical Skills for International Medicine

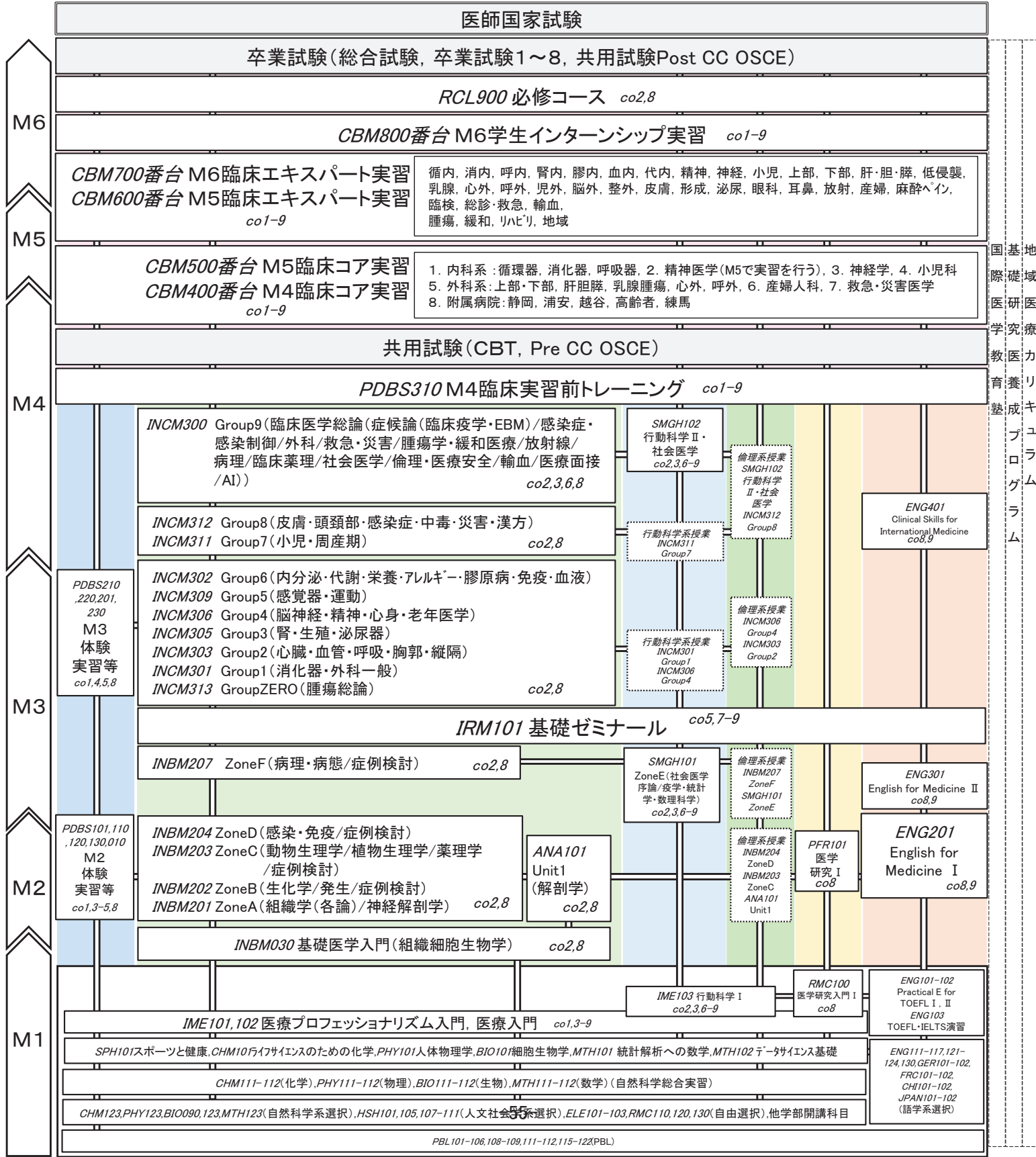
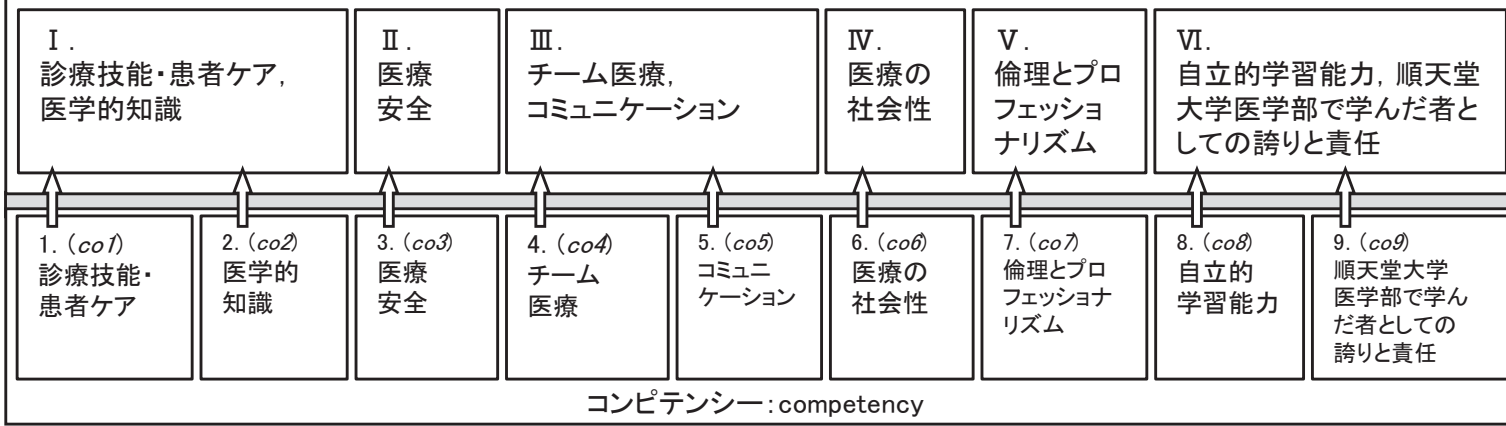
【医学部5年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床実習	CBM 500番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M5 臨床コア実習	
	CBM 600番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M5 臨床エキスパート実習	

【医学部6年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床実習	CBM 700番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M6 臨床エキスパート実習	
	CBM 800番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	学生インターンシップ実習(選択コース)	
必修講義	RCL 900	RCL: Required Clinical Lecture Series	必修コース	

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)



地域
基礎
臨床
研究
学際
教育
養成
プログラム

医学部カリキュラム概略図（2025年度）

[前期]

学年 / 月	4月	5月	6月	7月	8月
1年次	入学式・入学式 オリエンテーション TOEFL試験 フレッシュマンキャンパス	必修科目 TOEFL・IELTS演習 スポーツと健康 ライフサイエンスのための化学 人体物理学 細胞生物学 統計解析への数学	早期体験実習 病院見学	医療プロフェッショナリズム入門	医療プロフェッショナリズム入門
				医療入門	医療入門
				医学研究入門Ⅰ	医学研究入門Ⅰ
				Practical English for TOEFL I	Practical English for TOEFL I
				Practical English for TOEFL II	Practical English for TOEFL II
				TOEFL・IELTS演習	TOEFL・IELTS演習
				選択必修科目 自然科学総合実習 (化学/物理/生物/数学)	自然科学総合実習 (化学/物理/生物/数学)
				選択科目 自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目	自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目
					前期試験週間
					夏季休暇

2年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone A 組織学(各論) [実習]組織学	Zone A 組織学 試験	神経解剖学 [実習]脳解剖学	Zone A 神経解剖学・実習 試験	施設実習	Zone B 生化学/発生 [実習]生化学・分子生物学	Zone B 生化学・発生 試験	夏季休暇
		基礎医学 Unit 1 解剖学 [実習]人体解剖					Unit 1 解剖学 試験	Zone A 組織学 再試験	
		English					English 試験	(体験実習)	

3年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone E 社会医学序論/疫学・統計学・数理科学 [実習]疫学・統計学	Zone E 総合試験	Zone F 病理・病態 [実習]病理学総論	Zone F 総合試験	基礎ゼミナール	Zone F 総合再試験	全体発表会	夏季休暇
		English				English 試験	発表会		
						English 試験	発表会		

4年次	新学期オリエンテーション	臨床医学 Group7 小児・周産期	G7 総合試験	臨床医学 Group8 皮膚・頭頸部・感染症・ 中毒・災害・漢方	G8 総合試験	行動科学Ⅱ 社会医学 [実習]行動科学Ⅱ社会 医学/法医学 基本手技	G9 総合試験	Group9 臨床医学総論(症候論(臨床疫学・EBM)/ 感染症・感染制御/外科/救急・災害/ 腫瘍学・緩和医療/放射線/病理/臨床薬理/ 社会医学/倫理・医療安全/輸血/医療面接/A)	夏季休暇		
		(OSCE・CBTの自己学習)				G7総合 再試験	G8総合 再試験	G9総合 再試験		OSCE・CBTの自己学習	G9総合 再試験
		English				English 試験	English 試験				

5年次	新学期オリエンテーション	M5 臨床コア実習			M5 臨床エキスパート実習	夏季休暇
		(ローテーション⑥)	(ローテーション⑦)	(ローテーション⑧)	M4、M5臨床コア実習でロー テーションしていない診療科を 1年間かけてローテーションす る。	
		海外実習(1エピソード)			海外実習前トレーニング(診断法、プレゼンテーション 等)	

6年次	新学期オリエンテーション	M6 臨床エキスパート実習	学生インターンシップ実習 (選択コース)				必修コース	総合試験	夏季休暇	
			期間	(第1クール)	(第2クール)	(第3クール)				(第4クール)
		学内 学外	臨床科での診療参加型実習							
	海外	海外臨床実習・報告会								

初期臨床研修医
大学院医学研究科

(医学部附属病院) 順天堂医院、静岡病院、浦安病院、練馬病院 / (その他)

[後期]

9月		10		11		12		1月		2		3月	
PBL・データサイエンス基礎	必修科目	医療プロフェッショナリズム入門		行動科学		Practical English for TOEFL I		TOEFL I		基礎医学入門		早期体験実習	
		行動科学		Practical English for TOEFL II		TOEFL II		基礎医学入門定期試験		看護実習			
		Practical English for TOEFL I		TOEFL・IELTS演習		TOEFL・IELTS演習		組織細胞生物学 [実習]組織学		基礎医学入門定期試験			
		Practical English for TOEFL II		スポーツと健康		スポーツと健康		再試験期間		基礎医学入門定期試験			
		TOEFL・IELTS演習		ライフサイエンスのための化学		ライフサイエンスのための化学		後期試験週間・追試験		基礎医学入門定期試験			
		スポーツと健康		人体物理解学		人体物理解学				基礎医学入門定期試験			
		ライフサイエンスのための化学		細胞生物学		細胞生物学				基礎医学入門定期試験			
		人体物理解学		統計解析への数学		統計解析への数学				基礎医学入門定期試験			
		細胞生物学		自然科学総合実習		自然科学総合実習				基礎医学入門定期試験			
		統計解析への数学		自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目		自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目				基礎医学入門定期試験			
選択必修科目		自然科学総合実習		自然科学総合実習									
選択科目		自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目		自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目									

PBL (Problem Based Learning) : 水と生命/法則と方程式/プログラミングとアルゴリズム/素粒子の α β γ /医療の思想と倫理/Medicine from a Global Perspective
 生物の多様性/Can we trust diet studies?/ことばの力、the power of words/医事ニュースを読み解く統計学/健康を支える科学/顕微鏡の原理と応用/Listening Skills: Development and Assessment
 バイオマテリアルと医療/身近な毒との微妙な関係/Health Economics/Diversity in culture, language use, and language learning/患者さんから見た医療/AIと医療

Zone C						Zone D					
動物生理学/ 植物生理学/薬理学			感染・免疫			[実習] 微生物学/免疫学/寄生虫学			[実習] 微生物学/免疫学/寄生虫学		
基礎医学 Unit 1			解剖学			English			基礎医学研究医選択コース		
[実習]人体解剖			基本手技試験			English			基礎医学研究医選択コース		
(体験実習) 医学研究 I / OSCF運営補助 / 救急医学実習 / 医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム						基礎医学研究医選択コース					
基本手技						基本手技					

臨床医学 Group ZERO					医療体験実習					臨床医学 Group ZERO					
腫瘍総論		Group 1 消化器・外科一般		Group 2 心臓・血管・呼吸 胸郭・縦隔		Group 3 腎・生殖・泌尿		Group 4 脳神経・精神・ 心身・老年医学		Group 5 感覚器・運動		Group 6 内分泌・代謝・栄養・ アレルギー・膠原病・免疫・ 血液		Group 6 内分泌・代謝・栄養・ アレルギー・膠原病・免疫・ 血液	
G0 総合試験		G1 総合試験		G2 総合試験		G3 総合試験		医療面接実習		G4 総合試験		G5 総合試験		G6 総合試験	
診察技法		診察技法		診察技法		診察技法		G2 総合試験		診察技法		診察技法		診察技法	

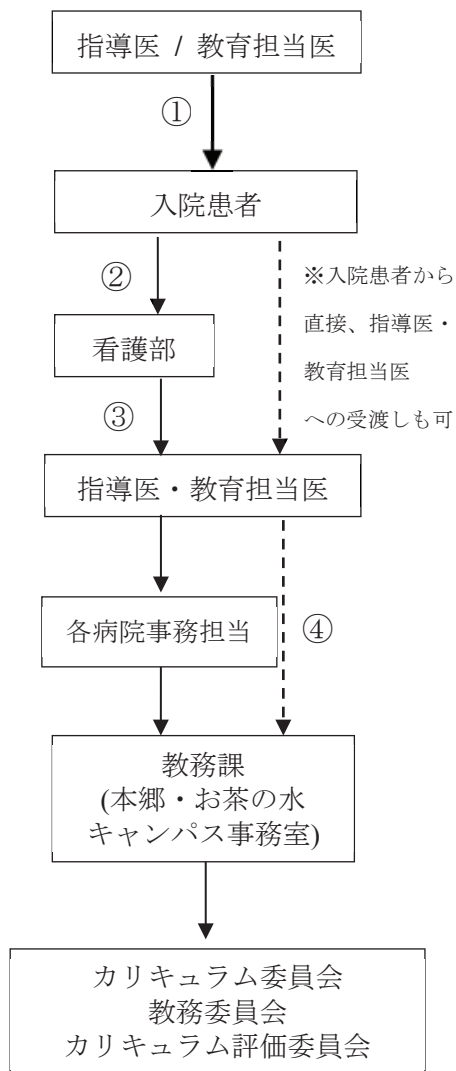
臨床実習前トレーニング				M4 臨床コア実習				M4 臨床コア実習							
1. 内科系：循環器、消化器、呼吸器		2. 精神医学 (M5で実習を行う)		3. 神経学		4. 小児科		5. 外科系：上部・下部消化管、肝胆臓、 乳腺・内分泌、心臓血管外科学、 呼吸器外科、低侵襲外科		6. 産婦人科		7. 救急・災害医学		8. 附属病院：静岡、浦安、越谷、高齢者、練馬	
海外実習(インターンシップ)				海外実習前トレーニング (診断法、プレゼンテーション 等)				海外実習(インターンシップ)							

M5 臨床エキスパート実習				M5 臨床エキスパート実習			
(診療科)				BLS 総合試験			
循環内、消化内、呼吸内、腎内、膵内、血内、代内、精神、神経、小児、上部、下部、肝・胆・膵、低侵襲、乳腺、心外、呼外、児外、 脳外、整外、皮膚、形成、泌尿、眼科、耳鼻、放射、産婦、麻酔、臨床、総合・救急、輸血、腫瘍、緩和、リハビリ、地域				BLS 総合試験			
選択実習、海外実習				選択実習、海外実習			
海外実習(インターンシップ)				海外実習前トレーニング (診断法、プレゼンテーション 等)			

卒業試験期間				卒業判定				自己学習期間				自己学習期間				医師国家試験		卒業証書授与式	
卒業試験1: 消化内/上部/下部/肝胆膵/泌尿器/呼吸器		卒業試験5: 皮膚/眼/耳鼻/整形/形成		卒業補助試験A		語学試験		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		医師国家試験		卒業証書授与式			
卒業試験2: 精神/神経/脳外/リハ		卒業試験6: 腎内/泌尿/代内/膠原病		卒業補助試験B		卒業補助試験C		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		医師国家試験		卒業証書授与式			
卒業試験3: 循環内/呼吸内/心外/呼外		卒業試験7: 小児/児外/産婦人科		卒業補助試験C		卒業補助試験D		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		医師国家試験		卒業証書授与式			
卒業試験4: 血液/腫瘍内科/臨床検査/人本看護/高齢医療/緩和		卒業試験8: 総合診療/救急/公衆衛生/衛生/法医学/救急		卒業補助試験D		総合試験用試験		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		自己学習期間 (学習支援)		医師国家試験		卒業証書授与式			

【アンケート実施手順】

【凡例】医学生のアンケート流れ



①アンケートの準備と記載依頼

教育担当医・指導医：実習学生からアンケート用紙を受け取り、患者さんに「医学生に関する患者さんへのアンケート」依頼

②アンケート用紙の回収

医師は、病棟師長保管の封筒にアンケート対象患者氏名と回収期限を記載し、病棟師長または代行主任に回収を依頼する。

記載済みのアンケート用紙は、回収した看護師が封筒に入れ、かつ封筒記載の該当患者氏名をチェックする。

(封筒の使用に関しては一例になりますので、回収方法に関しては各診療科の任意の方法で構いません。)

※但し、医師が患者に直接アンケートのヒアリングをし、用紙を回収した場合は、前述一連の作業を医師が行う。

③アンケートの集計

看護部・指導医は用紙を回収後、教育担当医に届ける。

(看護部から直接、本郷・お茶の水キャンパス事務室(教務課)への受渡しも可)

④(順天堂医院での実習の場合)

アンケート用紙を本郷・お茶の水キャンパス事務室(教務課)へ届ける。

(本郷以外の附属病院での実習の場合)

アンケート用紙を学生教育の担当部署を介して、本郷・お茶の水キャンパス事務室(教務課)へ届ける。

患者さんへのお願い ～医学生に関するアンケート～

年 月 日

病院名： _____

診療科： _____

順天堂大学では多くの学生が医学教育実習のため研修させていただいています。医学生の教育の一環として、患者さんからの医学教育実習の評価を定期的にいただいております。

今回、担当している医学生の _____ に関して、以下のアンケートにお答えいただければ幸いです。

本アンケート結果は、今後の医学生に対する教育目的で使用いたします。

病気療養中のところ大変恐れ入りますがよろしく願い申し上げます。しかしながら、諸般の事情でご記入いただけなくとも、診療には一切影響ございませんのでご安心下さい。

【該当するものを丸で囲んでください】

- | | | | |
|---|----|-----|-------|
| 1. 毎日（土曜休日を除く）お部屋にきましたか？ | はい | いいえ | わからない |
| 2. 言葉づかいは丁寧でしたか？ | はい | いいえ | わからない |
| 3. よく勉強しているようでしたか？ | はい | いいえ | わからない |
| 4. 「やさしさ」はありましたか？ | はい | いいえ | わからない |
| 5. よい相談相手でしたか？ | はい | いいえ | わからない |
| 6. 他の職種（看護師・薬剤師・理学療法士・検査技士等）とよく協力していましたか？ | はい | いいえ | わからない |
| 7. 信頼できる医師になりそうですか？ | はい | いいえ | わからない |

その他医学教育実習のことでお気づきの点がありましたら遠慮なくご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

※ 必要な項目にチェックしてください。（医師記入）

記入後は、恐れ入りますがナースステーションにご提出ください。

記入後は、看護師が回収に参ります。それまでお待ちください。

臨床実習（コア科実習）

1. コア科実習の一般目標・到達目標（内科系/外科系/プライマリケア）

一般目標

1. 臨床研修の基本となるコア科に必要な基本的態度・技能・知識を体験する。
2. 医師として、必要な基本的臨床能力（態度，知識，技能）を身につける。
3. 臨床実習の意義を理解し、積極的に学習する。

※ここで掲げたものは、順天堂附属病院におけるコア科（内科系、外科系、プライマリケア）実習において学習する事項である。

行動目標

1. 基本的な知識・技能・態度

1) 患者と医師との関係

(1) 医療面接

- ・患者と医師の良好な関係の構築について理解する。
- ・コミュニケーションスキルの重要性を理解する。

(2) インフォームドコンセントの理解と指導医と現場を体験する。

(3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮を行う。

2) 基本的な身体診察：病歴の把握と所見のシステムレビューの作成

2. 医師として必要な基本的な知識と態度

1) 医療人に求められる社会における責任とニーズを学ぶ。

2) 順天堂における基本的な理念などを理解する。

3) チーム医療の理解

4) 医療チーム（指導医・上級医師・上級生・同級生・下級生・コメディカル）への積極的な参加

5) 同僚・後輩に対する指導・アドバイス

6) 問題対応能力

(1) 患者や病態の把握と問題点の抽出と整理

(2) EBMを理解し、臨床現場での応用を試みる。

(3) 自己の問題解決能力の評価を受ける。

(4) 症例報告とカンファレンスへの参加と発表

(5) 臨床研究の理解とそのアプローチ

(6) 生涯教育の理解

7) 安全管理

(1) 自己の健康管理の理解と実行

(2) 医療上の患者・家族・医療チームの安全管理の理解

(3) 医療事故の理解と防止への努力

(4) 院内感染対策の理解と防止への努力

8) 医療の社会性

(1) 保険医療の理解

(2) 医の倫理と生命倫理について問題を体験する。

3. 基本的な検査の理解・実行（医学生の医行為レベルに準拠）

1) 一般尿検査

2) 便検査

3) 血算 (赤血球・白血球・血小板、これらに関する指標)
4) 血液型と輸血関連事項
5) 心電図・負荷心電図
6) 動脈血ガス
7) 血液生化学
8) 血液免疫血清学的検査
9) 細菌学検査
(1) 検体採取の理解と実行
(2) 塗抹検査
10) 肺機能検査
11) 髄液検査
12) 細胞診・病理検査・検体処理
13) 内視鏡検査：消化管・気道・腹腔鏡など
14) 超音波検査
15) 単純 X 線写真
16) 造影 X 線写真
17) X 線 CT
18) MRI
19) 核医学検査
20) 神経生理学的検査
4. 基本的手技：順天堂大学 学生医行為のレベルに準拠
5. 基本的治療：基本的な理解と選択
1) 療養指導：安静度・食事・入浴・排泄・環境など
2) 薬物療法：作用・副作用・相互作用
3) 輸血：成分・副作用と対応
4) 基本的な輸液
5) 理学療法
6) その他
6. 医療記録（指導と共に体験）
1) 診療録の記載と管理
2) 退院要約の記載
3) 処方箋・指示票の作成と管理
4) 診断書などの証明書
5) 療養計画書・治療計画書
6) CPC への参加（臨床研修医）
7) 紹介状とその返事
8) 症例報告などカンファレンスの参加と資料作成
7. 頻度の高い・重要な症候の理解：医師国家試験出題基準（必修項目）に準拠
8. 初期救急
1) 院内での急患者の診療を体験する。
2) 1 次救命処置（BLS）を理解する。
3) 救急現場での必要な事項（協力者の呼び出し、基本的な準備など）を理解する。

4) バイタルサインの情報入手と解釈を体験する。
5) 2次救命処置 (ACLS) を理解する。
6) 蘇生チームの活動を体験する。
9. 外科系コア科実習
1) 臨床外科学の基本概念の理解
(1) 一般目標：外科的治療・基本的臨床手技に関する知識を得ると共に周術期管理の基本を学ぶ。
(2) 行動目標
①手術の危険因子(risk factors)を列挙し、その対応の基本を説明できる。
②手術に関するインフォームドコンセントの注意点を列挙できる。
③基本的バイタルサインの意義とモニターの方法を説明できる。
④周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。
⑤創感染の徴候と処置法を説明できる。
⑥創傷治癒機転とそれに影響を与える因子を説明できる。
⑦術後発熱の原因を列挙し、鑑別方法を説明できる。
⑧主要な術後合併症を列挙し、その予防方法の基本を説明できる。
⑨経鼻胃管の適応と管理上の注意点を列挙できる。
⑩周術期管理に使用される生体監視装置 (モニター) の種類と適応を説明できる。
⑪集中治療室の役割 (機能) と管理上の基本的注意点を説明できる。
2) 外科系の基本的診療技能
(1) 一般目標：各基本的臨床手技の目的、方法、適応、禁忌と合併症を学ぶ。
(2) 行動目標
[一般手技]
①静脈採血の手順、部位と合併症を列挙できる。
②耳朶・指先採血の適応と方法を説明できる。
③動脈採血の目的、適応、手順、合併症と部位を説明できる。
④経鼻胃管挿入の目的、適応、手順と合併症を列挙し、介助できる。
⑤尿道カテーテルの目的、適応、手順と合併症を説明し、実施できる。
⑥中心静脈カテーテル穿刺の目的、適応、手順、部位と合併症を説明できる。
⑦注射の種類・各々の特徴・接種部位を説明できる。
⑧血液型判定と交差試験の手順を説明できる。
[外科手技]
①清潔・不潔の区別を説明し、正しく実施できる。
②手術や手技のための手洗いの方法を説明し、正しく実施できる。
③手術室におけるガウンテクニックを説明し、正しく実施できる。
④器具の清潔操作の注意点を説明できる。
⑤術野と創の消毒方法を説明できる。
⑥創の一次的閉鎖、遅延一次閉鎖、二次的癒合とデブリードマンを説明できる。
⑦創の基本的な縫合方法 (局所麻酔法を含む) を説明し、正しく実施できる。
⑧創の止血方法の種類を列挙して、説明できる。
⑨外科的ドレーンの種類を列挙して、説明できる。
⑩包帯法とドレッシングの基本を説明し、正しく実施できる。
⑪ドレーンの挿入と抜去の適応や合併症を説明できる。

循環器内科学

教授 南野 徹

実習責任者 宮崎 彩記子

1. 一般目標

- 1) 医療現場における基本的態度・知識・技能を体験する。
- 2) 医師として必要な基本的臨床能力（態度・知識・臨床推論・技能）を習得する。
- 3) 臨床実習の意義を理解し、スチューデント・ドクターとして積極的に診療（医療現場）に参加する。
- 4) 自己学習に対する意欲を培う。

2. 到達目標

1) 医療現場における基本的知識・技能・態度

- ①. 守秘義務とプライバシーの配慮について理解できる。
- ②. 医療人に求められる社会的責任とニーズを理解できる。
- ③. コミュニケーション（ソフト）スキルの重要性を理解できる。
- ④. 患者と医師の良好な関係を構築することの重要性を理解できる。
- ⑤. 患者中心の医療および、患者や患者家族に配慮した対応ができる。

2) 医師として必要な基本的臨床能力

- ①. 実習内容について、指導医や臨床研修医と密接に連絡や報告ができる。
- ②. 患者から正確な病歴や情報収集ができる（**医療面接**）。
- ③. 基本的内科診察（**1号紙に準拠**）が正確な手技で実施できる（**身体診察**）。また、得られた所見から病態や問題点が抽出できる。
- ④. 患者の問題点から、病態および鑑別診断を説明できる（**臨床推論**）。
- ⑤. EBMを理解し、臨床現場で応用可能か検討することができる。
- ⑥. 診断に必要な検査および治療方針を立案できる。
- ⑦. 症例の要約に必要な情報を、文献的知識を考察に取り入れて作成・発表できる。
- ⑧. カンファレンスや回診に問題意識をもって参加し、積極的に質問・発表ができる。
- ⑨. インフォームドコンセントを理解し、指導医が患者や患者家族に説明した内容が理解できる。
- ⑩. 医療安全（自己の健康管理・医療事故・院内感染対策）を理解し、実行・防止対策ができる。
- ⑪. チーム医療の重要性を理解し、多職種スタッフと情報共有や診療連携をとることができる。

3) 循環器領域で必要な基本検査の適応と解釈、および合併症を概説できる。

- ①. 心電図, 負荷心電図
- ②. 胸部X線写真
- ③. 心臓・血管超音波検査
- ④. CT・MRI・核医学検査
- ⑤. 冠動脈・血管造影検査, 右心カテーテル検査（Swan-Ganzカテーテル）
- ⑥. 経皮的冠動脈インターベンション（PCI）、経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）等
- ⑦. 電機生理学的検査（EPS）、ペースメーカー植え込み術, カテーテルアブレーション

4) 主な循環器疾患の病因および病態、所見や診断、治療、合併症および予後について概説できる。

- ①. 心不全
- ②. 虚血性心疾患
- ③. 不整脈
- ④. 弁膜症・感染性心内膜炎
- ⑤. 心筋・心膜疾患：特発性心筋症と二次性心筋症、心タンポナーデ
- ⑥. 動脈疾患：大動脈解離、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症
- ⑦. 静脈血栓症（深部静脈・肺動脈血栓塞栓症）・肺高血圧症

3. 準備学習

1) 予習：

- ① 実習初日までに Group2 講義資料集の内容を復習して、理解しておくこと。
- ② 循環器領域の専門用語を確認・理解しておくこと。

2) 学習教材

- ① 指定教科書： 朝倉書店 『内科学 第12版』
- ② 参考教科書： ハリソン内科学（英語版/日本語版）
- ③ 参考書： MEDIC MEDIA：診察と手技がみえる
『Electrocardiography A to Z：心電図のリズムと波を見極める』
（日本医師会雑誌 第144巻・特別号（2）日本医師会生涯教育シリーズ89）

4. Meet the Professor

水曜午後の回診時にも随時、学生に対する指導を実施する。

曜日	時刻	場所	内容	担当
金曜	14:00~16:00	D号館8階	Meet the Professor	南野徹

5. 実習方法

- 1) 初日のオリエンテーションで臨床実習の概要を理解し、実習中の注意事項について確認する。
- 2) 指導医の監督下に以下のことを行なう。
 - ① コア・カリキュラムに従って、医療面接・診察技法の再確認を行う〈Mini-CEXの活用〉。
 - ② 少なくとも1名の入院患者を担当し、自ら医療面接・診察を行い、症例の問題点（problem lists）を明確にする〈1号紙の作成〉。
 - ③ 担当患者の情報収集を経過表、看護・診療記録で確認し、毎日、血圧測定を含めて診察する。
 - ④ problem lists から鑑別診断と確定診断に必要な検査を立案する。既に診断が確定している症例に関しては、入院時の検査結果から初期治療および再発予防・長期予後改善のための治療方針を立案する〈問題志向システム：problem-oriented system (POS)〉。
 - ⑤ 毎日、患者の状態・検査結果や検査治療計画について、指導医・研修医と確認・検討する。
 - ⑥ 患者・患者家族への検査治療内容のインフォームドコンセントや、病状・検査結果の説明に同席す

る。

- ⑦ 実習終了までに、担当患者に関して文献的考察を含めて**症例要約を作成**する。
- 3) クルズスには必ず出席し、知識の確認と病態生理について深く学習する。
- 4) 積極的にCCUのモーニング・カンファレンスに参加し、循環器領域の急性期治療や集学的治療に対する理解を深める。
- 5) 急性期治療や集学的治療に必要なモニター、医療機器などを実際に医療現場で見学し、その意義を理解する。
- 6) 担当患者以外の循環器領域の検査、治療にも積極的に参加・見学する。
- 7) 回診には積極的に質疑応答形式で参加し、自己の臨床能力および努力目標を確認する。また、ベッドサイドでは、**視診・触診・聴診などの診察も意識する（何をしているか？）**。
- 8) 回診中に生じた、知識や理解が不十分な疾患や検査、治療などは、復習などで自己学習・確認する。
- 9) 高齢者社会における問題点（フレイル）を理解する。また、健康寿命の延伸（フレイル予防）に果たす包括的心臓リハビリテーションの重要性を理解する。
- 10) 予防医学の観点から、循環器疾患の発症予防（primary prevention）および再発予防（secondary prevention）の重要性を学ぶ。
- 11) 実習最終日に、質疑応答形式の口頭試問により基本知識、臨床応用力、プレゼンテーション能力を評価する。
- 12) 実習終了後は、1号紙と症例要約、評価票および出席表を速やかに循環器内科医局に提出する。

6. 実習日程（別紙参照）

7. 担当教員

南野徹，岡崎真也，藤本進一郎，葛西隆敏，岩田洋，林英守，宮崎彩記子，横山美帆，岡井巖，飯島賢一，末永祐哉，内藤亮，小西宏和、降旗高明，吉田陽子，土井信一郎，川口裕子，上木裕介，鍵山暢之，黒田俊介，大内翔平，加藤隆生，勝浦悟郎，相川忠夫，松本紘毅，近田雄一，高橋徳仁，金子智洋、野崎侑依
他全医局員 心臓血管外科 横山泰孝 実習は教授以下、全医局員が担当する。

8. 初回集合時間・場所

※スケジュールや場所が変更となる可能性があるので事前に循環器内科医局（3303）に確認すること。

（本郷） 午前8時20分 4号館6階循環器科内科医局

（浦安病院）午前9時00分 総合医局3（休日の場合は前週に確認すること）

（練馬病院）午前9時00分 三号館 医局棟面談室（休日の場合は前週に確認すること）

※ 内線番号 医局（研究室）：3303. BSL 学生実習担当：宮崎彩記子（730031）

9. 実習における評価方法

基本的知識・技能，実習態度や積極性，症例要約，口頭試問などを参考に総合的に評価する。

10. 実習における注意事項

- 1) 巻頭の『病院などでの実習の心得』『医師服装マニュアル』などを事前に確認・理解したうえで実習に望むこと。

- 2) 発熱や下痢・嘔吐などの症状があり、ウイルス性感染性疾患が疑われる場合には、速やかにプライマリケアセンターを受診する。
- 3) 理由のいかんに関わらず、**遅刻・早退、実習を休む場合には循環器医局秘書（内線 3303；山本、野澤）に連絡**する。欠席の連絡に関して、指導医には医局より報告する。
- 4) クルズスの日程は変更となる場合があるので、**クルズス開始 60 分前に担当医師に必ず確認**する。
- 5) 臨床の現場のやむを得ない事情により開始時刻が直前に変更となる場合があるため、その際は指導医の指示に従うこと。
- 6) 実習に関して要望や改善点があれば、遠慮せずに BSL 担当講師（宮崎彩記子：730031）に報告する。

11. 復習

当日の実習で指摘された事項や不明な箇所はかならず指定教科書で復習すること。

12. 実習内容の確認と評価（本郷用）

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 受持患者

	病 名

(2) 学習事項

事前もしくはBSLで学習し理解する事項（学習し、理解しえたと思われるものに○）

学 習 の 内 容	学生チェック欄	
(1) 心電図の基本		
(2) 冠動脈の名称と灌流部位		
(3) 虚血性心疾患の診断と治療、心筋梗塞の合併症		
(3) 弁膜症の心雑音、血行動態、症状・検査所見、手術適応		
(4) 心不全の病態生理、自・他覚所見、薬物・非薬物治療		
(5) 不整脈の診断と薬物・非薬物治療		
(6) 静脈・動脈疾患（静脈血栓症、大動脈解離、PADなど）		
(7) 循環器の画像診断（心エコー、核医学、CT、MRIなど）		

実習において行なう実技の内容（実施したものに◎ 見学したものに○）

臨床実技等の内容	学生チェック欄	教員チェック欄
(1) 問診、診察、血圧測定		
(2) 採血、静脈確保		
(3) 心電図検査		
(4) 心臓超音波検査		
(5) 心臓カテーテル・血管造影検査		
(6) 電気生理学的検査・ペースメーカー治療		
(7) カテーテル・インターベンション〈PCI〉		
(8) カテーテルアブレーション		
(9) 経カテーテル大動脈弁留置術〈TAVI〉		
(10) CCU・病棟における救急処置		
(11) 心臓血管外科手術		

(3) 教員の感想

指導教員名 _____ ⑩

13. 実習内容の確認と評価（附属病院用）

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 受持患者

	病 名

(2) 学習事項

事前もしくはBSLで学習し理解する事項（学習し、理解しえたと思われるものに○）

学 習 の 内 容	学生チェック欄	
(1) 心電図の基本		
(2) 冠動脈の名称と灌流部位		
(3) 虚血性心疾患の診断と治療、心筋梗塞の合併症		
(3) 弁膜症の心雑音、血行動態、症状・検査所見、手術適応		
(4) 心不全の病態生理、自・他覚所見、薬物・非薬物治療		
(5) 不整脈の診断と薬物・非薬物治療		
(6) 静脈・動脈疾患（静脈血栓症、大動脈解離、PADなど）		
(7) 循環器の画像診断（心エコー、核医学、CT、MRIなど）		

実習において行なう実技の内容（実施したものに◎ 見学したものに○）

臨床実技等の内容	学生チェック欄	教員チェック欄
(1) 問診、診察、血圧測定		
(2) 採血、静脈確保		
(3) 心電図検査		
(4) 心臓超音波検査		
(5) 心臓カテーテル・血管造影検査		
(6) 電気生理学的検査・ペースメーカー治療		
(7) カテーテル・インターベンション〈PCI〉		
(8) カテーテルアブレーション		
(9) 経カテーテル大動脈弁留置術〈TAVI〉		
(10) CCU・病棟における救急処置		
(11) 心臓血管外科手術		

(3) 教員の感想

指導教員名 _____ ⑩

●浦安病院 タイムスケジュール

第1週

時刻	場所	内容	教員
月	10:00~11:30 13:00~17:00	総合医局3 シネアングイオ室	指導医 宮崎 哲朗 指導医 尾崎 大
火	9:00~11:45 13:00~14:00 14:30~17:00	病棟 総合医局3 総合医局3 病棟	指導医 尾崎 大 高村 和久 戸叶隆司、宮崎哲朗 高村和久、高須 清
水	9:00~11:45 13:30~17:00	病棟 シネアングイオ室	指導医 尾崎 大、小田切史徳
木	9:00~11:45	病棟	指導医
金	9:00~11:00 13:30~17:00	シネアングイオ室 シネアングイオ室	戸叶隆司、小田切史徳 戸叶隆司、小田切史徳

第2週

時刻	場所	内容	教員
月	9:00~10:00 10:00~17:00	病棟 シネアングイオ室	指導医 尾崎 大
火	9:00~10:00 10:00~11:00 14:30~17:00	病棟 総合医局3 病棟	戸叶隆司 戸叶隆司、宮崎哲朗 高村和久、高須 清
水	9:00~11:45 13:30~17:00	病棟 シネアングイオ室	指導医 尾崎 大、小田切史徳
木	9:00~11:45 13:30~17:00	病棟 シネアングイオ室	指導医 尾崎 大
金	9:00~10:00 10:00~12:00	シネアングイオ室 総合医局3	戸叶隆司、小田切史徳 宮崎 哲朗

※一般目標、到達目標、準備学習及び実習上の注意点は、本院に準じる。
 ※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

戸叶隆司、宮崎哲朗、高村和久、小田切史徳、高須清、安田友紀、尾崎大、磯良浩之、島井亮輔、柿原翠、牧正彬、阿部寛史、石井開他全医局員

●練馬病院 タイムスケジュール

第1週

	時刻	場所	内容	教員
月	9:00～9:30	1号館3階医局	オリエンテーション	磯田 菊生 (科長)
	9:30～12:00	外来	初診外来	新居田 登三治
	9:30～17:00	病棟	病棟実習	指導医
火	9:00～12:00	外来	初診外来	新居田 登三治
	9:00～17:00	病棟	病棟実習	指導医
水	8:00～9:00 9:30～15:30	病棟 シネアンギオ室	チャート回診・CCU 病棟実習 心臓カテーテル検査・治療 (PCI) 見学	磯田 菊生 (科長) 指導医 新居田 登三治
	16:00～17:00	病棟	病棟カンファレンス	磯田 菊生 (科長)
木	10:00～12:00	病棟	病棟回診	磯田 菊生 (科長)
	13:30～17:00	生理検査室/ 病棟 外来	心エコー検査/病棟実習 初診外来	堂垂 大志
金	9:00～12:00	病棟/ シネアンギオ室	病棟実習/ 心臓カテーテル検査	指導医/ 古賀 聖士
	13:00～15:00	病棟	EPクルーズ	田淵 晴名

※ Meet the Professor:水曜日のCCUチャート・病棟回診時に教授が個々の学生に直接指導する。
 ※一般目標、到達目標、準備学習及び実習上の注意点は、本院に準じる。

※心臓カテーテル検査、心エコー検査は2人ずつに分かれて実習する。初診外来は1人ずつ指導医について実習する。

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

磯田菊生、柳沼憲志、新居田登三治、田淵晴名、古賀聖士、他全医局員

第2週

	時刻	場所	内容	教員
月	9:00～12:00	外来	初診外来	新居田 登三治
	9:00～17:00	病棟	病棟実習	指導医
火	9:00～17:00	病棟 シネアンギオ室	病棟実習 心臓カテーテル検査・治療 (PCI) 見学	指導医/ 柳沼 憲志
	8:30～9:00 8:30～9:30 9:30～15:30	病棟 シネアンギオ室	チャート回診・CCU 病棟実習 心臓カテーテル検査・治療 (PCI) 見学	磯田 菊生 (科長) 指導医 新居田 登三治
水	16:00～17:00	病棟	病棟カンファレンス	磯田 菊生 (科長)
	10:00～12:00	病棟	病棟回診	磯田 菊生 (科長)
木	13:30～16:00	生理検査室/ 病棟 外来	心エコー検査/病棟実習 初診外来	堂垂 大志
	8:00～9:00 9:00～12:00	7A/A7/A8/A5室 病棟 シネアンギオ室	ケース・プレゼンテーション 病棟実習 心臓カテーテル検査	磯田 菊生 (科長) 指導医 古賀 聖士
金	13:30～14:00	医局	実習まとめ	磯田 菊生 (科長)

消化器内科学（本郷）

順天堂大学医学部附属順天堂医院

責任者 伊佐山 浩通

実習担当 内山 明

< 1. 一般目標 >

- ① 臨床研修の基本とする基本的態度・技能・知識を体験する。
- ② 医師として、必要な基本的臨床能力（態度、知識、技能）を身につける。
- ③ 臨床実習の意義を理解し、積極的に学習する。

< 2. 到達目標 >

- ① 受け持ち患者さんのデータや診療方針について教科書や文献を調べ、指導にあたる担当医師と診断・治療についてディスカッションすることにより消化器疾患の疫学、分類、病態生理、診断、鑑別診断、治療、予後、問題点を把握し理解できるようになり、その過程で臨床推論法も自ずと身についてくる。
- ② 学生の担当患者さんに医学生として接することにより、コミュニケーション技能のみならず、身体診察技能、検査手技、治療手技などを学び、実践できるようになる。
- ③ 指導に当たる医師、直接指導に当たっていない医師、看護スタッフ、そして他の医療者と接することにより、チーム医療の在り方を学ぶことができる。
- ④ 実際の検査を見学することにより、消化管の X 線診断法、内視鏡診断法、腹部超音波診断法などの原理、概略を学ぶことができる。
- ⑤ 学生のための教員によるクルズスにより、実習中に学んだ知識を整理し、さらに新たな知識を取得することができる。

< 3. 実習方法 >

1. 消化器領域における基本的知識に関する pre-test を受け、実習オリエンテーションに参加する。
2. 学生のための教員によるクルズス（予防医学の内容を含む）を受ける。
3. 病棟診療グループに配属され、グループの指導医と共に担当患者の診療に参加し、2号紙に問題志向システム(problem-oriented system; POS) に基づいた診療録の記載を行う。病棟グループ回診および病棟医長回診にて他の上級医師とのディスカッションを重ね、担当患者ばかりでなくグループの患者の病状、治療を理解する。
4. 教授回診に参加し、自分の担当患者のプレゼンテーションをおこなう。
5. 消化器内科で行なわれる各種検査を見学し、それら検査に対する知識（検査適応疾患、前処置および実際の検査方法、検査所見及び診断など）を向上させる。
6. 毎週水曜日の午後に行なわれる医局カンファレンス（新患カンファレンス、消化器内科全体カンファレンス）に参加する。
7. 担当した症例に対して、病棟診療グループの指導医およびレポート担当指導医の監督下で、担当症例レポートを作成する*1。
8. 実習終了時にポストテストを受ける。実習終了時の総括の際に、学生が書いた症例レポートが皆に配布される。配布された症例レポートに基づき症例について学ぶ。
9. ①担当症例レポート*1、②2号紙（診療録）、③消化器内科実習に対する感想文（A4用紙に記載）

*²を提出する。

(第2週金曜日 13時までに医局秘書に提出する。)

*1 消化器内科 BSL 担当症例レポート作成要領

(1) 問診

I 診断名

II 患者イニシャル、年齢、性

III 主訴

IV 既往歴、

IV 家族歴、

V 生活習慣、嗜好：飲酒歴は積算アルコール摂取量を計算しておくこと

(2) 身体所見

I 有所見項目

II 無所見項目で重要なもの

例：肝硬変症例では、「肝臓触知せず」、「クモ状血管腫は認めない」、「手掌紅斑は認めない」

カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

例：眼球結膜：黄疸なし(入院時 黄疸あり)

(3) 主な検査所見

(4) 画像所見 (別紙に記載してもよい)

(5) プロブレムリスト

(6) 問題点の評価 (アセスメント) と鑑別診断

(7) 入院後経過

(8) 考察または本症例で学んだこと

以上を A4 用紙数枚に簡潔明確にまとめる。

*2 感想文

臨床実習を通じて doctor としての心構えについて何を学べたか、そして、実習全般についての感想を記載するように

< 4. 準備学習 (予習・復習等) 及び実習上の注意点 >

- ① 予習：今までに配付された資料を読み返し、略語 (資料 1 参照) を含む専門用語を覚えておくこと。特に消化器内科の分野において知識を整理しておくこと。OSCE で学習した内容を復習しておくこと。
- ② 指定教科書「内科学 (第 12 版)」消化器内科学分野を一読のこと。
- ③ 実習上の注意点：「病院などでの実習の心得」「医師服装についてのマニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨む。
- ④ 復習：実習中不明な点に遭遇した時には、指導医等に確認をして教えを請うとともに、指定教科書以外に参考教科書や参考書なども参考にし、不明な点を解決し理解を深める。

< 5. 実習日程 >

ここに記載の実習日程は暫定である。実習開始日に配布する日程表に従って行動するように。

第一週 1日目の集合場所：医局棟 消化器内科学 午前9時30分

曜日	時刻	場所	内容	教員 (Dr. PHS)
月	9:30~11:30	消内 医局・指定会議室	Pre-test、実習説明	内山准教授 (730209)
	13:00~14:40	B棟17階、18階病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医局員
	15:00~17:00	B棟17階記録室	上部消化管クルズス	上山 准教授
火	9:00~10:30	B棟17階、18階病棟 B棟3階内視鏡室	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学	病棟担当医局員 北條先任准教授(730198)
	11:00~12:00	消化器内科外来超音波室 B棟17階記録室	腹部超音波検査見学 Meet the professor	今 先任准教授 池嶋 教授 (730293)
	13:00~15:00	B棟3階内視鏡室	Meet the professor	伊佐山 教授 (730194)
	15:30~17:00	B棟17階、18階病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医局員
				病棟グループ回診
水	9:00~12:00	B棟17階、18階病棟 B棟3階内視鏡室 消化器内科外来超音波室 別途配布	病棟クラークシップ 下部消化管内視鏡検査見学 腹部超音波検査見学 新患カンファレンス	病棟担当医局員 上山 准教授(730203) 福原准教授 (730214) 教授以下、全医局員
	12:30~14:00	B棟17階、18階病棟ほか	教授回診	教授以下、全医局員
	14:00~15:	別途配布	Meet the professor カンファレンス (抄読会、症 例検討会)	永原 教授(730292) 教授以下、全医局員
木	9:00~12:00	B棟17階、18階 B棟3階内視鏡室	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 下部消化管内視鏡検査見学	病棟担当医局員 竹田准教授 上山准教授(730203)
	13:30~15:30	消化器内科外来超音波室	腹部超音波検査見学	深田 准教授 (730206)
	16:00~17:30	B棟17階、18階病棟 B棟17階記録室	病棟クラークシップ 画像診断クルズス	病棟担当医局員 藤澤先任准教授(730201)
金	9:00~12:00	B棟17階、18階病棟 B棟2階放射線部	病棟クラークシップ 上部消化管造影検査見学	病棟担当医局員 赤澤 准教授
	13:30~15:00	B棟3階内視鏡室	消化器内視鏡実習クルズス	北條先任准教授(730198)
	15:30~17:00	B棟17階記録室	下部消化管クルズス	石川先任准教授(730210)

第二週

曜日	時刻	場所	内容	教員 (Dr. PHS)
月	9:00~10:40	B棟18階RFA室 B棟3階内視鏡室 消化器内科外来超音波室	ラジオ波焼灼術見学 上部消化管内視鏡検査見学 下部消化管内視鏡検査見学 腹部超音波検査見学	丸山 准教授 (730248) 赤澤 准教授 北條 先任准教授 山科 先任准教授
	11:00~12:00	B棟18階記録室	ウィルス肝炎クルズ	今 先任准教授 (720202)
	13:00~17:00	B棟17階、18階病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医局員
火	9:00~12:00	B棟17階、18階病棟 B棟3階内視鏡室 消化器内科外来超音波室	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 下部消化管内視鏡検査見学 腹部超音波検査見学	病棟担当医局員 福嶋 准教授 上山 准教授 (730203) 内山 准教授 (730209)
	13:00~15:00	B棟3階内視鏡室	ERCP 見学	藤澤 先任准教授 (730201)
	15:00~17:00	8号館242臨床実習室	エコークルズ	今 先任准教授
	17:30~	B棟17階、18階病棟	病棟グループ回診	病棟担当医師全員
水	9:00~12:00	B棟17階、18階病棟 消化器内科外来超音波室 別途配布	病棟クラークシップ 腹部超音波検査見学 新患カンファレンス	病棟担当医局員 富嶋 准教授 教授以下、全医局員
	12:30~14:00	B棟17階、18階病棟ほか	教授回診、プレゼンテーション	教授以下、全医局員
	14:00~15:45	別途配布	消化器内科全体カンファレンス (抄読会、症例検討会)	教授以下、全医局員
木	9:00~10:40	B棟17階、18階病棟 B棟3階内視鏡室 消化器内科外来超音波室	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 下部消化管内視鏡検査見学 腹部超音波検査見学	病棟担当医局員 内山 准教授 石川 准教授 (730210) 柳沼 助教 (730211)
	11:00~12:00	B棟18階記録室	小腸クルズ	渋谷 先任准教授 (730197)
	13:00~17:00	B棟17階、18階病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医局員
金	9:00~12:00	B棟18階RFA室 B棟3階内視鏡室 消化器内科外来超音波室	RFA 見学 上部消化管造影検査見学 下部消化管造影検査見学 腹部超音波検査見学	丸山 准教授 (730248) 内山 准教授 (730209) 村上 准教授 (730204) 富嶋 准教授
	13:30~15:00	B棟3階内視鏡室	小腸内視鏡検査見学	野村 (慧) 助教
	15:00~17:00	消内 医局	実習総括、口頭試問	内山 准教授 (730209)

< 6. Meet the professor の実施時間帯 >

実習初日に指示する。担当教授：伊佐山 浩通、永原 章仁、池嶋 健一

<7. 担当教員>

実習は全医局員が担当する。

<8. 集合場所・時間>

●実習初日集合時間・場所

午前 9:30 医局棟 6 階 (時間厳守) 消化器内科 (状況により 7 号館会議室 (事前に指定連絡あり))

実習開始前における問い合わせに関しては消化器内科実習担当 内山 (730209) または、消化器内科研究室 (内線 3305) まで連絡のこと。

<9. 学習における評価>

- (1) 評価の対象：出欠、プレテスト・ポストテスト、提出物、プレゼンテーション、その他実習態度を含む実習全般
- (2) 出席表：消化器内科より配布される予定表を出席表とし、そちらに署名をもらう。教務課に提出する出席表は予定表の署名を確認して実習担当者が記載する。

資料 1

略語

AGML: acute gastric mucosal lesion(急性胃粘膜病変)
AIH: autoimmune hepatitis(自己免疫性肝炎)
CCC: cholangiocellular carcinoma(肝内胆管癌)
EGJ: esophagogastric junction(食道胃接合部)
EIA: endoscopic injection sclerotherapy(内視鏡的硬化療法)
EMR: endoscopic mucosal resection(内視鏡的粘膜切除術)
ERCP: endoscopic retrograde cholangiopancreatography(内視鏡的逆行性胆管膵管撮影)
ESD: endoscopic submucosal dissection(内視鏡的粘膜下層剥離術)
EST: endoscopic sphincterotomy(内視鏡的乳頭切開術)
EUS: endoscopic ultrasonography(超音波内視鏡)
EVL: endoscopic variceal ligation(内視鏡的静脈瘤結紮術)
FD: functional dyspepsia(機能性ディスぺプシア)
FNA: fine needle aspiration cytology(穿刺吸引細胞診)
GERD: gastroesophageal reflux disease(胃食道逆流症)
GIST: gastrointestinal stromal tumor(消化管間質腫瘍)
HCC: hepatocellular carcinoma(肝細胞癌)
IBD: inflammatory bowel disease(炎症性腸疾患)
IBS: irritable bowel syndrome(過敏性腸症候群)
IPMN: intraductal papillary mucinous neoplasm(膵管内乳頭粘液性腫瘍)
LC: liver cirrhosis(肝硬変)
MRCP: magnetic resonance cholangiopancreatography(核磁気共鳴胆管膵管撮影)
NAFLD: nonalcoholic fatty liver(非アルコール性脂肪肝)
NASH: nonalcoholic steatohepatitis(非アルコール性脂肪性肝炎)
NBI: narrow banding imaging(狭帯域内視鏡)
NERD: non-erosive reflux disease(非びらん性胃食道逆)
PBC: primary biliary Cholangitis(原発性胆汁性胆管炎)
PEG: percutaneous endoscopic gastrostomy(経皮的内視鏡的胃瘻造設術)
PSC: primary sclerosing cholangitis(原発性硬化性胆管炎)
PTCD: percutaneous transhepatic choalngio drainage(経皮経肝胆道ドレナージ)
RFA: radiofrequency ablation(経皮的ラジオ波焼灼術)
SBP: spontaneous bacterial peritonitis(特発性細菌性腹膜炎)
SCJ: squamous-columnar junction(扁平円柱上皮接合部)
TACE: transcatheter arterial chemoembolization(肝動脈化学塞栓療法)
TAE: transcatheter arterial embolization(肝動脈塞栓療法)
UC: ulcerative colitis(潰瘍性大腸炎)

悪性上皮性腫瘍の組織型分類

- 一般型 Common Type(略号)
- 乳頭腺癌 Papillary adenocarcinoma(pap)
- 管状腺癌 Tubular adenocarcinoma(tub)
- 高分化 well differentiated type(tub1)

中分化 moderately differentiated type (tub2)
低分化型腺癌 Poorly differentiated adenocarcinoma (por)
充実型 Solid type (por1)
非充実型 non-solid type (por2)
印環細胞癌 Signet-ring cell carcinoma (sig)
粘液癌 Mucinous adenocarcinoma (muc)
特殊型 Special type
カルチノイド腫瘍 Carcinoid tumor
内分泌細胞癌 Endocrine carcinoma
リンパ球浸潤癌 Carcinoma with lymphoid stroma
肝様腺癌 Hepatoid adenocarcinoma
腺扁平上皮癌 Adenosquamous carcinoma
扁平上皮癌 Squamous cell carcinoma
未分化癌 Undifferentiated carcinoma
その他の癌 Miscellaneous carcinoma

痛みの部位の英語表現

心窩部痛 Epigastralgia

右季肋部痛 Right hypochondrial pain

消化器内科学（静岡）

順天堂大学医学部附属静岡病院

責任者 玄田 拓哉
学生指導担当 村田 礼人

< 1. 一般目標 >

消化器疾患の診断と治療に関する基礎的事項を理解し、患者に接することにより、実際に臨床応用できる能力を育てる。さらに臨床医として、問診をし、所見をとり、病態を評価し、解釈し、診断・鑑別診断のための検査を立案し、問題点を整理した上で、最も必要な治療法を考えるという態度を身につけることを目標とする。

また内科疾患における主訴は多様であり、鑑別疾患が困難であることも多々ある。そこで内科一般の基礎的事項を理解し、臨床の場においてその知識を応用し、内科一般のプライマリーケアを実践できる能力を身につけることを目標とする。

< 2. 到達目標 >

- ① 消化器疾患の疫学、分類、病態生理、診断、鑑別診断、治療、予後、問題点を把握、理解できるようになる。
- ② 内科一般のプライマリーケアに必要な検査の立案、結果の解釈を行い、適切な処置法の概略を学ぶ
- ③ 疾患に接することにより消化器領域における急性期疾患（急性腹症、消化管出血、閉塞性黄疸、急性肝不全など）の内科的救急処置法の概略を知る。
- ④ 消化管の X 線診断法、内視鏡診断法についての原理、概略を学ぶ。
- ⑤ 肝胆膵領域における画像診断（US, CT, MRI など）、についての原理、概略を学ぶ。
- ⑥ 肝臓機能検査 data を理解し、原因の検索、病態の把握、予後予測が可能となるように勤める。肝炎ウイルスなどについても学ぶ。

< 3. 実習方法 >

1. 実習のオリエンテーションに参加する。
2. 病棟診療グループに配属され、グループの指導医とともに担当患者の診療に参加する。病棟グループ回診にて他の上級医師とのディスカッションを重ね、担当患者ばかりでなくグループの患者の病状、治療を理解する。
3. 回診に参加し、自分の担当患者のプレゼンテーション(第2週月曜日)をおこなう。更に担当症例以外の患者についても極力所見をとる。
4. 消化器内科で行なわれる各種検査を見学し、それら検査に対する知識（検査適応疾患、前処置および実際の検査方法、検査所見及び診断など）を向上させる。
5. 毎週月曜日の午後に行なわれる医局カンファレンスに参加する。
6. 指導教官の監督下で症例を担当し、実習の目標に沿ってレポートを作成する。
7. 実習終了に際しての実習総括に参加し、担当症例に関するレポートの発表、討論を行なう（カンファレンス時に各自 5 分程度で担当症例のプレゼンテーションを行う）。消化

器内科実習の到達度をチェックする（第2週金曜日）。

8. 担当症例レポートおよび消化器内科実習に対する感想文（A4用紙3-4枚程度）を提出する。（総括終了後村田 aymurata@juntendo.ac.jp に提出する。）

1 消化器内科 BSL 担当症例レポート作成要領

① 1号紙

担当患者さんから得られた問診内容、理学的所見を全て記入すること。自分をはじめ患者さんを紹介された日を基準として、問診内容、診察所見を記入する。カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

(1) 問診

- I 主訴
- II 現病歴
- III 既往歴
- IV 家族歴
- V 嗜好：飲酒歴は積算アルコール摂取量を計算しておくこと

(2) 身体所見

- I 有所見項目
- II 無所見項目で重要なもの

例：肝硬変症例では、「肝臓触知せず」、「クモ状血管腫は認めない」、「手掌紅斑は認めない」

カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

例：Conj. bulbi：not icteric（入院時 icteric）

② 2号紙

以下を2-3枚程度に簡潔明確にまとめる。

- I 各種画像検査所見（単純X線、CT検査、MRI検査、その他）や内視鏡検査などをスケッチし、所見を記載する。
- II 血液 data を記載する。
- III 病態を理解するうえで必要に応じて入院前の外来 data を追加記載する。
- IV 以上より考えられうる異常所見を Problem List としてまとめる。Problem List の各項目について考察を加え、問題解決に必要な検査を立案する。
- V 鑑別すべき疾患を挙げ、それぞれ鑑別点及び鑑別に必要な検査を列挙する。
- VI 担当疾患についての重要点を簡潔明瞭にまとめ、記載する。

2 感想文内容

- ① 消化器内科全体についての感想
- ② 医師としての心構えについて何を学んだか？

- ③ 実習のやり方に対する感想
- ④ 回診についての感想
- ⑤ その他気づいた点または改善点

< 4. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点 >

①予 習：

今までに配付された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
特に肝胆膵の分野において知識を整理しておくこと。

②指定教科書：「内科学（第12版）」を一読のこと。

③参考教科書：「新臨床内科学（第10版）」を一読のこと。

④参 考 書：「消化器内科学〈医学スーパーラーニングシリーズ〉」を一読のこと。

⑤実習上の注意点：

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。上記教科書・参考書でなくても構わないが、質問に必ず院内に参考書を持参すること。

⑥復 習：

当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

< 5. 静岡病院実習日程 >

1日目の集合場所：プレハブ棟1階総務課 午前9時

曜日	時刻	場所	内容	教員 (Dr.)
月	9:00~12:00	H棟2階内視鏡室	オリエンテーション 上部消化管内視鏡検査見学	教育担当医局員
	15:00~17:00	G棟5階カンファレンス室	消化器内科カンファレンス	全医局員
火	8:30~17:00	H棟地下1階血管造影室 A棟2階腹部超音波検査室 H棟2階透視室	腹部血管造影検査見学 腹部超音波検査 透視下処置見学	検査担当医局員
水	9:00~11:30	H棟2階内視鏡室 5階A病棟	上部消化管内視鏡検査見学 病棟クラークシップ	検査担当医局員 病棟担当医局員
	12:30~17:00	H棟2階内視鏡室 5階A病棟	下部消化管内視鏡検査見学 病棟クラークシップ	
木	9:00~17:00	5階A病棟 H棟1階救急外来	病棟クラークシップ 救急外来診察見学	病棟担当医局員
金	9:00~12:00	H棟2階内視鏡室 A棟2階腹部超音波検査室 5階A病棟	上部消化管内視鏡検査見学 腹部超音波検査 病棟クラークシップ	検査担当医局員 病棟担当医局員
	13:30~17:00	H棟2階内視鏡室 5階A病棟	下部消化管内視鏡検査見学 病棟クラークシップ	

< 6. 静岡病院担当教員 >

実習は全医局員が担当する。

< 7. 集合場所・時間 >

●実習初日集合時間・場所

午前9時 プレハブ棟1階総務課 (時間厳守)

静岡病院の実習開始前における問い合わせに関しては総務課 大高 (PHS 7516) または
消化器内科秘書 静 (PHS 7603) まで連絡のこと。

< 8. その他 >

へリポートの見学を希望する際には事前に関係部署への了解が必要なため、オリエンテーション時に申し出ること。

新型コロナウイルス感染拡大次第ではカリキュラム通り実習が行えない場合があるので、教務課の指示に従うこと。

<8. 学習における評価>

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 担当患者

患者の年齢と性別 _____ 病名 _____

(2) 実習項目

曜日	午前		午後	
	月	オリエンテーション、検査見学	回	診、カンファレンス
第1週	火	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	水	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	木	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	金	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	月	検査見学	回	診、カンファレンス
第2週	火	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	水	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	木	病棟実習、検査見学	病棟実習、検査見学	
	金	病棟実習、検査見学	検査見学	実習総括

(3) 実習における評価

(A : 大変良い B : 良い C : 普通 D : やや劣る E : 大変劣る N : 実施しなかったので評価不能)

1. 出席	A	B	C	D	E	
2. 約束時間の遵守	A	B	C	D	E	
3. 積極的に学ぶ態度	A	B	C	D	E	
4. 患者に対する礼儀正しい態度	A	B	C	D	E	
5. 診療チームにおける態度・強調性	A	B	C	D	E	
6. 基礎知識	A	B	C	D	E	
7. BSL 期間中における知識の増加	A	B	C	D	E	
8. 問診技能	A	B	C	D	E	N
9. 診察技能	A	B	C	D	E	N
10. 技能簡単な臨床検査	A	B	C	D	E	N
11. 病歴、所見 の把握能力	A	B	C	D	E	N
12. 病歴、診察、検査結果からの問題設定能力	A	B	C	D	E	N
13. 検査、治療計画の立案能力	A	B	C	D	E	N
14. 臨床検査所見等の解釈力	A	B	C	D	E	N
15. 診断、鑑別診断能力	A	B	C	D	E	N
16. プレゼンテーションの能力	A	B	C	D	E	N

(4) 教員の感想

指導教員名 _____ (印)

消化器内科学（浦安）

順天堂大学医学部附属浦安病院

責任者 長田太郎

実習担当 北村庸雄

< 1. 一般目標 >

消化器疾患の診断と治療に関する基礎的事項を理解し、患者に接することにより、実際に臨床応用できる能力を育てる。さらに臨床医として、問診をし、所見をとり、病態を評価し、解釈し、診断・鑑別診断のための検査を立案し、問題点を整理した上で、最も必要な治療法を考えるという態度を身につけることを目標とする。

また内科疾患における主訴は多様であり、鑑別疾患が困難であることも多々ある。そこで内科一般の基礎的事項を理解し、臨床の場においてその知識を応用し、内科一般のプライマリーケアを実践できる能力を身につけることを目標とする。

< 2. 到達目標 >

- 1) 消化器疾患の疫学、分類、病態生理、診断、鑑別診断、治療、予後、問題点を把握、理解できるようになる。
- 2) 内科一般のプライマリーケアに必要な検査の立案、結果の解釈を行い、適切な処置法の概略を学ぶ。
- 3) 疾患に接することにより消化器領域における急性期疾患（急性腹症、消化管出血、閉塞性黄疸、急性肝不全など）の内科的救急処置法の概略を知る。
- 4) 消化管の X 線診断法、内視鏡診断法についての原理、概略を学ぶ。
- 5) 肝胆膵領域における画像診断（US, CT, MRI など）、についての原理、概略を学ぶ。
- 6) 肝機能検査を理解し、原因の検索、病態の把握、予後予測が可能となるように努める。肝炎ウイルス検査などについても学ぶ。

< 3. 実習方法 >

- 1) 実習のオリエンテーションに参加し、消化器領域における基本的知識に関する口頭試問による pre-test を受ける。
- 2) 学生のための教員によるクルズスを受取る。
- 3) 病棟診療グループに配属され、グループの指導医と共に担当患者の診療に参加する。病棟グループ回診にて他の上級医師とのディスカッションを重ね、担当患者ばかりでなくグループの患者の病状、治療を理解する。
- 4) 回診（教授回診）に参加し、自分の担当患者のプレゼンテーションを行う。更に担当症例以外の患者についても極力所見をとり、レポートにまとめる*¹。
- 5) 消化器内科で行なわれる各種検査を見学し、それら検査に対する知識（検査適応疾患、前処置および実際の検査方法、検査所見及び診断など）を向上させる。
- 6) 毎週火曜日の午後に行なわれる医局カンファレンス（新患カンファレンス、消化器内科全体カンファレンス、専門カンファレンス）に参加する。
- 7) 指導教官の監督下で症例を担当し、実習の目標に沿ってレポートを作成する。
- 8) 実習終了に際しての実習総括に参加し、担当症例に関するレポートの発表、討論を行なう。（各自 10～15 分程度で担当症例のプレゼンテーションを行う。）
- 9) 口頭試問による Post-test を受け、消化器内科実習の到達度をチェックする。
- 10) 担当症例レポートおよび消化器内科実習に対する感想文（A4 用紙 1 枚）*²を提出する。
（第 2 週金曜日 9 時までに実習担当に提出する。）

*1 消化器内科 BSL 担当症例レポート作成要領

① 1号紙

担当患者さんから得られた問診内容、理学的所見を全て記入すること。自分がはじめて患者さんを紹介された日を基準として、問診内容、診察所見を記入する。カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

(1) 問診

- I 主訴
- II 現病歴
- III 既往歴
- IV 家族歴
- V 嗜好：飲酒歴は積算アルコール摂取量を計算しておくこと

(2) 身体所見

- I 有所見項目
- II 無所見項目で重要なもの

例：肝硬変症例では、「肝臓触知せず」、「クモ状血管腫は認めない」、「手掌紅斑は認めない」

カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

例：Conj. bulbi : not icteric (入院時 icteric)

② 2号紙

以下を3～4枚程度に簡潔明確にまとめる。

- I 各種画像検査所見 (単純X線、CT 検査、MR I 検査、その他) や内視鏡検査などをスケッチし、所見を記載する。
- II 血液 data を記載する。
- III 病態を理解するうえで必要に応じて入院前の外来 data を追加記載する。
- IV 以上より考えられうる異常所見を Problem List としてまとめる。Problem List の各項目について考察を加え、問題解決に必要な検査を立案する。
- V 鑑別すべき疾患を挙げ、それぞれ鑑別点及び鑑別に必要な検査を列挙する。
- VI 担当疾患についての重要点を簡潔明瞭にまとめ、記載する。

以上のレポートを第2週金曜日に実習担当に提出する。

*2 感想文内容

- ① 消化器内科全体についての感想
- ② 医師としての心構えについて何を学んだか?
- ③ 実習のやり方に対する感想
- ④ 回診についての感想
- ⑤ その他気づいた点または改善点

< 4. 実習日程 >

- ・日程については、実習初日に配布する。
- ・クルズスにおいても実習日程に記載する。
- ・Meet the Professor は月曜日午前中：内視鏡センター・カンファレンスルームにて。

【第1週目 見学例】

曜日	時刻	場所	内容	教員 (院内スマートフォン)
月	9:00~11:00 14:00~17:00	内視鏡センター・カンファレンスルーム 内視鏡センター	Meet the Professor オリエンテーション 下部消化管内視鏡見学	長田太郎教授 (5104) 荻原伸吾 准教授 (5105) 矢野慎太郎医師
火	9:00~11:00 14:00~15:00 15:30~17:00	放射線科透視室 消化器内科病棟 内視鏡センター・カンファレンスルーム	TACE 見学 教授回診 ※学生全員 消化器内科カンファレンス ※学生全員 ※レポート症例決定	荻原伸悟医局長 (5105) 医師全員 医師全員
水	9:00~14:00 15:00~17:00	内視鏡センター 放射線科透視室	上部消化管内視鏡見学 治療内視鏡見学 ERCP 見学	矢野慎太郎医師 医局員 荻原伸悟医局長 (5105)
木	9:00~11:00 14:30~17:00	外来 腹部超音波室 内視鏡センター	外来実習 見学 画像症例問題検討	北村庸雄教授 (5107) 医局員 医局員
金	9:00~11:00 15:30~17:00	内視鏡センター 総合医局 (8階)	上部消化管内視鏡見学 クルズス	深見久美子助手 (8435) 北村庸雄教授 (5107)

【第2週目 見学例】

曜日	時刻	場所	内容	教員 (院内スマートフォン)
月	9:00~11:00	内視鏡センター	見学	長田太郎教授 (5104)
	14:00~17:00	病棟	研修医と行動を共にする	研修医
火	9:00~11:00	放射線科透視室	TACE 見学	荻原伸悟准教授 (5105)
	14:00~15:00	消化器内科病棟 ※学生全員	教授回診 ※学生全員	医師全員
	15:30~17:00	内視鏡センター・カンファレンスルーム	消化器内科カンファレンス ※学生全員	医師全員
水	9:00~11:00	病棟	研修医と行動を共にする	研修医
	14:00~17:00	病棟	研修医と行動を共にする	研修医
木	9:00~11:00	外来 腹部超音波室	外来実習 見学	北村庸雄教授 (5107) 牛尾 助教
	13:30~17:00	病棟	研修医と行動を共にする	研修医
金	9:00~11:00	内視鏡センター	見学	福間寿斗医師
	13:00~15:00	病棟	研修医と行動を共にする	研修医
	15:30~17:00	総合医局 (8階)	総括・レポート提出	北村庸雄教授 (5107)

< 5. 担当教員 >

実習は教授・准教授 以下全教員が担当する。

< 6. 集合場所・時間 >

午前9時 内視鏡センター・カンファレンスルーム (時間厳守)

実習開始前における問い合わせに関しては消化器内科実習担当 北村庸雄 (5107)まで連絡のこと。

<7. 学習における評価>

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 担当患者

患者 _____ 病名 _____

(2) 実習項目・出欠

	曜日	午 前	午 後
第 一 週	月	オリエンテーション・プレテスト ()	検査見学 () 病棟実習 ()
	火	検査見学・病棟実習 ()	新患カンファ () 教授回診 (長田教授) () 全体カンファ () 内視鏡カンファ ()
	水	検査見学・病棟実習 ()	検査見学 ()
	木	外来見学・検査見学 ()	検査見学 ()
	金	検査見学・病棟実習 ()	検査見学 () クルズス ()
第 二 週	月	検査見学・病棟実習 ()	検査見学 () 病棟実習 ()
	火	検査見学・病棟実習 ()	新患カンファ () 教授回診 (長田教授) () 全体カンファ () 内視鏡カンファ ()
	水	検査見学・病棟実習 ()	検査見学 () 病棟実習 ()
	木	外来見学・検査見学 ()	検査・外来見学 () 病棟実習 ()
	金	検査見学・病棟実習 ()	検査見学 () 実習総括 ()

(3) 実習における評価

(A : 大変良い B : 良い C : 普通 D : やや劣る E : 大変劣る N : 実施しなかったので評価不能)

1. 出席	A	B	C	D	E	
2. 約束時間の遵守	A	B	C	D	E	
3. 積極的に学ぶ態度	A	B	C	D	E	
4. 患者に対する礼儀正しい態度	A	B	C	D	E	
5. 診療チームにおける態度・強調性	A	B	C	D	E	
6. 基礎知識	A	B	C	D	E	
7. BSL 期間中における知識の増加	A	B	C	D	E	
8. 問診技能	A	B	C	D	E	N
9. 診察技能	A	B	C	D	E	N
10. 技能簡単な臨床検査	A	B	C	D	E	N
11. 病歴、所見 の把握能力	A	B	C	D	E	N
12. 病歴、診察、検査結果からの問題設定能力	A	B	C	D	E	N
13. 検査、治療計画の立案能力	A	B	C	D	E	N
14. 臨床検査所見等の解釈力	A	B	C	D	E	N
15. 診断、鑑別診断能力	A	B	C	D	E	N
16. プレゼンテーションの能力	A	B	C	D	E	N

(4) テスト成績

1. プレテスト出欠 有 ・ 無
2. ポストテスト点数 点 (20 点満点)

(5) 教員の感想

指導教員名 _____ (印)

<8. Meet the Professor>

消化器内科学（練馬）

順天堂大学医学部附属練馬病院
責任者 大久保 裕直

< 1. 一般目標 >

本院との連携のもと、消化器疾患の診断と治療に関する基礎的事項を理解し、患者に接することにより、実際に臨床応用できる能力を育てる。さらに臨床医として、問診をし、所見をとり、病態を評価、解釈し、診断・鑑別診断のための検査を立案する。問題点を整理した上で、最も必要な治療法を考えるという態度を身につけることを目標とする。

また内科疾患における主訴は多様であり、鑑別疾患が困難であることも多々ある。そこで内科一般の基礎的事項を理解し、臨床の場においてその知識を応用し、内科一般のプライマリーケアを実践できる能力を身につけることを目標とする。

< 2. 到達目標 >

- ① 消化器疾患の疫学、分類、病態生理、診断、鑑別診断、治療、予後、問題点を把握、理解できるようにする。
- ② 内科一般のプライマリーケアに必要な検査の立案、結果の解釈を行い、適切な処置法の概略を学ぶ。
- ③ 疾患に接することにより消化器領域における急性期疾患（急性腹症、消化管出血、閉塞性黄疸、急性肝不全など）の内科的救急処置法の概略を知る。
- ④ 消化管内視鏡診断法についての原理、概略を学ぶ。
- ⑤ 肝胆膵領域における画像診断（US, CT, MRI など）、についての原理、概略、典型例を学ぶ。
- ⑥ 肝機能検査理解し、原因の検索、病態の把握、予後予測が可能となるように勤める。肝炎ウイルスなどについても学ぶ。

< 3. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点 >

- ① 予習：今までに配付された資料を読み返し、略語（本郷の要項の資料1参照）を含む専門用語を覚えておくこと。特に消化器内科の分野において知識を整理しておくこと。OSCE で学習した内容を復習しておくこと。
- ② 指定教科書「内科学（第10版）」のp52～p81、p890～p1223 ページを一読のこと。
- ③ 実習上の注意点：「病院などでの実習の心得」「医師服装についてのマニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。
- ④ 復習：実習中不明な点に遭遇した時には、指導医等に確認をして教えを請うとともに、指定教科書以外に参考教科書や参考書なども参考にし、不明な点を解決し理解を深めること。

< 4. 実習方法 >

- ① 実習のオリエンテーションに参加し、実習の概要を理解する。
(ア) 学生のための教員によるクルズスを受ける。
- ② 病棟診療グループに配属され、グループの指導医と共に担当患者の診療に参加する。病棟グループ回診にて他の上級医師とのディスカッションを重ね、担当患者ばかりでなくグループの患者の病状、治療を理解する。
- ③ 回診（科長回診、グループ回診）に参加する。
- ④ 消化器内科で行なわれる各種検査を見学し、それら検査に対する知識（検査適応疾患、前処

置および実際の検査方法、検査所見及び診断など)を向上させる。

- ⑤ 消化器内科外来を見学し、患者への接し方、問診の仕方、所見のとり方、検査結果の説明の仕方、診断・鑑別診断のための検査の立案などを学ぶ。
- ⑥ 指導教官の監督下で症例を担当し、実習の目標に沿ってレポートを作成する*1。
- ⑦ 実習終了に際しての実習総括に参加し、担当症例に関して電子カルテを使用しレポートの発表、討論を行なう。(各自10~15分程度で担当症例のプレゼンテーションを行う。)
- ⑧ Post-testを受け、消化器内科実習の到達度をチェックする。
- ⑨ 電子カルテで担当症例に関する日々のカルテ作成、アセスメントを作成する。

*1 消化器内科 BSL 担当症例レポート作成要領

①

担当患者さんから得られた問診内容、理学的所見を全て記入すること。自分がはじめて患者さんを紹介された日を基準として、問診内容、診察所見を記入する。カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

(1) 問診

- I 主訴
- II 現病歴
- III 既往歴
- IV 家族歴
- V 嗜好：飲酒歴は積算アルコール摂取量を計算しておくこと

(2) 身体所見

- I 有所見項目
- II 無所見項目で重要なもの

例：肝硬変症例では、「肝臓触知せず」、「クモ状血管腫は認めない」、「手掌紅斑は認めない」

カルテ上、以前見られて現在消失してしまった所見があれば、それを併記する。

例：Conj. bulbi : not icteric (入院時 icteric)

②

以下を簡潔明確にまとめる。

- I 各種画像検査所見 (単純X線、CT 検査、MRI 検査、その他) や内視鏡検査などを理解し、所見を記載する。
- II 血液 data を記載する。
- III 病態を理解するうえで必要に応じて入院前の外来 data を追加記載する。
- IV 以上より考えられうる異常所見を **Problem List** としてまとめる。**Problem List** の各項目について考察を加え、問題解決に必要な検査を立案する。
- V 鑑別すべき疾患を挙げ、それぞれ鑑別点及び鑑別に必要な検査を列挙する。
- VI 担当疾患についての重要点を簡潔明瞭にまとめ、記載する。

以上のレポートを第2週金曜の症例発表までに電子カルテ上にまとめる。

*2 感想文内容

- ① 消化器内科全体についての感想
- ② 医師としての心構えについて何を学んだか?
- ③ 実習のやり方に対する感想
- ④ その他気づいた点または改善点

以上の感想文は実習最終日まで総務課に提出する。

< 5. 実習日程 >

第一週 1日目の集合場所：1号館6A病棟 午前9時00分

曜日	時刻	場所	内容	教員 (Dr. PHS)
月	9:00~10:30	1号館6A病棟	オリエンテーション	福生 准教授 (3265)
		1号館6A病棟	指導医紹介	病棟担当医
	10:30~12:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		3号館1階消化器内科外来	消化器内科外来見学	外来担当医
	13:00~17:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階血管撮影室	腹部血管造影検査見学	検査担当医
17:00~	1号館6A病棟カンファレンスルーム	グループ回診	福生准教授	
火	9:00~12:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階内視鏡センター	上部消化管内視鏡検査見学	検査担当医
		3号館1階消化器内科外来	消化器内科外来見学	外来担当医
	13:00~17:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
1号館6A病棟		RFA、肝生検見学	大久保教授 (3246)	
水	9:00~12:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階内視鏡センター	上部消化管内視鏡検査見学	検査担当医
			下部消化管内視鏡検査見学	福生 准教授 (3265)
	13:00~16:30	3号館1階消化器内科外来	消化器内科外来見学	外来担当医
		1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階血管撮影室	腹部血管造影検査見学	検査担当医
1号館1階放射線透視室	ERCP 見学	検査担当医		
木	7:30~ 8:30	1号館6A病棟説明室	消化器内科カンファレンス	大久保 教授 (3246)
	8:30~ 9:00	1号館6A病棟	病棟回診	科長以下全医局員
	9:00~12:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階内視鏡センター	上部消化管内視鏡検査見学	検査担当医
		3号館1階消化器内科外来	消化器内科外来見学	外来担当医
	13:00~17:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階内視鏡センター	下部消化管内視鏡検査見学	検査担当医
		1号館1階放射線透視室	ERCP 見学	検査担当医
1号館1階放射線透視室		ERCP 見学	検査担当医	
金	9:00~12:00	1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階内視鏡センター	上部消化管内視鏡検査見学	福生 准教授 (3265)
			下部消化管内視鏡検査見学	検査担当医
	13:00~17:00	3号館1階消化器内科外来	消化器内科外来見学	外来担当医
		1号館6A病棟	病棟クラークシップ	病棟担当医
		1号館1階放射線透視室	EUS, ERCP 見学	検査担当医
1号館1階内視鏡センター	ESD 見学	福生 准教授 (3265)		

第二週

曜日	時刻	場所	内容	教員
月	9:00~12:00 13:00~17:00	1号館6A病棟 1号館1階内視鏡センター 1号館6A病棟	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 病棟クラークシップ	病棟担当医 福生 准教授 病棟担当医
火	9:00~12:00 13:00~17:00	1号館6A病棟 1号館1階内視鏡センター 1号館6A病棟	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 RFA、肝生検見学 病棟クラークシップ	病棟担当医 検査担当医 大久保 教授 病棟担当医
水	9:00~12:00 13:00~16:30	1号館6A病棟 1号館1階内視鏡センター 1号館6A病棟 1号館1階血管撮影室 1号館1階放射線透視室	病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 病棟クラークシップ 腹部血管造影検査見学 ERCP 見学	病棟担当医 検査担当医 病棟担当医 大久保 教授(3246) 検査担当医
木	7:30~8:30 8:30~9:00 9:00~12:00 13:00~17:00	1号館6A病棟説明室 1号館6A病棟 1号館6A病棟 1号館1階内視鏡センター 1号館6A病棟 1号館6A病棟 1号館1階内視鏡センター 1号館1階放射線透視室	消化器内科カンファレンス 病棟回診 病棟クラークシップ 上部消化管内視鏡検査見学 病棟クラークシップ 病棟クラークシップ 下部消化管内視鏡検査見学 EUS, ERCP 見学	大久保 教授(3246) 科長以下全医局員 病棟担当医 検査担当医 病棟担当医 病棟担当医 検査担当医 検査担当医
金	9:00~13:00 13:00~16:30	1号館6A病棟 1号館2階超音波室	病棟クラークシップ 肝癌クルズス、実習総括・口頭 試問	病棟担当医 大久保 教授

*実習日程は学生ごとに異なりますので、オリエンテーション時配布します。

<6. 担当教員>

実習は全医局員が担当する。

<7. 集合場所・時間>

実習初日集合場所

午前9時 1号館6A病棟（時間厳守）（当日不明点あらば、病棟当番へ連絡のこと）

実習開始前における問い合わせに関しては大久保先任准教授（不在時は福生准教授）

または総務課宮下(内線 5909) まで連絡のこと

<8. 学習における評価>

- (1) 評価の対象：出欠、ポストテスト、提出物、プレゼンテーション、その他実習態度を含む実習全般
- (2) 出席表：消化器内科より配布される予定表を出席表とし、そちらに署名をもらう。教務課に提出する出席表は予定表の署名を確認して実習担当者が記載する。

呼吸器内科学

責任者 高橋 和久
実習担当 塩田 智美

本院・関連病院でそれぞれ多彩な臨床像を体験し、呼吸器臨床を学ぶ。

1. 一般目標

呼吸器疾患患者の病悩を解決するために、患者の情報を収集分析して、診断、治療計画を立てることを学ぶ。

2. 到達目標

基本的な診断技術を用いて、患者のもつ病態の評価、解釈を行い、方針と対策を考える。併せて良き臨床医としての態度を身につける。

〔基本的診療計画〕

- 1) 基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる。
- 2) 得られた情報をもとに、問題点を抽出できる。
- 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。

〔医療面接〕

- 1) 礼儀正しく患者（家族）に接することができる。
- 2) プライバシーへの配慮し、患者（家族）との信頼関係を形成できる。
- 3) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。
- 4) 病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を実施できる。

〔診療記録と臨床判断〕

- 1) 毎日の所見と治療方針を SOAP 形式で記載できる。
- 2) 患者の情報を簡潔に説明できる。
- 3) 病態生理、臨床疫学的事実、社会的要因、患者の意向を考慮し、診断・治療計画を立てられる。

3. 実習方法

- 1) 実習初日のオリエンテーションで実習に際しての注意点を確認する。
- 2) 入院患者の受け持ち（指導医師の監督の下に1～2名の患者を担当し診察する）。
 - ① 患者の問診、診察を行い、その結果を記載する。実習期間内は毎日担当医の立場で診療録を記載する。
 - ② 患者に対する治療、処置を見学する。
 - ③ 診断、治療に関して、指導医との間で十分な討議を行い、文献的考察を行う。
 - ④ 実習期間中はできるだけ指導医と行動を共にし、臨床医学の実際を積極的に体験する。
 - ⑤ 水曜日の教授回診の時に、担当患者のプレゼンテーションを行い、臨床所見、検査結果および治療方針を論議する。希望があれば英語でプレゼンテーションを行う。
 - ⑥ 担当患者に関しての、考案を含めた診療記録を実習終了後、速やかに提出する。
 - ⑦ mini-CEX で医療面接、身体診察の評価を現場で複数回評価する

3) 検査見学、研究室見学。

検査（呼吸機能、気管支鏡、超音波）を見学し、検査概要と検査結果の解釈を学ぶ。
基礎研究・実験室を見学し、概要を学ぶ。

4) クルズスの受講

肺癌、喘息、COPPD、間質性肺炎、感染症、画像、呼吸機能、気管支鏡、血液ガス・呼吸不全の各講義を受講する。

5) 入院症例検討会、病棟回診に参加する。呼吸疾患の典型症例説明を受講する。

6) 希望する医学生に、手術症例、放射線治療症例検討会、症例カンファレンス、外来（一般呼吸器内科

外来、専門外来など陪席の時間を設ける。

4. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

① 予習：

今までに配付された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
特に肺癌内科治療の分野において知識を整理しておくこと。

②指定教科書：「内科学、矢崎義雄・小室一成総編集、改定第12版、朝倉書店、2022」第Ⅱ巻「呼吸器系」。

③参考教科書：

(1)「ハリソン内科学第5版（原著第19版）/メディカルサイエンスインターナショナル、2017」の「VOLUME 2 Part 11 呼吸器疾患」。

(2)「講義録 腫瘍学、高橋和久編、メディカルビュー社、2009」

④参考書：

(1)「呼吸器内科診療マニュアル、高橋和久他編、日本医学館、2014」

(2)「EBMを活かす呼吸器診療、高橋和久他編、メディカルビュー社、2015」

⑤実習上の注意点：

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。

⑥復習：

(1)オリエンテーションで実習内容を把握し、時間帯に穴を空けることなく指導医の下で実習に修練すること。

(2)当日の実習終了後、不明な用語や内容は整理し必ず指導医等に確認するなどして理解した上で、翌日の実習に臨むこと。

※「一般目標」「到達目標」「準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点」は本院・附属病院ともに共通指針とする。

5. 基本事項

① 呼吸器疾患の症候の解釈と鑑別疾患、身体所見の評価

咳嗽、喀痰（鑑別疾患：副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、上気道炎、感冒（かぜ症候群、気管支炎、気管支喘息、肺炎、肺結核、肺癌、間質性肺疾患、胃逆流症、薬剤性肺炎）

血痰、喀血（鑑別疾患：気管支拡張症、肺結核、肺癌）

呼吸困難（鑑別疾患：急性喉頭蓋炎、窒息、気管支喘息、肺塞栓症、急性呼吸促進症候群：ARDS、慢性閉塞

性肺疾患、肺炎、間質性肺疾患、肺結核、緊張性気胸、自然気胸、心不全、アナフィラキシー）

胸痛（鑑別疾患：肺塞栓症、気胸、胸膜炎）

チアノーゼ

浮腫（右心不全、上大静脈症候群）

診察技術とその解釈（視診、打診、聴診）

② 検査法の理解と結果の解釈

呼吸機能、血液ガス分析

胸部X線写真、CT、核医学検査

気管支鏡検査、EBUS、TBNA

胸部超音波検査

③健康増進や予防医学体験

・禁煙外来での喫煙による健康障害について学ぶ。（予防医学として禁煙指導の実際を体験し、喫煙関連疾患

の予防等について学ぶ）

・睡眠・呼吸障害センターでの診療を経験し睡眠呼吸障害から発生する各種疾病の予防医学について学ぶ

6. 学習事項

① 病態生理の理解

換気障害（閉塞性・拘束性、肺泡低換気）

ガス交換、不均等換気、睡眠呼吸障害

肺循環障害、肺高血圧症、右心負荷

肺の代謝、免疫、アレルギー

② 高頻度に見られる呼吸器疾患の理解

呼吸不全、低酸素血症、高二酸化炭素血症

呼吸器感染症

慢性閉塞性肺疾患

気管支喘息

間質性肺炎
肺癌
急性肺障害
過敏性肺臓炎
サルコイドーシス
胸膜・縦隔疾患
睡眠時無呼吸症候群

7. 医学用語と日本語

Bronchial Asthma	気管支喘息
Bronchitis, Bronchiolitis	気管支炎、細気管支炎
COPD	慢性閉塞性肺疾患
Interstitial pneumonitis	間質性肺炎
Pneumonia	肺炎
Pulmonary emphysema	肺気腫
Pneumothorax	気胸
Tuberculosis	結核症
Respiratory failure	呼吸不全

別途に医学用語（略語）の資料を実習期間中に配布

8. 禁忌肢

1. 高炭酸ガス血症をともなう呼吸不全：高濃度酸素投与を安易に開始してはならない。
2. 気管支喘息： β ブロッカー、コリン作動薬の投与をしてはならない。
3. アスピリン喘息：NSAID の投与をしてはならない。
4. 気胸：陽圧人工呼吸管理をしてはならない。肺機能検査をしてはならない。
5. 上大静脈症候群：上肢からの大量輸液をしてはならない。
6. 胸腔穿刺は肋骨下縁から行ってはならない。
7. 緑内障、前立腺肥大症に抗コリン薬を投与してはならない。

9. 実習における評価方法

基本的知識・技能、出欠席や実習態度、積極性などを参考に総合的に評価する。

10. 実習日程（本郷）

集合場所・時間・担当教員

実習初日午前 8 時 15 分 6 号館 2 階医局（またはオンライン）

実習開始前の問い合わせは、呼吸器内科実習担当・塩田（PHS 70310）または呼吸器内科研究室（内線 3308, 3309）まで連絡すること。

曜日	時刻	内容	場所	教員
月	9:00~17:00 9:00~12:00	病棟実習（患者紹介含む）、クルズス 気管支鏡検査	1号館9F病棟、他 B棟3階内視鏡センター	指導医 原田他
火	9:00~17:00	病棟実習、クルズス	1号館9F病棟、他	指導医
水	9:00~12:00 13:00~17:00	入院症例検討会、発表 病棟実習	1号館9Fカンファレンス室 1号館9F病棟	指導医*
木	9:00~12:00 13:00~17:00	気管支鏡検査 病棟実習、クルズス 病棟実習、クルズス	B棟3階内視鏡センター 1号館2F呼吸器内科外来 1号館9F病棟	佐藤他 指導医 指導医
金	9:00~12:00 13:00~17:00	気管支鏡検査、病棟実習、クルズス 病棟実習・肺機能実習（実習終了日）	B棟3階内視鏡センター 1号館9F病棟	長岡他 指導医

*注

- ・記載された時間は変更される場合がある。
- ・上記以外に、呼吸器セミナー、臨床病理検討会、外科病理検討会などが開催されるので参加すること。
- ・口頭試問：第2水曜日・午前、症例プレゼンテーション（担当：高橋 和久、塩田 智美）

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

高橋 和久、長岡 鉄太郎、十合 晋作、塩田 智美、原田 紀宏、佐藤 匡、田島 健、宿谷威仁、光石 陽一郎、小池 健吾、加藤 元康、金丸 良太、宮脇 太一、新田 直子、田辺 悠記、早川 乃介、松本直久 他全医局員
--

予定される主なレクチャー（実習期間中に1時間の予定で行う）および教員

内容	担当教員 (PHS)
総括	高橋教授
肺癌の診断と内科治療	宿谷
胸部X線・CT	十合
肺感染症	佐藤
肺機能・レスピ体験	塩田
気管支喘息	原田
間質性肺疾患	加藤
COPD	小池
気管支鏡	長岡

各レクチャーの日時、場所については実習初日のオリエンテーション時に配布する。

11-1. 実習日程（静岡）

曜日	時刻	内容	場所	教員
月	9:00～9:30	全体オリエンテーション(実習開始日)	総務課	総務課事務員
	9:30～12:00	呼吸器内科オリエンテーション	内科外来 4 診	岩神（直）
	13:00～	病棟実習(実習開始日・患者紹介)	病棟	指導医
	17:00	病棟実習	病棟	指導医
火	8:30～12:00	病棟実習/外来陪席	病棟	指導医/岩神（真）
	13:00～	病棟実習/胸部超音波検査	病棟/超音波室	指導医/岩神（真）
	17:00			
水	8:30～12:00	病棟実習/外来陪席	病棟/内科外来 5 診	指導医/岩神（真）
	13:00～	病棟実習	病棟	指導医
	15:00	教授回診	病棟	岩神（真）
	15:00～			
	17:00			
木	8:30～10:30	気管支鏡検査（第 1 週は検査終了まで）	H 棟 2 階テレビ室	三森
	10:30～		内科医局	岩神（真）
	12:00	Meet the Professor（実習の第 2 週）	病棟	指導医
	13:00～		4C HCU	岩神（真）
	17:00	病棟実習		
	17:00～	入院症例・外科症例検討会		
金	8:30～12:00	病棟実習/外来陪席	病棟/内科外来 5 診	指導医/岩神（真）
	13:00～	病棟実習	病棟	指導医
	15:00	教授回診	病棟	岩神（真）
	15:00～			
	17:00			

※2 週目の月曜日は 8 時 30 分から病棟実習を開始する。

※口頭試問：第 2 週木曜日・午後 6 時（担当：岩神 真一郎）

※検査予定が無い場合があるので、指導医に検査の有無を確認すること。

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

岩神 真一郎、三森友晴、岩神 直子、三浦啓太、他全医局員

11-2. 実習方法（静岡）

1. 実習初日のオリエンテーションで実習に際しての注意点を確認する。
2. 指導医師の監督の下、患者 1 名を担当し診察する。
 - 患者の診察を行い、その結果を毎日記載する。
 - 検査（気管支鏡、放射線画像、血液検査等）を見学し、その検査結果を理解する。
 - 患者に対する処置を見学する。
 - 診断、治療に関して、指導医との間で十分な討議を行う。
 - 担当患者に関する考案を含めた診療記録を、実習終了後速やかに実習責任者（岩神真一郎）に提出する。
3. 実習期間中は指導医・研修医と行動を共にし、臨床医学の実際を積極的に体験する。
4. 入院症例・外科症例検討会に出席する。
5. 実習 2 週目の症例検討会の時に、担当患者の症例提示を行い、臨床所見、検査結果および治療方針を論議する。
6. 代表的な呼吸器疾患に関するレポートを実習終了後、速やかに実習責任者（岩神真一郎）に提出する。
7. 当院では救急搬送患者を多数経験できるので、指導医、研修医が救急対応するときには、必ず見学に行くこと。
8. 代表的な呼吸器疾患のクルズスがあるので、オリエンテーション時に確認し、必ず参加すること。無断での遅刻、欠席は厳禁です。発覚した場合は評価に影響がでます。

12. 実習日程（浦安）

集合場所・時間

呼吸器内科外来・9時00分

担当教員

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

佐々木信一、長島修、牧野文彦、鈴木洋平、難波由喜子、和泉研太、他全医局員

1 週目	午前	午後
月	オリエンテーション（長島）・腫瘍クルズス（佐々木）	気管支喘息クルズス（牧野）・病棟実習
火	病棟実習・ICTラウンド（佐々木）	気管支鏡検査
水	病棟実習	病棟実習
木	病棟実習	チャート回診
金	感染症クルズス（担当未定）・病棟実習	病棟実習
2 週目		
月	禁煙クルズス（長島）・病棟実習	病棟実習
火	病棟実習・ICTラウンド（佐々木）	気管支鏡検査
水	病棟実習	緩和クルズス（難波）・病棟実習
木	病棟実習	症例プレゼンテーション・チャート回診
金	病棟実習	病棟実習・Meet the Prof.（佐々木）

※Meet the Professor の具体的な時間は第2木曜日の症例プレゼンテーション後に指示する。

※外来陪席を希望する者には積極的見学の機会を設けます。

※口頭試問は Meet the Professor の中で実施する。

外来・病棟の指導体制、週間スケジュールに従い実習を行う。チーム医療を実践して指導医・研修医やそのほかの職種の医療従事者との連携を密にして診療計画を作成し、実習に臨むこと。

実習期間中、指導医・研修医と常に行動を共にし、実際の積極的に臨床現場を体験するように努力する。

呼吸器疾患の救急患者が受診した際は積極的に診療に参加すること。

13. 実習日程（練馬）

集合場所・時間

9時00分 実習指導医（大田進）よりオリエンテーションがある。集合場所は連絡をして確認

担当教員

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

小山良、大田進、渡邊純子、竹重智仁、他全医局員

曜日/時間	月	火	水	木	金
午前	(※) 病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午後	病棟	気管支鏡検査 病棟	病棟	病棟	病棟
17:00		カンファ			

※Meet the Professor の具体的な曜日・時間帯等は実習初日に指示する。

外来・病棟の指導体制、週間スケジュールに従い実習を行う。チーム医療を実践して病棟代表医・指導医・関連の医療従事者との連携を密にして診療計画を作成し、実習にあたる。

実習方法

指導医師の監督の下、患者1名を担当し診察する。

- 患者の診察を行う。
- 検査（気管支鏡等）を見学し、その検査結果を理解する。
- 患者に対する処置を見学する。
- 診断、治療に関して、指導医との間で十分な討議を行う。
- 担当患者に関する考案を含めた診療記録を、実習終了後速やかに実習責任者（小山良）に提出する。

※外来陪席を希望する者には積極的見学の機会を設けます。

※口頭試問：第2週・木曜日 午後、症例プレゼンテーション（担当：小山良）

神 経 学 (脳神経内科)

責任者 波田野 琢

1. 一般目標

神経学の臨床実習(脳神経内科における)に際し、学生は次の目標を達成できることが期待される。

- ①神経疾患の多くの患者に直に接し、臨床研修の基本となるコア科に必要な基本的態度、技能、知識を広め医師としての職責、他職種とのチーム医療の必要性を自覚し積極的に学習し実践することができる。
- ②受け持ち症例に関しては、医師の問診、インフォームドコンセントの実際を体験する。基本的な神経診察能力を実践によりレベルアップするのみならず、上級医とのディスカッションを通し、文献的考察の方法も学び、科学的根拠に基づいた知識を得ることができる。
- ③難病疾患、高齢者など複数の病態を抱える患者を一人の人間として対峙、寄り添い良好な関係を構築する。守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮を行う。また患者の苦痛や不安感に配慮しながら問診を行う。その際コミュニケーションスキルを磨き、正しい情報を取得、選択、評価、解釈する事で診療上遭遇する問題への対応能力、医療行動規範、総合的診断能力を養うことができる。

2. 到達目標

一般目標に到達するために、次の具体的な到達目標を達成することが望まれる。

- ① 受け持ち症例の問診(現病歴)から、主訴を含めた問題点を時系列とともに明らかにできる。
- ② 問診に引き続いて神経学的所見、全身所見の診察を行い、局在診断についてカルテに正確に記述することができる。
- ③ 以上から第一診断を考え同時に鑑別診断を行うことができる。
- ④ 鑑別診断に必要な補助検査を考察することができる。
- ⑤ 現病歴・神経学的所見・補助検査所見を総合的に判断し、確定診断をめざすことができる。
- ⑥ 診断に基づいて適切な EBM を用いた治療法の選択を行い、その治療効果を判定することができる。

3. 準備学習(予習・復習等)及び実習上の注意点

予習:

神経診察技法を実習開始前に診察技法に関するビデオをみて復習しておく。

患者診察前にお互いに健常者である同級生同士で神経所見の取り方を練習しておく。

実習上の注意点:

前の週までに配付された資料(診察技法、カルテの書き方等)を活用し、略語を含む専門用語を実習中に理解する。

診察技法については、病棟および外来で指導医・担当医の指導のもと積極的にを行う。

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨む。

担当医(研修医含む)と2週間行動(全体では4週間)をとにする。

受け持ち症例以外のグループ症例についても十分な観察を行い、一度は指導医の外来陪席を行う。

外勤等で医師不在の場合は他のグループ回診などに参加する、または救急外来対応医師の現場に参加するなど実習時間を無駄に過ぎないように努める。

現病歴の記載は、担当医の指導の下にまず患者を紹介してもらいその後は自分で直接聴取する。

担当患者のカルテを毎日記載する。現病歴、診察所見は POMR<問題志向型診療記録>、日常診療内容は SOAP(主観的所見・客観的所見・評価・計画)に沿って記述し、学生番号、氏名を必ずサインすること。患者名はイニシャルを使用する。

総回診では主治医(上級医師)、担当医の指導の下に1-2症例の症状・経過プレゼンテーションを行う。

月曜から木曜のモーニングカンファレンス(B棟13階)では提示症例の要点を筆記し診断、鑑別に必要な検査、問題点に関して自分で考える訓練をする。

回診やカンファレンス、外来、救急外来など現場での医療行為を観察し、患者への接遇も身につけるだけでなく、積極的に自身で神経所見をとり神経診察技法を習得する。

補助検査の手技(採血、採尿、髄液検査、血液ガス測定、CTスキャン・MRI・SPECT・MIBG・DAT-SPECT・脳波・神経伝導検査/筋電図など)を実際に見学・体験しその意義や適応について習得する。

様々な治療法の実際、各種検査、治療手技(バルーン留置、経鼻胃管挿入、気管吸引など)を見学・体験する。

感染対策の実践として手洗いを含め標準予防策を徹底し実践する。

前半・後半ローテーション終了時に本院ではポスト試験を行い知識・学習事項の到達度を確認する。

復習:

当日の実習終了後、不明な用語や内容は必ず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

当日にグループで診察した患者の病名、症状、検査、手技などを、教科書・参考書等の関連する項を一読する。

4. 実習日程

クルズスの実施時間帯

曜日・日時・場所：日程表を参照の上、クルズス当日のモーニングカンファレンス後に時間・場所を確認する。

一ヶ月の病棟実習であるが、本院で実習を開始する班と分院(静岡、浦安、練馬)で実習を開始する班とがある。分院で開始する班の班員はそれぞれの分院で神経診察の仕方を学んでおく。

Aグループ

第1週	時間	内容	場所	担当
月				
午前	8:25-8:30	顔合わせ	B棟13階 ナースステーション	土師
	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	10:00-10:30	神経免疫回診	1号館, B棟	富沢 星野 岡田 病棟医 (1班づつ同行)
	10:30-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	14:30-15:00	オリエンテーション	IPBビル4階会議室	土師 (祝日の場合は翌火曜日に開催)
	15:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
火				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-11:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	11:00-12:00	講義 (血管障害)	IPBビル4F会議室	宮元
午後	13:00-16:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	16:00-17:00	講義 (変性疾患)	IPBビル4階会議室	波田野
水				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-11:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	11:00-12:00	講義 (筋疾患)	IPBビル4階会議室	山下
午後	13:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
木				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	13:00-14:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	14:00-15:00	講義 (神経免疫)	IPBビル4階会議室	富沢
	15:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
金				
午前	8:00-11:00	新患診察・病棟総回診	B棟8階リハビリ室	全教員
	11:00-12:00	症例検討会	10号館1階	全教員
午後	14:00-	病棟総回診	1号館, B棟	全教員

第2週

月				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	10:00-10:30	神経免疫回診	1号館, B棟	富沢 星野 岡田 病棟医 (1班づつ同行)
	11:00-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	13:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
火				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	14:00-15:00	講義(認知症)	10号館9階913室	本井
	15:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
水				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-10:30	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	10:45-12:30	ヘルスケアセミナー	天野ビル新館5階	医学教育研究室 武田裕子先生
午後	13:30-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
木				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	11:00-12:00	講義(てんかん)	IPBビル4F会議室	常深
午後	13:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
金				
午前	8:00-11:00	新患診察・病棟総回診	B棟8階リハビリ室	全教員
	11:00-12:00	症例検討会	10号館1階	全教員
午後	14:00-	病棟総回診	1号館, B棟	全教員
	15:00-15:30	口頭試問 まとめ	B棟13階	穂坂 土師
第3週	静岡/浦安			
第4週	静岡/浦安			

*講義の日程や時間は担当教員の予定によって変動することがあります。
詳細は実習1週間前を目安に秘書から送付されるメールを確認すること。

担当教員	(本郷)	(静岡)
	本井ゆみ子	野田 和幸
	佐藤 栄人	代田 健祐
	波田野 琢	井関 賛
	常深 泰司	松島 隆史
	宮元 伸和	平良 摩紀子
	富沢 雄二	(浦安)
	石川 景一	卜部 貴夫
	西川 典子	山城 一雄
	佐光 亘	渡邊 雅男
	木島 千景	中村 亮太
	中里 朋子	小川 崇
	山下 由莉	中原 登志樹
	星野 泰延	(練馬)
	中島 翔	下 泰司
	土師正太郎	古谷 剛
	穂坂 有加	富施 敦仁
	竹重 遥香	江口 博人
	王子 悠	中島明日香
	奥住 文美	濃沼 崇博
上野 真一	関本 智子	
全責任者	穂坂 有加	土師 正太郎

Bグループ

	時間	内容	場所	担当
第1週	浦安／練馬			
第2週	浦安／練馬			
第3週				
月				
午前	8:25-8:30	顔合わせ	B棟13階 ナースステーション	土師
	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	10:00-10:30	神経免疫回診	1号館, B棟	富沢 星野 岡田 病棟医 (1班づつ同行)
	10:30-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	14:30-15:00	オリエンテーション	IPBビル4階会議室	土師 (祝日の場合は翌火曜日に開催)
	15:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
火				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-11:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	11:00-12:00	講義 (血管障害)	IPBビル4F会議室	宮元
午後	13:00-16:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	16:00-17:00	講義 (変性疾患)	IPBビル4階会議室	波田野
水				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-11:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	11:00-12:00	講義 (筋疾患)	IPBビル4階会議室	山下
午後	13:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
木				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	13:00-14:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	14:00-15:00	講義 (神経免疫)	IPBビル4階会議室	富沢
	15:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
金				
午前	8:00-11:00	新患診察・病棟総回診	B棟8階リハビリ室	全教員
	11:00-12:00	症例検討会	10号館1階	全教員
午後	14:00-	病棟総回診	1号館, B棟	全教員

第4週				
月				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	10:00-10:30	神経免疫回診	1号館, B棟	富沢 星野 岡田 病棟医 (1班づつ同行)
	11:00-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	13:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
火				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-12:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
午後	14:00-15:00	講義(認知症)	10号館9階913室	本井
	15:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
水				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	9:00-10:30	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
	10:45-12:30	ヘルスケアセミナー	天野ビル新館5階	医学教育研究室 武田裕子先生
午後	13:30-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
木				
午前	8:30-9:00	モーニングカンファレンス	B棟13階 ナースステーション	本井 波田野 常深 宮元 西川 佐光 星野 木島 谷口 中島 竹重 土師 穂坂 王子 奥住 上野
	11:00-12:00	講義(てんかん)	IPBビル4F会議室	常深
午後	13:00-17:00	bed side	1号館, B棟	病棟医全員
金				
午前	8:00-11:00	新患診察・病棟総回診	B棟8階リハビリ室	全教員
	11:00-12:00	症例検討会	10号館1階	全教員
午後	14:00-	病棟総回診	1号館, B棟	全教員
	15:00-15:30	口頭試問 まとめ	B棟13階	穂坂 土師

*講義の日程や時間は担当教員の予定によって変動することがあります。
詳細は実習1週間前を目安に秘書から送付されるメールを確認すること。

静岡病院

	月曜		火曜		水曜		木曜		金曜	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1週目	オリエンテーション	13:00 講義 15:30～回診	BSL 外来陪席	BSL	BSL 外来陪席	14:00 講義	BSL	BSL	BSL	BSL
2週目	BSL	13:00 講義 15:30～回診	BSL 外来陪席	BSL	BSL 外来陪席	14:00 講義	BSL	BSL	BSL	担当患者のプレゼンまとめ

*Meet the Professor の具体的な曜日・時間帯等は実習初日に指示する。

*一般目標、到達目標、準備学習及び実習上の注意点については本院に準じる。

集合場所・時間：4B 病棟 8:30 集合

口頭試問について

日時：2週目 水曜日午後4時-5時 担当：野田和幸先生

担当患者のプレゼンまとめ： 担当 井関賛先生

クルズ：担当：野田和幸先生

浦安病院

Bグループ	月曜		火曜		水曜		木曜		金曜	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1週目	オリエンテーション(中村)	BSL	神経診察(小川)	BSL	BSL	BSL	BSL	回診	BSL	画像診断(渡邊)
2週目	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL		BSL	担当患者のプレゼンまとめ 口頭試問(渡邊)

指導医が救急当番の際は、学生も救急外来対応をする。前日入院した患者のプレゼンテーションを学生が担当。研修医、指導が前日に指導。TEE、アンギオは担当でなくても見学。

Aグループ	月曜		火曜		水曜		木曜		金曜	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
3週目	オリエンテーション(中村)	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL	回診	BSL	BSL
4週目	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL	BSL		BSL	担当患者のプレゼンまとめ 口頭試問(渡邊)

*Meet the Professor の具体的な曜日・時間帯等は実習初日に指示する。

*一般目標、到達目標、準備学習及び実習上の注意点については本院に準じる。

集合場所：3号館8階総合医局

集合時間：9時

口頭試問について

日時：最終週金曜日午前

担当：渡邊雅男 先生

練馬病院

		月	火	水	木	金
第一週	午前	オリエンテーション 患者割り当て (脳内 古谷先生)	8時 20 分:集合回診 初診外来見学	8時 20 分:集合回診 脳外科 ope 見学 * 神経放射線 放科 尾崎先生	8時 20 分:集合回診	8時 20 分:集合回診 (脳外科 ope 見学)
	午後	病棟実習 パーキンソン病 脳内 中島先生 カンファレンス	病棟実習 神経画像 脳内 濃沼先生 カンファレンス	病棟実習 カンファレンス	病棟実習 神経診察 関本先生 カンファレンス	病棟実習 カンファレンス
第二週	午前	8時 20 分:集合回診	8時 20 分:集合回診 初診外来見学	8時 20 分:集合回診 脳外科 ope 見学	8時 20 分:集合回診	8時 20 分:集合回診 9 時～まとめ 脳内 下先生 筋電図見学実習 脳内 江口先生
	午後	病棟実習 レポートチェック 脳内 古谷先生 カンファレンス	病棟実習 脳梗塞 脳内 富施先生 カンファレンス	病棟実習 カンファレンス	病棟実習 カンファレンス	病棟実習 レポート提出 脳内 古谷先生 カンファレンス

*放射線科尾崎先生(3371)、**脳神経外科 ope 見学:徳川先生(3329)の実習はあらかじめ時間と場所を確認してください。

脳内:富施先生、中島先生、濃沼先生、関本先生のクルズスは事前に時間、場所を確認してください。

初診外来見学は、いずれかを 1 回以上参加してください。

水曜日に脳外科の手術があるときは、見学をしてください。

必須、共通プログラムがあるときは、優先して受講してください。

脳内:下先生(3298)、江口先生(3299)、富施先生(3301)、中島先生(3302)、濃沼先生(3412)、関本先生(3198)、古谷(3300)

担当教員	(本郷)	(静岡)
	本井ゆみ子	野田 和幸
	佐藤 栄人	代田 健祐
	波田野 琢	井関 賛
	常深 泰司	松島 隆史
	宮元 伸和	平良 摩紀子
	富沢 雄二	(浦安)
	石川 景一	卜部 貴夫
	西川 典子	山城 一雄
	佐光 亘	渡邊 雅男
	木島 千景	中村 亮太
	中里 朋子	小川 崇
	山下 由莉	中原 登志樹
	星野 泰延	(練馬)
	中島 翔	下 泰司
	土師正太郎	古谷 剛
	穂坂 有加	富施 敦仁
	竹重 遥香	江口 博人
	王子 悠	中島明日香
	奥住 文美	濃沼 崇博
上野 真一	関本 智子	
全責任者	穂坂 有加	土師 正太郎

5. 担当教員

実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

順天堂医院：波田野 琢、他全医局員

静岡 病院：野田和幸、他全医局員

浦安 病院：卜部貴夫、他全医局員

練馬 病院：下 泰司、他全医局員

全体責任者：穂坂有加、土師正太郎

本郷クルーズ 担当教員

内容：変性疾患(波田野 琢)、血管障害(宮元伸和)、神経免疫(富沢雄二)、認知症(本井ゆみ子)、てんかん(常深泰司)

6. 集合時間・場所

(本郷) 初日は8:25 B棟13階ナースステーション

金曜日は8:00～総回診 B棟8階

(責任者：穂坂有加、土師正太郎)

(静岡) 8時30分 4B病棟 (責任者：野田和幸)

(浦安) 8時00分 3号館8階総合医局 (責任者：渡邊雅男)

(練馬) 8時20分 1号館5階B病棟 (責任者：下 泰司)

3. 準備学習(予習・復習等)及び実習上の注意点 参照のこと

基本事項

1. 問診、診察、神経学的診察
2. 静脈血採血
3. 動脈血採血
4. 腰椎穿刺
5. 筋電図検査(神経伝導速度検査、筋電図、誘発筋電図)、脳波
6. 筋生検、挿管、IVHなど機会がある場合の見学

学習事項

- 1) 神経学的診察法、症候学、カルテの書き方
- 2) 認知障害、高次機能の分類と症状
- 3) 脳血管障害の分類と症状、治療
- 4) パーキンソン病を筆頭とする変性疾患の症状と治療
- 5) 末梢神経疾患の分類と症状、治療
- 6) 内科疾患と神経症状
- 7) 代謝性疾患、中毒性疾患
- 8) 神経免疫疾患の分類と症状、治療
- 9) 神経筋疾患の分類と症状、治療
- 10) 感染症の分類と症状、治療
- 11) 頭痛、めまい、てんかん
- 12) 頭部CT、MRIの正常解剖
- 13) 神経電気生理、脳波、ボトックス治療見学

神経疾患における主要症候(検討すべき鑑別疾患)

発熱(髄膜炎)

意識障害(脳出血、脳梗塞、頭蓋内血腫、脳炎、てんかん、くも膜下出血、髄膜炎)

失神(てんかん)

けいれん(脳梗塞、脳出血、脳炎、脳症)

めまい(脳出血、脳梗塞)

嚥下困難(脳出血、脳梗塞)

便秘(Parkinson病)

不安・抑うつ(認知症、Parkinson病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)

認知障害(認知症、Parkinson病、脳梗塞、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症、薬剤性、うつ病)

頭痛(片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛、脳出血、くも膜下出血、髄膜炎、緑内障、急性副鼻腔炎、巨細胞性動脈炎(側頭動脈炎)、薬剤性)

運動麻痺・筋力低下(脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頭蓋内血腫、てんかん、脊髄損傷、椎間板ヘルニア、筋萎縮性側索硬化症、Guillain-Barré Syndrome、多発筋炎、皮膚筋炎、カリウム代謝異常)

歩行障害(脳出血、頭蓋内血腫、脳梗塞、Parkinson 病、変性性脊椎症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、変性性関節症、骨折)

感覚障害(脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、多発神経炎、糖尿病)

※医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年改訂版)より抜粋

医学用語と日本語 例

ア	coma	昏睡
イ	Dementia	認知症
ウ	Higher cerebral function	高次脳機能
エ	Aphasia	失語
オ	Apraxia	失語
カ	Cranial nerves	脳神経
キ	Nystagmus	眼振
ク	Muscle tone	筋緊張
ケ	Spasticity	痙縮
コ	Rigidity	固縮
サ	Involuntary movement	不随意運動
シ	Coordination	協調運動
ス	Finger to nose test	指鼻試験
セ	Autonomic nervous system	自律神経系
ソ	Urinary incontinence	尿失禁
タ	Orthostatic hypotension	起立性低血圧

禁忌肢

- ア うっ血乳頭がある場合、腰椎穿刺をしてはならない。
- イ 出血傾向がある場合、腰椎穿刺をしてはならない。
- ウ 低ナトリウム血症の急速なナトリウムの補正を行ってならない。
- エ 栄養状態の悪い患者に、ブドウ糖のみの点滴をしてはならない。
- オ 脳梗塞急性期の高血圧は、過度の降圧をしてはならない。
- カ 抗パーキンソン病薬の投与を突然中止してはならない。
- キ 重症筋無力症クリーゼの際にコリンエステラーゼ阻害薬を安易に投与してはならない。

実習方法

- ① 規定の時間にB棟13階ナースステーションに集合しモーニングカンファレンスに出席する。
- ② 月曜から木曜まではモーニングカンファレンス終了後担当医と受持患者の朝回診を行い、カルテ記載をPOS/SOAPで行う。月～木まで各分野のクルズスを行うが必ず当日朝に時間と場所を確認し出席すること。
- ③ 毎週金曜は総回診が行われる。午前8時よりB棟8階リハビリ室でのカンファレンスに出席する。病棟回診では症例プレゼンテーションを行う。指導医、チーフレジデント、および担当医の指導のもと、受け持ち患者の疾患のポイントや治療方針の要点を押さえプレゼンテーションを作成する。症例プレゼンテーションでは論理的思考が伝わるよう努めることが望ましい。症例プレゼンテーションを行ったら指導医が評価する。また、医局が関係する院内研究会、講演会には17時を過ぎる場合でも全員参加が望ましい。
- ④ 医療チームの一員として、できる限り担当医と行動を共にし、それぞれの患者の病状、病態、検査、診断、治療についてディスカッションする。疑問に思った事は積極的に自分で調べて勉強する。神経学的診察手技、神経放射線、神経生理検査などベッドサイドでしっかり実際の診療の必要なものについて自身で診察、診断ができる訓練を行う。

上部消化管外科学

責任者 峯 真司
福永 哲

1. 一般目標

外科学の分野における基本的知識、周術期管理、特に消化管疾患についての知識と理解を深め、更にその診断的技能と基本的手術手技を習得する。

2. 到達目標

術前症例検討会を通じてカンファレンス用紙に書かれている内容、プレゼンテーション技術、術式、再建、医学略語を理解できるようになる。

手術見学を通じて外科医に必要な行動、生きた解剖を理解できるようになる。

総回診を通じて様々な患者とのコミュニケーション、臨機応変な治療方針を理解できるようになる。

検査見学を通じて手術以外の集学的治療の必要性、検査手技の重要性を理解できるようになる。

クルズスを通じて臨床実地から得られる医学的知識を理解できるようになる。

3. 実習における必修学習項目

(1) 実習に入る前に次の事項を理解していることが前提となるので十分な学習を行っておくこと。

- ① 日常臨床で常用される各検査測定値の正常値の理解と記憶
- ② 主要疾患の手術術式についての基本的理解

(2) 実習目標達成に対して次のような教育を受ける。

- ① 患者の病歴を正確に記述し、それに基づいて診断の方向づけをする。
- ② 全身状態を考慮した上で主として視、触、打診により異常所見を把握する。
- ③ 主要疾患の診断および治療に必要な検査を選択し、かつその結果を解釈する。
- ④ 術前、術後患者を診察し、外科学の分野における基本的知識、例えば開胸・開腹時の術前・術後の処置、並びに術後合併症、輸血、輸液、水分電解質代謝、酸塩基平衡、創傷の治療などについて正しく理解する。
- ⑤ 以上の結果を総合して主要疾患の診断ができ、かつ治療方針（手術適応、術式の選択、合併療法など）をたてる。
- ⑥ 手洗い、消毒、止血、縫合、臓器の扱い方などの外科手術基本手技の実際を理解する。
- ⑦ 救急疾患の緊急処置法の原則を理解する。
- ⑧ 医師と患者の Communication に参加してその職業的、研究的活動を理解する。
- ⑨ インフォームド・コンセントの実際を理解する。

(3) 必修学習項目

- ① 医の倫理：インフォームド・コンセント
- ② 主要症状：腹痛、食思不振、体重減少、嚥下障害、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢、血便、筋性防御、腹部膨満、腹水
- ③ 検査：上部消化管造影検査、上部消化管内視鏡検査など
- ④ 手術：手術適応と手術時期、消毒と滅菌、基本的手術手技
- ⑤ 周術期患者管理（術前・術後管理）
- ⑥ 各論：食道癌、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニア、食道アカラシア、食道・胃粘膜下腫瘍、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、胃 GIST、胃切除後症候群

4. 実習の方法

- (1) 主要な外科疾患の基本的知識に関するプレテストを受ける。
- (2) 実習のオリエンテーションに参加する。
- (3) 指導医師の指導のもとで症例を担当する。
 - ① 問診と診察を行い、病歴を作成して、その後の方針を検討する。
 - ② 病歴より診断のための検査項目を選択し、その検査成績を検討し治療方針を決める。
 - ③ 検査を見学し、結果の解釈を理解する。
 - ④ 手術を見学または介助し、術式について理解する。
 - ⑤ 担当患者の術前・術後処置を指導医とともに検討する。
 - ⑥ 外科医療における禁忌肢を理解する。
- (4) 病棟回診及び総回診に参加し、電子カルテの読み方について講義をうけ、ガーゼ交換、注射などを見学・実施する。
- (5) シミュレーションセンターにて腹腔鏡手術についての実践、体腔内吻合について学び、VR トレーニングを受ける（虫垂切除、胆嚢摘出など）
- (6) 術前の症例検討会に参加し、不明の点があれば、積極的に討議に加わる。
- (7) クルズに参加し、疾患の病態・治療方法について講義をうける。

5. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

①予習：

過去の授業で配付された資料を読み返し、可能な範囲で略語を含む専門用語を理解しておくこと。
特に上部消化管外科領域の分野において知識を整理しておくこと。

②指定教科書：「新臨床外科学（第4版）」P380～P402、P420～P436
標準外科学<Standard Textbook> 第16版

③実習上の注意点：

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。

④復習：

当日の実習終了後、不明な用語や内容は指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

6. 実習における評価方法

基本的知識・技能、出欠席や実習態度、積極性などを参考に総合的に評価する。

7. Meet the Professor

曜日	時刻	場所	内容	担当
金	11:00-12:00	医局	縫合・結紮手技レクチャー	峯教授
金	9:00-11:00	病棟	教授回診	福永教授

8. 禁忌肢

- a 説明と同意（インフォームド・コンセント）なくして治療を開始してはならない。
- b QOL（quality of life）を無視した外科治療を行ってはならない。
- c 抗凝固剤投与中の患者に同意なく内視鏡下生検を行ってはならない。
- d 心疾患、前立腺肥大症、緑内障のある患者に抗コリン剤を投与してはならない。
- e 急性腹症患者の初期治療に鎮痛剤として麻薬を用いてはならない。
- f 腸管の血行障害を伴った腸閉塞症患者に保存的治療を行ってはならない。
- g 腸閉塞患者に高圧浣腸、緩下薬投与、バリウムによる上部消化管造影を行ってはならない。
- h 胃切除後縫合不全が疑われる患者に経口バリウム検査を行ってはならない
- i 胃・十二指腸潰瘍穿孔の患者に経口バリウム造影X線検査を行ってはならない。
- j 中毒性巨大結腸症、腸閉塞、消化管穿孔に大腸内視鏡前処置の経口腸管洗浄薬を投与してはならない。
- k 出血性胃潰瘍にESD・EMRを行ってはならない。
- l 大量吐血によるショック状態では治療に結びつかないため上部消化管造影を行ってはならない。
- m 上部消化管出血に対してトロンビン末溶解液を静注してはならない。
- n 腹部外傷の出血性ショック状態では消化管損傷が否定できなければ、内視鏡検査を行ってはならない。
- o 食道静脈瘤に内視鏡切除を行ってはならない。
- p 還納できない鼠径ヘルニア嵌頓の患者に保存的治療を行ってはならない
- q 鼠径ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアの脱出部分に穿刺吸引を行ってはならない。
- r 経鼻栄養チューブの先端位置を確認せずに栄養剤などを投与してはならない。
- s 食道気管瘻のある患者に食事を食べさせてはならない。

9. 医学用語及び和訳

略語	正式名	意味
ABC	aspiration biopsy cytology	穿刺細胞診
AC	adjuvant chemotherapy	補助化学療法
ADC	adenocarcinoma	腺癌
Bx	biopsy	生検
CTA	cervical/thoracic/abdominal lymph node dissection	頸胸腹3領域リンパ節郭清の食道切除
CT	chemotherapy	化学療法
DGR	distal gastrectomy	幽門側胃切除
EGJ	esophagogastric junction	食道胃接合部
ESD	endoscopic submucosal dissection	内視鏡的粘膜切開剥離術
EUS	endoscopic ultrasonography	超音波内視鏡
GDA	gastroduodenal artery	胃十二指腸動脈
GIF	gastrointestinal fiber	上部消化管内視鏡
Lap	Laparoscopic surgery	腹腔鏡手術
LGA	left gastric artery	左胃動脈
LGEA	left gastroepiploic artery	左胃大網動脈
LTA	left thraoabdominal incision	左胸腹連続切開
meta	metastasis	転移
NAC	neoadjuvant chemotherapy	術前化学療法
pap	papillary adenocarcinoma	乳頭腺癌

PEG	Percutaneous endoscopic gastrostomy	內視鏡的胃瘻造設術
PGR	proximal gastrectomy	噴門側胃切除
PPG	pylorus preserving gastrectomy	幽門溫存胃切除術
RGA	right gastric artery	右胃動脈
RGEA	right gastroepiploic artery	右胃大網動脈
SCJ	squamo-columnar junction	扁平-腺上皮境界
SCC	squamous cell carcinoma	扁平上皮癌
TGR	total gastrectomy	胃全摘
tub	tubler adenocarcinoma	管狀腺癌
UGI	upper gastrointestinal series	上部消化管造影

10. 実習日程 (PHS番号はコール表参照)

2.		時間	予定	場所	担当
月	午前	8:00～9:00	術前症例検討会	サテライト 2-3 階医局	全医局員
		9:00～9:30	オリエンテーション (第1週目のみ)	サテライト 2-3 階医局	那須 准教授
		9:30～17:00	主要外科疾患の手術見学 (指導医の指示で適宜休憩)	B 棟手術室	教授、各担当医
火		9:00～17:00	手術見学	B 棟手術室	教授、各担当医
水	午後	10:00～12:00	プレテスト (第1週目のみ) 症例検討実習 (PBL) (いずれかの週)	サテライト 2-3 階医局	那須准教授
		12:00～5:00	手術見学	B 棟手術室	教授、各担当医
木		9:00～17:00	手術見学	B 棟手術室	教授、各担当医
金	午前	8:00～9:00	術前症例検討会	サテライト 2-3 階医局	全医局員
		9:00～	教授回診	B 棟 6AICU から各病棟	教授、各担当医
	午後	11:00～12:00	縫合・結紮レクチャー (原則第1週)	サテライト 2-3 階医局	峯 教授
		13:00～	手術見学	B 棟手術室 B 棟 3 階	各担当医
		14:00～	内視鏡クルズス (いずれかの週)	サテライト 2-3 階医局	橋本准教授
14:00～	VR、体腔内縫合講習	シミュレーションセンター	折田先任准教授		

全ての週で月曜、金曜は朝、症例検討会に参加する。

手術見学は、指定時間に手術室に集合する。

第1週の月曜日が祝祭日の場合

火曜 8:30 よりサテライト 2-3 階医局 にてオリエンテーションを行う。

クルズス

各クルズスは手術などのスケジュールによって、曜日時間などを調整する。シミュレーションを除き 4 週間の中で原則一回のみ行うが、内容が終了しなかった場合は日程追加することがある。クルズスは各担当者の指示に従い、病棟実習よりも優先する。

病棟実習

グループ回診で担当患者のプレゼンテーションを行う。術後透視、胸腔穿刺などの病棟処置を見学し、創消毒、抜糸等の手技を機会があれば実際に行う。

<担当症例>

手術症例 1 例を担当し実習を行う。担当患者については可能な限り訪室し、状況把握とコミュニケーションを図る。患者からの訴えや伝言などがあれば確実に医師に伝え、指示を仰ぐ。

- ・レポート作成
 - a. 主訴・現病歴・既往歴・家族歴・現症
(診断や手術リスクに関与するものを簡潔に記載する)
 - b. 画像検査のスケッチ (必須)
胸腹Xp, GIF, CT は必須。その他の検査は所見を文章で記載する。術前治療症例は治療前の検査を記載する。
→ ここまでで早めに指導医にチェックを受ける。
 - c. 手術記事 カルテの手術記事を参照する。当該症例の手術記事がない場合、指導医に参照できる類似症例の手術記事を教えてもらう。
- ・カルテ記載 術後10病日 (または実習終了) までのSOAPをレポートに記載する。

BSL終了時に提出するもの（メール送付可）

1. 実習評価報告書（1枚）
2. オリジナルレポート（2号紙）1例
3. アンケート

注意事項

1. 症例検討会の資料などは個人情報も多く含むので、管理に注意し実習終了時にはシュレッダーにかける。
2. 手術室内では清潔領域に留意し、他人の動きを妨げないように注意する。
3. 病気や不慮の事態などでBSLに出席できないか遅れる場合には、必ず指導医に直接連絡する。

上部以外の消化器外科領域の手術見学について

実習のローテーションの組み合わせにより、関連病院も含めて実習する機会のない領域がある場合には、大腸肛門外科、肝胆膵外科、低侵襲外科の手術を見学することができる。

- ・第3週目以降の担当症例の手術のない日
- ・1症例につき学生2名まで

手術スケジュールを参考に、指導医と個別に相談する。

下部消化管外科学(大腸・肛門外科)

責任者 担当者

1. 一般目標

- ① 臨床研修の基本となる外科必須の基本的態度・技能・知識を体験する。
- ② 医師として、患者さんに接するために必要な基本的臨床能力（態度，知識，技能）を身につける。
- ③ 臨床実習の意義を理解し、積極的に学習する。

2. 到達目標

下部消化管外科学履修の学生は、終了時に

- ① 診療や治療が「ガイドライン」に準じて行われていることを理解し、自らもEBM(Evidence based medicine)に基づいた適切な判断と医療が実践でき、生涯にわたり自らの能力を向上させることができる。
- ② 医療制度を適切に活用し、社会および医療チームの中で医師としての役割を果たし、患者さんを中心とした医療を実践できる。
- ③ 科学的情報を批判的に吟味し、新しい発見と創造のための論理的思考と研究を行える。
- ④ 手術実習や各種スキルトレーニングを通じて、開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援下手術の違いや、肛門疾患手術、大腸内視鏡検査や内視鏡治療、腸管吻合操作などを学習し、説明することができる。

3. 実習における必修学習項目

- ① 実習に入る前に次の事項を理解していることが前提となるので十分な学習を行っておくこと。
 - a 日常臨床で常用される各検査測定値の正常値の理解と記憶
 - b 主要疾患の手術術式についての基本的理解
- ② 実習目標達成に対して次のような教育を受ける。
 - a 患者の病歴を正確に記述し、それに基づいて診断を行う。
 - b 全身状態を考慮した上で主として視、触、打診により異常所見を把握する。
 - c 主要疾患の診断および治療に必要な検査を選択し、かつその結果を解釈する。
 - d 術前、術後患者を診察し、外科学の分野における基本的知識、例えば開腹手術・腹腔鏡手術の術前・術後の処置、並びに術後合併症、輸血、輸液、水分電解質代謝、酸塩基平衡、創傷の治療などについて正しく理解する。
 - e 以上の結果を総合して主要疾患の診断ができ、かつ治療方針（手術適応、術式の選択、合併療法など）をたてる。
 - f 手洗い、消毒、止血、縫合、臓器の扱い方などの外科手術基本手技の実際を理解する。
 - g 救急疾患の緊急処置法の原則を理解する。
 - h 医師と患者の Communication に参加して、その職業的、研究的活動を理解する。
 - i インフォームド・コンセント (Informed Consent、IC) の実際を理解する。
- ③ 必修学習項目
 - a 医の倫理：インフォームド・コンセント
 - b 主要症状：悪心・嘔吐、腹痛、反跳痛、筋性防御、食思不振、体重減少、下血・血便、便秘、下痢、腹部膨満、腹水
 - c 検査：下部消化管内視鏡検査
 - d 手術：手術適応と手術時期、消毒と滅菌、基本的手術手技

- e 周術期管理(術前・術後管理)
- f 各 論：大腸腺腫、結腸癌、直腸癌、腸閉塞、炎症性腸疾患
 肛門疾患(痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍など)、
 ヘルニア(鼠径、大腿、閉鎖孔)、急性腹症(急性虫垂炎、消化管穿孔、
 絞扼性イレウスなど)

4. 実習の方法

- ① 第1週目の月曜日の集合時間、場所等を班の代表者が前週にメールで盧に確認すること。
 (原則として集合場所・時間はサテライトIIビル4階下部消化管外科医局 8:00 AM)
- ② 主要な外科疾患の基本的知識に関するプレテストを受ける。
- ③ 実習のオリエンテーションに参加する。
- ④ 指導医師のもとで症例を担当する。入院患者3人を担当する。そのうち大腸癌、肛門疾患、ヘルニア症例は必ず経験すること。
 - a 問診と診察を行い、病歴(レポート)を作成して、その後の方針を検討する。
 - b 病歴より診断のための検査項目を選択し、その結果を検討し治療方針を決める。
 - c 種々の特殊検査を見学または介助し、検査について理解する。
 - d 担当患者の手術を見学または介助し、術式について理解する。
 - e 担当患者の術前・術後処置を指導医とともに検討する。
 - f 外科医療における禁忌肢を理解する。
 - g 担当した症例の治療について、EBMとなる文献を検索する(文献をレポートに添付すること)
- ⑤ 朝の病棟回診に参加し、電子カルテおよび経過表の読み方について講義をうけ、ガーゼ交換、術後創部処置などを見学する。できる限り診療チームに参加することを心掛ける。
- ⑥ 術前の症例検討会(カンファレンス)に参加し、不明の点があれば、積極的に討議に加わる。カンファレンスでは受け持ち患者さんのプレゼンテーションを心掛ける。
- ⑦ クルズに参加し、疾患の病態・治療方法について講義をうける。
- ⑧ 社会的、心理的問題を有する患者例について、グループ討議する。
- ⑨ インフォームド・コンセントの実際を学ぶ。
- ⑩ 積極的にMini-CEX(mini-clinical evaluation exercise: 学生が実際の患者さんで診察を行い、指導医がチェックリストをもとに評価する)を受ける。
- ⑪ ポストテストをうける。
- ⑫ 基本的手技(ガウンテクニックや手洗い)の評価をmini-CEXを用いて行う

5. 準備学習(予習・復習等)及び実習上の注意点

- ① 予習：今までに配付された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
 特に腹腔鏡下手術、大腸内視鏡の分野において知識を整理しておくこと。
- ② 指定教科書：「新臨床外科学第4版」を一読のこと。
- ③ 参考教科書：「標準外科学第15版」を一読のこと。
- ④ 参考書：「病気が見える vol.1 消化器 第6版」の「腸・腹膜疾患」を一読のこと。
- ⑤ 実習上の注意点：「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解する。
- ⑥ 復習：当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

6. 実習における評価方法

基本的知識・技能、出欠席や実習態度、積極性などを参考に総合的に評価する。

7. 基本事項

- ① 小腸，結腸の解剖を説明できる。
- ② 直腸，肛門の解剖を説明できる。
- ③ 胸部，腹部単純 X 線の異常を指摘できる。
- ④ 大腸内視鏡の所見を説明できる。
- ⑤ CT 検査，MRI 検査，PET 検査などの画像所見を理解できる。
- ⑥ 大腸悪性腫瘍の概略を説明できる。
- ⑦ 炎症性腸疾患の概略を説明できる。
- ⑧ ヘルニアの概略を説明できる。
- ⑨ 肛門疾患の概略を説明できる。
- ⑩ 手術の概略を説明できる。
- ⑪ 術後管理と合併症について説明できる。
- ⑫ 主要疾患の治療ガイドラインについて説明できる。
- ⑬ EBM に準じた治療であるかについて、自ら検証することができる。

8. 医学用語（和訳）

- ① jejunum 空腸
- ② ileum 回腸
- ③ Cecum 盲腸
- ④ Ascending colon 上行結腸
- ⑤ Transverse colon 横行結腸
- ⑥ Descending colon 下行結腸
- ⑦ Sigmoid colon S 状結腸
- ⑧ Rectosigmoid 直腸 S 状部
- ⑨ Rectum 直腸
- ⑩ Ba-E (Barium enema) 注腸検査 (大腸 X 線検査)
- ⑪ CF (Colonofiber), CS (Colonoscope) 大腸内視鏡検査
- ⑫ CEA (carcino embryonic antigen) 癌胎児性抗原
- ⑬ right (left) hemicolectomy 結腸右半(左半)切除術
- ⑭ Low anterior resection(LAR) 低位前方切除術
- ⑮ Miles' (APR: abdominoperineal resection) 腹会陰式直腸切断術(マイルス手術)
- ⑯ stoma (colostomy, ileostomy) 人工肛門(大腸人工肛門、回腸瘻)
- ⑰ LAC(Laparoscopic assisted colectomy) 腹腔鏡補助下大腸切除術
- ⑱ Hemorrhoid 痔核
- ⑲ anal fistula 痔瘻
- ⑳ ISR (intersphincteric resection) 括約筋間直腸切除
- ㉑ TAPP(trans abdominal pre peritoneal approach)
腹腔鏡下腹腔内到達法
- ㉒ Direct/indirect hernia 内/外ソケイヘルニア
- ㉓ SMA/SMV(superior mesenteric artery/ vein)
上腸間膜動/静脈
- ㉔ IMA/IMV(inferior mesenteric artery/ vein)
下腸間膜動/静脈

9. 禁忌肢

1. 説明と同意 (インフォームド・コンセント) なくして治療を開始してはならない。
2. QOL(Quality of life)を無視した治療を行ってはならない。
3. 抗血栓薬投与中の患者に観血的治療を行ってはならない。
4. 造影剤アレルギーのある患者に造影 CT 検査を行ってはならない。

5. 腸閉塞の患者にバリウムを服用させてはならない。
6. 腸閉塞の患者に下剤を服用させてはならない。
7. 絞扼性イレウスの患者を保存的に治療してはならない。
8. EBM(ガイドラインを含む)を無視した治療を行ってはならない。

10. 実習日程等

		時間		学 生	場 所	担 当
第 1	月	AM 8:00	カンファレンス	A B C D	サテライトⅡ 4階	医局員
		9:00	グループ回診	A B C D	B棟 14階～	医局員
		PM 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病 棟 or 内視鏡室	塚本
	火	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			医局員
	水	AM 8:30	グループ回診	A B C D	病 棟 (B棟 6階 ICU～)	
		PM 13:30 15:00	大腸内視鏡見学 クルズス (腹腔鏡)	A B C D A B C D	内視鏡室 サテライトⅡ 4階	盧 奥澤
	木	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			医局員
	金	AM 8:00	カンファレンス	A B C D	サテライトⅡ 4階	全医局員
		9:00	プレテスト	A B C D	サテライトⅡ 4階	富木
		PM 13:00	Meet the Professor	A B C D	サテライトⅡ 4階	担当者
		PM 14:00 15:00	クルズス(手術) 病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D A B C D	サテライトⅡ 4階 病棟 or 内視鏡室	医局員 土谷

		時間		学 生	場 所	担 当
第 2	月	AM 8:00	カンファレンス	A B C D	サテライトⅡ 4階	医局員
		9:00	グループ回診	A B C D	B棟 14階～	医局員
		PM 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病 棟 or 内視鏡室	塚本
	火	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			医局員
	水	AM 8:30	グループ回診	A B C D	病 棟 (B棟 6階 ICU～)	医局員
		10:30 PM 13:00	クルズス (大腸癌について) 大腸内視鏡見学	A B C D A B C D	サテライトⅡ 4階 内視鏡室	盧 盧
	木	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			医局員
	金	AM 8:00	カンファレンス	A B C D	サテライトⅡ 4階	全医局員
		PM 15:00	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病棟 or 内視鏡室	土谷

		時 間		学 生	場 所	担 当
第 3	月	AM 8:00	カンファレンス	A B C D	サテライトⅡ 4階	医局員
		9:00	グループ回診	A B C D	B棟 14階～	医局員
		PM 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病 棟 or 内視鏡室	塚本
	火	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			医局員
	水	AM 8:30	グループ回診	A B C D	病 棟 (B棟 6階 ICU～)	塚本 盧
			クルズス (鼠径部ヘルニア)	A B C D	サテライトⅡ 4階	
		PM 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病 棟 or 内視鏡室	
		木	AM 8:30	手術見学	A B C D	
	PM		↓			医局員
金	AM 8:00	カンファレンス(発表)	A B C D	サテライトⅡ 4階	全医局員 土谷	
	PM 15:00	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病棟 or 内視鏡室		

第 4	月	AM 8:00	カンファレンス	A B C D	サテライトⅡ 4階	全医局員
		9:00	グループ回診	A B C D	B棟 14階～	全医局員
		PM 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病棟 or 内視鏡室	塚本
	火	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			
	水	AM 8:30	グループ回診	A B C D	病棟 (B棟 6階 ICU～)	百瀬 盧
			クルズス (肛門疾患)	A B C D	サテライトⅡ 4階	
		PM 13:00 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病棟 or 内視鏡室	
	木	AM 8:30	手術見学	A B C D	B棟 5階手術室	医局員
		PM	↓			
金	AM 7:50	カンファレンス(発表)	A B C D	サテライトⅡ 4階	全医局員 富木 本庄 土谷	
		ポストテスト	A B C D	サテライトⅡ 4階		
	13:00	適時ロボット手術実習				
	PM 13:30	病棟 or 大腸内視鏡見学	A B C D	病棟 or 内視鏡室		

☆A、B、C、Dの振り分けは、各グループの学生番号順を原則とする。

☆診療グループは、A、BがE Group、C、DがF Groupとする。

☆口頭試問は、実習最終週の金曜日に実施予定。(担当：富木 裕一)

ルーチンのスケジュールの他に下記実習を予定する。

- 1) ドライラボ・トレーニング
- 2) 縫合トレーニング
- 3) 外来医療面接実習 (水曜日)
- 4) 手術シミュレーターを使用した実習

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。ただし近年の COVID19 の感染状況により、中止の場合がある。また感染対策をしっかりと講じること。

富木裕一、奥澤淳司、高橋玄、杉本起一、本庄薫平、盧尚志、塚本亮一、土谷祐樹、百瀬裕隆、他医局員

(1). 祭日について

第1週目の月曜日が祭日：事前に火曜日の集合時間、場所等を虚に確認すること。

(原則としてサテライトIIビル4階下部消化管外科医局 集合時間は8:00 AM)

午後のプレテスト、クルズスは他の日に変更するので事前に確認すること。

火～金曜 祭日 その日に予定されていた実習は中止。クルズスは他の日に変更する場合がありますので確認すること。

(2). 担当グループ

担当医師の指導を受けること。

(3). BSL終了時に提出するもの

① 臨床実習評価表

② レポート(2号紙)

i.主訴・現病歴・既往歴・家族歴・現症

ii.各種画像検査のスケッチ

iii.手術記事

iv.術後経過 (SOAP形式で記載)

v.考察

③ BSL終了後1週間以内にサテライト4階 医局の秘書に提出すること。

(4). 注意事項

① 集合時間を守ること。

② カンファレンスの用紙に記載されている患者の個人的な情報は、各自マジックなどで消去すること。

③ 病気などでBSLに出席できない場合には、担当グループ長もしくは、教育担当、医局長まで連絡すること(友人に「伝えておいて…」は認めない)。

1.1. 実習の学習事項および総合評価

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 受持患者

	病 名

肝・胆・膵外科学

責任者 齋浦 明夫

1. 一般目標

外科学分野における基礎的知識、一般的な外科疾患などについての知識と理解を深め、更に実際の診療の場において外科医としての診断的スキルと基本的手技及び医師としての誠実な態度を身につける。

2. 到達目標

患者さんの診療を行うことにより肝胆膵領域疾患の概念を修得し、的確な診断、治療方針の決定が出来るようになる。

3. 実習における必修学習項目

1. 一般的な外科疾患の患者に対する問診、視診、触診ができる。
2. 消化器外科に必要な解剖学的基礎知識の修得
3. 消化管ならびに肝、胆道、膵疾患の画像診断と検査成績の評価、手術適応についての理解
4. 手洗い、消毒、止血、縫合、開腹、腹腔内臓器の扱い方などの基本的手術手技の修得
5. 輸血、輸液、水分電解質代謝、酸塩基平衡、術後合併症など全身管理に必要な外科的基礎知識の修得

4. 実習の方法

- (少なくとも) 担当症例の手術に参加する
- 担当症例(悪性疾患手術症例)についてレポートをまとめる
- 担当症例(胆嚢摘出術など良性疾患)の術前プレゼンテーションをする
- 口頭試問を受ける

集合場所：月曜 8:00 医局 (サテライト2 2F)

- 初日が祝日となる場合は、下記の週間スケジュールを参考にして集合してください。
- 実習開始初日のカンファレンス後に各学生に担当の指導医を割り当てます。
- 基本的に日々の実習は指導医に従って行動してください。講義・実習がある場合はそちらを優先してください。それぞれの指導医が参加する手術は積極的に手洗いをしてください。
- 実習開始後、それぞれの指導医から悪性疾患(レポート対象となる症例、術前プレゼンテーション不要)、良性疾患(術前プレゼンテーション対象となる症例、こちらはレポート不要)が割り当てられます。

<週間スケジュール> 前週金曜日までに准教授 武田 (yo-takeda@juntendo.ac.jp) へ連絡して確認すること

- 月曜日：8:00 から消化器外科カンファレンスに参加。その後はそれぞれの指導医について手術に参加・病棟回診。
- 火曜日：8:30 からサテライト2 2F 医局で医局でのチャート回診に参加。その後はそれぞれの指導医について手術に参加・病棟回診。
- 水曜日：8:00 からサテライト2 2F 医局でカンファレンスに参加。その後はそれぞれの指導医について手術に参加・病棟回診。

- 木曜日：8:30 から教授回診。医局でのチャート回診からスタート。その後はそれぞれの指導医について手術に参加・病棟回診。
 - 金曜日：8:30 からサテライト2 2F 医局で医局でのチャート回診に参加。その後はそれぞれの指導医について手術に参加・病棟回診。
- * 手術がない場合は通常 9:00・16:00 頃から病棟回診を行っています。指導医に確認の上で B 棟 16 階ナースステーションに集合して下さい。
- * 指導医が入る手術がない日でも積極的に手術見学に参加してください。

<講義・実習>

- 膵癌治療の歴史 — 外科医が必要だ（担当：三瀬先任准教授）
- 肝移植（担当：小寺先任准教授）
- 胆石症と腹腔鏡下胆嚢摘出術（担当：吉岡准教授）
- 結紮・縫合実習（担当：平田准教授）

各講義とも担当医から開催日時を周知します。

<Meet the professor>

- 期間中に齋浦教授との昼食会があります。手術予定によっては時間・日程が決まりますので、詳細については実習開始後に周知します。

<試問>

- 実習最終週にレポート提出の上でその内容に基づいた試問を行います。日程詳細は実習開始後に周知します。試問担当：武田准教授

<評価>

- 術前カンファレンスでのプレゼンテーションを Mini-CEX を用いて評価する。
- 縫合結紮の評価を mini-CEX を用いて行う。
- BSL 担当教員から口頭試問を受け学習状況の評価をうける（相対評価）
- その他、実習参加状況・口頭試問・レポートの内容から総合的に判断します。
- 正当な理由のない欠席（無断欠席含む）が期間中に 4 日以上あった場合は不合格とします。

<術前プレゼンテーション>

- 水曜のカンファレンスで、担当症例（主に胆嚢摘出術）の術前プレゼンテーションを行ってください。
- プレゼンテーションは指導医とよく打ち合わせをして、目安 5 分以内に伝えるべき事項を簡潔かつ的確にプレゼンテーション出来るよう練習してください。

<レポート>

- 担当症例について、添付の形式を参考にレポートを作成してください
- 氏名・ID・生年月日などの患者さんを特定できるデータは記載しないでください
- 考察では少なくとも 2 本の英語論文を引用し、引用文献を記載してください。

- 作成後指導医の査読を受け、合格をもらったものを最終試問時に提出してください。
 - 各指導医には積極的にレポート作成のサポートをするよう教室として指示しています。十分なサポートを受けられずレポート作成に支障をきたす場合は吉岡（730779, r-yoshioka@juntendo.ac.jp）または武田（730782, yo-takeda@juntendo.ac.jp）まで気軽に相談してください。

レポート形式（参考）

症例 ○○歳 性別

術前診断 ○○ 病期（UICC および取り扱い規約を併記）

予定手術 ○○（略語を使用するのであればスペルアウト出来ることが大前提です）

現病歴 簡潔かつ必要な情報の漏れなく記載してください

既往歴

生活歴

家族歴

入院時現症

検査所見 採血のうち特記すべき項目、腫瘍マーカー、画像所見（病変・解剖破格が無いかなど）

手術 術式・手術時間・出血量・輸血有無・手術詳細（シエーマがあると尚よい）

術後経過 実習期間内の経過でよい

考察 疾患・術式について少なくとも2本の英語論文を引用し考察すること。考察すべきテーマ、関連して読むべき論文については指導医とよく相談してください。

5. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

①予習：

- 今までに配付された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておく。
- OSCE の内容を復習しておく。
- 肝胆膵領域の解剖を復習しておく事。

実習の主な内容は手術見学、及び第3助手としての手術参加である。肝切除、膵頭十二指腸切除、膵体尾部切除、腹腔鏡下胆嚢摘出術などの手術書をあらかじめ読み、手術の手順の概要を理解しておく（事前に資料で学習希望がある場合は武田良祝助教に連絡）。

手術書として「がん研スタイル 癌の標準手術 膵癌・胆道癌」、「がん研スタイル 癌の標準手術 肝癌」を推奨する。

②実習上の注意：

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。

③復習：参考書である「がん研スタイル 癌の標準手術 膵癌・胆道癌」、「がん研スタイル 癌の標準手術 肝癌」で各論を復習する。当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

6. 医学用語

Adjuvant chemotherapy	術後補助化学療法
Cadaveric Donor liver transplantation	脳死肝移植
Distal pancreatectomy (DP)	膵体尾部切除
Endoscopic retrograde biliary drainage (ERBD)	内視鏡的逆行性胆道ドレナージ
Endoscopic nasobiliary drainage (ENBD)	内視鏡的経鼻胆管ドレナージ
Hepatocellular carcinoma (HCC)	肝細胞癌
Indocyanine green (ICG) test	ICG テスト
Intrahepatic cholangiocarcinoma (ICC)	肝内胆管癌
Intraductal papillary-mucinous neoplasm (IPMN)	膵管内乳頭粘液性腫瘍
Ischemic reperfusion injury	阻血再還流障害
Laparoscopic cholecystectomy (Lap-C)	腹腔鏡下胆嚢摘出術
Living Donor liver transplantation	生体肝移植
Mucinous cyst neoplasm (MCN)	粘液性嚢胞腫瘍
Milan criteria	ミラノ基準
Neoadjuvant chemotherapy (NAC)	術前化学療法
Pancreatoduodenectomy (PD)	膵頭十二指腸切除術
Pancreatic ductal carcinoma (PDAC)	浸潤性膵管癌
Percutaneous transhepatic biliary drainage (PTBD)	経皮経肝胆道ドレナージ
Pringle maneuver	プリングル法
Preoperative portal vein embolization (PVE)	術前門脈枝塞栓術
Serous cyst neoplasm (SCN)	漿液性嚢胞腫瘍
Solid pseudopapillary neoplasm (SPN)	充実性偽乳頭状腫瘍
Transcatheter arterial embolization (TAE)	肝動脈塞栓術

7. 実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

齋浦 明夫, 三瀬 祥弘, 小寺 由人, 吉岡 龍二, 市田 洋文, 加藤 孝章, 平田 義弘, 武田 良祝, 入江 彰一, 高橋 敦, 岩永 直紀, 田中 遥, 杉谷 純, 麻生 健太, 小池 周一, 埴生 典秀, 松屋 直樹, 関根 一樹, 牧之段 洋輝

【肝・胆・膵外科 コア実習・BSLアンケート】

____年 ____月 ____日

指導医名： _____

質問1 今回の肝胆膵外科で行ったBSLについて、①良かった点、②改善すべき点、③カリキュラムへの提言の3点について意見を聞かせてください。

次の質問の答えに該当する番号を下から選んで○で囲んでください。

1 = 全くそうではなかった、2 = どちらかといえばそうではなかった、3 = どちらともいえない、
4 = どちらかといえばそうだった、5 = 全くそうだった

	(オリエンテーション)		
質問2	初めにBSLで習得すべき項目が説明された。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問3	初めにBSLで自分に与えられる診断上の役割が説明された。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問4	初めに与えられた診療上の役割は4年次よりも高度だった。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問5	初めにBSLの評価の基準やその方法が説明された。	1 2 3 4 5	評価不適當
	(学習の機会、教材の提供)		
質問6	患者数や疾患の種類は適切であった。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問7	初めに与えられた役割に追加、あるいは減らされた役割は、時期に応じて自分の能力を高めるのに適切だった。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問8	病歴聴取の機会が十分に与えられた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問9	身体診察の機会が十分に与えられた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問10	回診、カンファレンスなどで症例提示の機会が十分に与えられた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問11	正規のカルテを記載する機会が十分に与えられた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問12	医療手技を行う機会が十分に与えられた。	1 2 3 4 5	評価不適當

質問 13	文献検索の機会が十分に与えられた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 14	診療方針について自分なりの意見を述べる機会を十分に与えてくれ、ディスカッションができた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 15	口頭で情報提供、あるいは、役に立つテキストや論文などが配布されるなど、手技のコツや診断のカギとなる医学知識をよく学べるように適切な援助を受けた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 16	指導医や研修医はベッドサイドでの患者さんの接し方における模範として適切であった。	1 2 3 4 5	評価不適當
	(フィードバック、学習の促進、指導態度)		
質問 17	指導医や研修医、看護職員から、技能、知識、態度に関するフィードバックがあった。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 18	それらのフィードバックはタイミングや内容、方法などが適切で納得できるものだった。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 19	研修医や指導医は知識や技能、態度習得の意欲が湧いてくるような刺激を与えてくれた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 20	自分の接した指導医や研修医は医学生の指導に熱心であった。	1 2 3 4 5	評価不適當
	(医療チーム間の人間関係対応)		
質問 21	指導医や研修医は自分を医療チームの一員として尊重してくれた。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 22	指導医や研修医は相談しやすかった。	1 2 3 4 5	評価不適當
質問 23	指導医や研修医はチーム内、コメディカルとの人間関係がうまくいくよう配慮してくれた。	1 2 3 4 5	評価不適當
	(総括)		
質問 24	総じて自分の接した指導医や研修医の指導・監督は適切だった。	1 2 3 4 5	評価不適當

呼吸器外科学

教授 鈴木 健司
実習担当 今清水恒太

1. 一般目標

手術見学やベットのサイドでの診察などの実際の臨床を通して、呼吸器外科疾患に対する診断方法、手術、および周術期管理について学ぶ。医師として必要な基本的臨床能力（態度、知識、技能）を身につける。

2. 到達目標

1. 肺・縦隔疾患の解剖
2. 気胸・肺癌・縦隔疾患の手術適応と手術術式
3. 術前管理
4. 手洗い・消毒・止血・縫合
5. 手術見学
6. 術後管理（呼吸循環管理、輸液、輸血、感染症の予防、手術創の処置）
7. 術後合併症に対する治療
8. 胸腔ドレーン挿入法・管理

3. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

- ① 予習
呼吸器外科の講義を復習して、内容（特に解剖及び用語）を再度確認しておくこと。
- ② 学習教材
・「新臨床外科学」の P849～912 を一読のこと。
・「呼吸器外科学」の P10～125 を一読のこと。
- ④ 参考書
・「臨床のための解剖学」の P75～104、112～132、166～188 を一読のこと。
(参考資料：2022 年度指定図書一覧)
- ⑤ 実習上の注意点
巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。
- ⑥ 復習
当日の実習終了後、不明な用語や内容は必ず指導医に確認するなどして翌日の実習に臨むこと。

4. 実習の方法

- ① オリエンテーションを受ける。
- ② 指導医の監督下で術前診察をする。
 - (1) 患者の問診と診察を行い、術前の問題点についてリストを作成し、手術の適応について検討する。
 - (2) 手術を見学し、解剖と術式を学習する。術中所見と画像（レントゲン、CT）との対比を行って理解を深める。
 - (3) 担当患者の手術では指導教官のもと、手洗いをして参加する。
 - (4) 回診に参加し、担当症例の術後経過の評価を行う。
- ③ 手術は担当患者でなくても、必ず全員で見学する。
- ④ 心臓血管外科の手術見学を週 1 回（毎週月曜日に）行う。（2022 年度から）
- ⑤ 術前の症例検討カンファレンスに参加し、積極的に討議に加わる。
- ⑥ インフォームド・コンセントの実際を学ぶ。

5. 禁忌肢

1. 自然気胸に対し、呼吸訓練をおこなってはいけない。
2. 気胸に対し陽圧呼吸をおこなってはいけない。
(ただし、胸腔ドレナージをされていれば陽圧換気可能)
3. 胸腔穿刺は肋骨下縁からおこなってはいけない。
4. 間質性肺炎に対し、酸素分圧を高くしてはいけない。
5. 肺からの空気もれのある患者に対し、その胸腔ドレーンをクランプしてはいけない。

6. 医学用語及び和訳

ア Primary lung cancer 原発性肺癌

(1) NSCLC (Non-Small Cell Lung Cancer) 非小細胞肺癌

(2) SCLC (Small Cell Lung Cancer) 小細胞肺癌

イ Spontaneous pneumothorax 自然気胸

ウ Thymoma 胸腺腫

エ Pleural mesothelioma 胸膜中皮腫

オ Thoracoscopy 胸腔鏡

カ VATS (Video Assisted Thoracic Surgery) 胸腔鏡下手術

キ RATS (Robot. Assisted Thoracic Surgery) ロボット支援下手術 (da Vinci)

7. 課題

レポートは課さないが、パワーポイントでプレゼンテーションを作成し提出する。

総括の際に簡潔にプレゼンする。

内容は呼吸器外科に関する題材を各自1つ自由に選択する。

曜日	時刻	場所	内容	教員 (PHS)
月	9:00~	B棟 手術室	心臓血管外科手術見学	心外 横山泰孝 (730813)
火	8:00~ 9:00~	1号館 9階 カンファレンス室 1号館 6階 手術室	術前カンファレンス Meet the professor 手術見学	スタッフ全員 指導医
水	9:00~	1号館 6階 手術室	手術見学	スタッフ全員 指導医
木	9:30~	呼吸器外科医局	気管支鏡検査、クルズス、2週目は総括	スタッフ全員 指導医
金	8:00~ 9:00~	1号館 9階 カンファレンス室 1号館 6階 手術室	術前カンファレンス Meet the professor 手術見学	スタッフ全員 指導医

※実習は次の教員、以下全医局員で担当する。

鈴木健司、高持一矢、今清水恒太、松永健志、服部有俊、福井麻里子、他医局員

初回実習集合時間・場所

月曜日 午前9時00分 B棟手術室 心臓血管外科 横山泰孝先生 (730813) に連絡すること

火曜日 午前8時00分 1号館9階 カンファレンスルーム 呼吸器外科カンファレンス

★実習内容や時間に変更になることがあるので、実習の前週までに今清水にメールで確認してください。

連絡先 医局：内線 3745 (文京区本郷 2-11-6 第一谷口ビル 2F) 医局秘書：PHS 70906 学生実習担当：今清水恒太 (730826) imashi@juntendo.ac.jp

乳 腺 腫 瘍 学(乳腺科)

責任者 九富 五郎

1. 一般目標

乳腺腫瘍学分野における基礎知識、一般的な乳腺疾患などについて知識と理解を深め、更に実際の診療の場において医師として診断的スキルと基礎的手技および医師としての誠実な態度を身につける。

また患者さんの診察を通して、座学では得られない経験と知識を養う。

2. 到達目標

- ① 外来を見学することで、一般的な乳腺疾患の問診、視診、触診を行うことができるようになる。
- ② 手術に参加することで乳腺を中心とした体表外科に必要な解剖学的基礎知識を習得できる。
- ③ 手術に参加することで、手洗い等の清潔操作、止血、縫合等の基本的手術手技を取得できる。
- ④ カンファレンスに参加し乳腺疾患の画像等検査結果の評価、手術適応について理解を深められる。
- ⑤ カンファレンスに参加することで集学的治療を要する乳癌の特徴を理解し、内科的な薬物治療、病理学、放射線医学、緩和ケアについての知識についても習得し、多職種連携の重要性について理解を深めることができる。

3. 実習方法

- ① 実習のオリエンテーションに参加する。
- ② 学生のために行われる乳腺疾患に関するクルズスを受ける。
- ③ 1人1名の手術患者を担当する。
- ④ 病棟担当医グループと行動を共にし、診察をする。
- ⑤ 病棟回診に参加し、入院患者の術前、術後の経過を把握し評価する。
- ⑥ 症例検討会に参加し、討議に加わる。
- ⑦ 医師と患者のコミュニケーションに加わり、インフォームドコンセントの実際を理解する。

4. 準備学習(予習・復習等)及び実習上の注意点

①予習:

学生講義でのノート・資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。

②指定教科書:「新臨床外科学」のP21-24(外科療法), P24-31(化学・内分泌療法), P819-846(乳腺疾患)を一読のこと。

③実習上の注意点:

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。

④復習:

当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

5. 実習における評価方法

基本的知識・技能、出欠席や実習態度、積極性などを参考に総合的に評価する。

6. よく用いられる略語

ア Bt: 乳房切除

イ Bp: 乳腺部分切除

ウ NSM: 乳頭乳輪温存乳腺全切除

エ Ax: 腋窩リンパ節郭清 axillary lymph node dissection

オ SN: センチネルリンパ節生検 Sentinel node biopsy

カ IDC: 浸潤性乳管癌 Invasive ductal carcinoma

キ DCIS: 非浸潤性乳管癌 Ductal carcinoma in situ

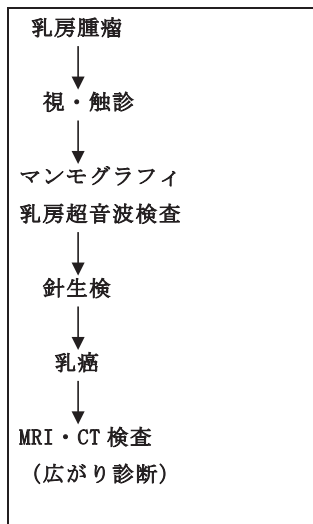
ク DNR または DNAR: 急変時心肺蘇生行為なし Do not (attempt) resuscitation

ケ MMG: マンモグラフィ

7. BSLにおける学習フローチャート

症候: 乳房腫瘍

乳癌診断のフローチャート



乳房腫瘍

乳癌、線維腺腫、乳腺のう胞の 3 疾患が主要な鑑別の対象となるが
乳房腫瘍のポイントは乳癌と他の良性疾患との鑑別である。

視診・触診

乳房の対称性・変形、乳頭や皮膚の変化をチェックする

- (a)乳頭陥凹(nipple retraction)
- (b)乳頭分泌(nipple discharge)
- (c)乳頭・乳輪びらん
- (d)皮膚の陥凹(delle), えくぼ徴候(dimpling sign)
- (e)皮膚の炎症性浮腫状変化(peau d'orange, 橙皮状皮膚)

マンモグラフィ

マンモグラフィ(MMG)の読影のポイント

- ・微細石灰化像:石灰化像の分布と形状に注意する。
- ・腫瘤像:形状、辺縁、濃度に注意する。
- ・非対称性陰影

微細石灰化や spicula(棘状突起)を伴う不整形腫瘤像が乳癌の典型像である。

若年者のように乳腺組織が豊富な場合(dense breast)においては腫瘤を検出しづらい。

超音波検査

典型的な乳癌は低エコーで不整形の腫瘤として描出される。

形状、辺縁、境界エコー、内部エコー、後方エコー、腫瘤の縦横比などが鑑別の要点となる。

超音波の有用性

- ① 触診では発見しにくい小さな腫瘤を検出しうる。
- ② 触診で同定できる腫瘤性病変を、嚢胞性病変と充実性病変とに鑑別できる。
- ③ 若年者のように乳腺組織が豊富な場合に腫瘤描出能に優れている。

一方で微細石灰化はマンモグラフィのように同定が難しいことがある。

細胞診・針生検

- ・基本的には、超音波ガイド下の針生検を行う。
- ・腫瘤を作らずマンモグラフィのみで指摘できる微細石灰化像に対しては、マンモグラフィガイド下(ステレオガイド下)の針生検(マンモトーム)にて診断を行う。
- ・分泌物については塗抹細胞診を行う。

乳房 MRI

乳癌の乳管内進展の範囲の程度、微小多発癌を判定し、乳房温存療法における正確な切除範囲を決定するために MRI 検査がおこなわれる。

腫瘍マーカー

乳癌の腫瘍マーカーとして日常臨床で使用されるものは、CEA、CA15-3 など 2~3 種類である。遠隔転移時の治療効果判定の補助診断に用いる。

手術後について

病理組織学的検査の腫瘍径、リンパ節転移の有無、ホルモンレセプター（ER, PgR）、Ki67、HER2 過剰発現の有無などにより術後の補助療法が決定される。

乳房温存療法の場合は、手術検体の切除断端の評価が重要である。基本的には局所再発予防のために温存乳房に対し放射線治療が行われるが、断端の状況によっては再切除を勧める場合もある。

再発治療について

転移・再発乳がんの治療法は、①がん細胞の性質（ホルモン受容体の有無、HER2 の状況）、②患者さんのからだの状態（転移・再発の状況、症状、体調、閉経の状況、臓器機能が保持されているかどうか）、③患者さんの希望などを考慮に入れ、治療効果と QOL、治療によって得られる利益と不利益のバランスをよく考えて決める。薬にはたくさんの種類があり、一つの治療法を行って効果があるうちはそれを続け、効果がなくなってきたら別の治療法に変更するというやり方で進める。

8. 実習日程

乳腺腫瘍科 週間予定表

第1週目

曜日	時刻	場所	内容	教員
月	7:50~	乳腺腫瘍科学 スタッフルーム (医局)	オリエンテーション	飯島(730791)
	9:00~	1号館 7B 病棟	朝回診	※教室員全員
		1号館手術室 (5階)	手術見学	
		C棟 1階 乳腺センター	外来見学	
16:00~	1号館 7B 病棟	夕回診*		
火	9:00~	1号館 7B 病棟	朝回診	※教室員全員
		C棟 1階 乳腺センター	外来見学	
	16:00~	1号館 7B 病棟	夕回診*	
水	8:00~ 9:00	医局	術後カンファレンス	※教室員全員
	9:00~	1号館 7B 病棟	朝回診	
		1号館手術室 (5階)	手術見学	
	13:30~14:30	1号館 7B 病棟	教授回診 (乳腺腫瘍科、看護部、 薬剤部、緩和チーム合同)	
18:00~	スタッフルーム (医局)	関連施設間カンファレンス*	開催時	
木	8:00~ 9:00	医局	術前カンファレンス	※教室員全員
	9:00~	1号館 7B 病棟	朝回診	
		1号館手術室 (5階)	手術見学	
	16:00~	1号館 7B 病棟	夕回診*	
金	8:00~9:00	医局	術前カンファレンス	※教室員全員
	9:00~	1号館 7B 病棟	朝回診	
		C棟 1階 乳腺センター	外来見学	
		1号館手術室 (5階)	手術見学	
16:00~	1号館 7B 病棟	夕回診*		

・九富教授のクルズスは1週目の教授回診後に行う。

*夕回診は1号館 7B 病棟に集合

・各クルズスは適宜連絡あり

8. 担当教員

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

責任者 九富五郎 渡邊純一郎、飯島耕太郎、岡崎みさと、佐々木律子、石塚由美子、羽尾千咲、 吉野真理子、齊藤光江 他全教員で担当する。

●初回実習集合時間・場所

午前 7 時 50 分 谷口第 1 ビル 2F 東 乳腺腫瘍科スタッフルーム（医局）

* 担当教員：飯島耕太郎（730791）

月曜が祭日の場合は火曜日の集合時間等について事前に問い合わせること。

クルズス

- ・乳癌の基本知識・画像診断・手術療法
- ・乳癌の薬物療法
- ・緩和ケア

クルズス担当者や具体的な日時については、実習開始時に連絡する

9. 基本学習事項

マンモグラフィの読影を含め、乳癌の診断における各種画像診断(MRI, CT, 超音波)

乳癌手術の適応

乳癌術後の補助療法（ホルモン療法、化学療法、放射線治療）

再発乳癌に対する治療方針

小児科学（本郷）

責任者 東海林 宏道

1. 一般目標

すでに得た小児科学の知識を実際の患児で実践し、患児から種々の情報を得るための基本的診療技能を身につける。すなわち担当する患児を診察し、検査等の計画を立て診断につなげて、治療方針を立てる能力を獲得する。それと同時に患児および親の心理的側面を理解し、小児の診療を円滑に進める基本的診察態度を身につける。臨床実習ではその意義並びに重要性を理解するため、参加型臨床実習を積極的に導入する。

2. 到達目標

上記一般目標に到達するためには、次の具体的諸目標を達成することが必要である。

- ① 患児および両親の問診、患児の診察などから、その異常所見を把握することができる。
- ② 患児の診断および重症度の判断に必要な検査を選択し、その検査結果を解釈することができる。
- ③ 患児の症候から、対症療法（緊急処置）の必要性を判断し、その治療方針（処置）を説明することができる。
- ④ 主要な小児の検査および治療手技を見学し、理解することができる。
- ⑤ 問診、診察、検査の結果から小児疾患の鑑別並び診断ができ、治療方針を立てることができる。
- ⑥ 小児科疾患の診療を円滑に進めるために、両親および患児が抱える社会的、心理的問題がどの程度障害となるか、また、それにどのように対処すべきか述べることができる。
- ⑦ 診療ガイドラインや各分野の最新情報に関する解釈についても指導医と共に学び、EBMに基づく診療を理解することができる。
- ⑧ 指導医・研修医・学生で構成される診療チームの一員として、積極的に診療に参加することができる。

3. 実習方法

- (1) 実習開始前のオリエンテーションに出席する。医師として適切な服装で出席のこと。
- (2) 指導医の監督下で、数例の患児を担当し、そのうち1例に対してはカルテ記載を行い、署名すること。
 - ① 問診と診察の結果から問題リストをPOS形式にて作成し、診断計画を立て、カルテに記載する。
 - ② 患児の臨床検査を見学あるいは実施し、その結果を判定する。
 - ③ 以上に関して、指導医との間で十分な討議を行い、症例に関する文献を検索し学習する。
 - ④ 新生児回診を含む各グループ回診に参加し、積極的にベッドサイドでの討議に参加する。その際必ずメモを持参のこと。
 - ⑤ 診断の結果から治療方針を立てる。また、毎日の診察、検査結果などから、診断や治療が適切かどうかを絶えず評価、判断し、その経過を論理的にまとめカルテに記載する。
 - ⑥ 両親および患児に社会的、心理的問題点があるときは、主治医と十分な討議をし、内容をカルテに記載する。
 - ⑦ 最終週に行われるPeer-teachingカンファレンスに準備してのぞむ。
- (3) 土曜日を除く毎日下記予定表により指定の場所（実習日程表参照）で行うコアレクチャー（クルズ）に出席する。
- (4) 入院カンファレンス（水曜日午後1:15～3:00、D棟7階会議室）、出席・参加する。その際は積極的に質問を行う。
- (5) 実習にあたり下記に注意する。

- ① 聴診器を各自用意する。**特に Mini CEX を受けるときは必ず持参すること。**
 - ② 患児の診療は指導医または、主治医の責任で行われるので、その指導のもとに行う。
 - ③ カルテ、心電図、脳波、各種画像は患者さんの個人情報であることを認識し印刷や撮影は禁止である。
 - ④ 時間を守り、実習時間内は常に所在を指導医に知らせること。病棟から離れる場合も、実習時間内は PHS がつながるようにし、指導医から連絡があった場合は速やかに応答すること。事前連絡なく PHS がつながらない場合は欠席したものとみなす。
 - ⑤ 規定の出席日数に達しないときは受験資格を失うことがある。
 - ⑥ メモ用紙を常に用意し、重要事項（例：質問を受けた事項等）はメモを取って、不明の事項に関してはその日のうちに解決しておくこと。
- (6) 実習はクラークシップ方式をとる。朝から夜まで主治医と行動を共にして診療活動を行なう。学習機会として貴重な症例の場合は本人と相談のうえ、実習時間が多少延長することがある。評価は特に出席・実習態度に重点を置く。
- (7) 実習期間中は病棟 4 グループ（一般 G. 血液 G. 循環器 G. 新生児 G.）に分かれる。
- (8) 実習期間中、各種外来陪席実習に参加する。（実際の医師の診療の様子を学ぶ）
- (9) 実習終了時、下記を担当秘書（医局棟 5 階小児科 石井）に提出する。
- ① 出席表（コアレクチャー担当者、実習指導医のサインを受けたもの）、実習における評価表（各グループの指導医より評価を受ける）、口頭試問評価表
 - ② 実習中各グループにて作成したカルテ・レポート（学生用 2 号紙またはワープロプリントアウト）
 - ③ Mini CEX の評価票のコピー 1 部

4. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

- ① 予習：今までに配布された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
M4 の小児科学講義について復習して、知識の再確認をしておくこと。
特に正常新生児・乳児・幼児・学童・思春期の生理や発達についての知識を整理しておくこと。
- ② 指定教科書：「標準小児科学第 9 版（医学書院）」を中心に参考教科書や参考書の上記正常小児の生理・発達を一読しておくこと。またそれぞれの病棟グループ実習開始前に、その分野の項を一読し、知識を整理しておく。
- ③ 実習上の注意点：実習期間中は、小児科スタッフの一員であるという自覚を持ち、適切な態度および「医師服装マニュアル」等に記載された適切な服装で実習に臨むこと。また質問等、積極的な姿勢で参加すること。
- ④ 復習：当日の実習終了後、不明な専門用語や内容に関してはそのままにせず、必ず指導医等に確認するなどその日のうちに理解してから翌日の実習に臨むこと。また患児や家族とのコミュニケーションにおいても、対応が適切であったかを指導医等に確認しておく。

5. Meet the Professor の実施時間帯

実習期間中、毎週水曜日の入院カンファレンス、実習第 4 週に行われる教授のコアレクチャー（クルズス：小児科総論）において、face to face の時間を設けている。

6. 実習日程（参考）（初日のオリエンテーション時に詳細なスケジュール表を配布する。）

	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時
第1週	月	オリエンテーション プレテスト (遠藤、草野)								
	火									
	水					入院カンファレンス	教授回診 一般/振り返り(遠藤)			
	木						神経・筋 (池野)			
	金									
第2週	月			感染・呼吸 (遠山)						
	火			小児救急 (谷口)						
	水					入院カンファレンス	教授回診 循環器(福永)			
	木									
	金									
第3週	月			児童精神 (田中)			新生児 (東海林)			
	火			発達 (中村)			アレ・免疫 (工藤)	肝胆臓 (中野)		
	水					入院カンファレンス	教授回診 血液・腫瘍(藤村)			
	木						内分泌・代謝(田久保)			
	金							消化器 (神保)		
第4週	月									
	火									
	水					入院カンファレンス	教授回診 Peer-teaching カンファ (遠藤・中村・草野)			
	木						小児科ポストテスト (田久保)			
	金						小児総論 (東海林)			

※ 毎週水曜日の入院カンファレンスは教授以下、全医局員が参加する。

7. 担当教員

実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

東海林 宏道、田久保 憲行、田中 恭子、工藤 孝広、藤村 純也、鈴木 光幸、安部 信平、高田 オト、福永 英生、池野 充、菅沼 広樹、寺尾 梨江子、遠藤 周、神保 圭佑、松井 こと子、稲毛 英介、富田 理、石橋 武士、仲川 真由、谷口 明憲、杉山 洋平、中野 聡、山田 啓迪、新井 喜康、中村 明雄、草野 晋平、三森 愛美
他全医局員

8. 集合時間・場所

●初回集合時間・場所

臨床実習のオリエンテーションは第1週月曜日、午前9:00に医局棟8階会議室1に集合すること。

●問合せ連絡先および書類提出先

担当秘書：石井(内線3325)、場所：医局棟5階小児科

●コアレクチャー（クルズス）集合時間・場所

コアレクチャーは予定時間に集合。

コアレクチャーは、参加型臨床実習中であっても全員参加すること。また予定・場所が変更される場合があるので、前日または当日に各担当医へ確認の連絡を取ること。

●各グループの集合時間・場所

ジェネラルグループ	9:00	10B 病棟
新生児グループ	9:30	11N 病棟
血液グループ	8:45	10B 病棟
循環器グループ	8:15	10B 病棟

9. 実習における評価

病棟・外来実習、附属病院・クリニック実習、コアレクチャーなどの出席ほか、実習における評価表に記載の16項目、プレテスト、提出物（mini-CEX、カルテ、レポート、発表スライド、評価表、出席票等）など、実習に際しての学習態度、積極性を重要視した上で総合的に判定・評価する。

担当者：遠藤 周
田久保 憲行
草野 晋平

小児科実習評価 ブループプリント

学習目標 コンピテンシー	評価者と記点	関連する方略	タイミング・回数	評価方法	形成/ 総括	実習中の評価の活用	可否、判定基準	総括的評価 への割合
①問診・診察から異常 所見の把握	各グループの 教育担当医 (5点ずつ)	病棟カンファレンス (担当症例)	1回/週 ・各グループにて	・Mini-CEX ・症例プレゼン評価	形成 & 総括	現場の指導者への フィードバック	不適切行為がない、 経時的に改善があれば 合格。高質は加点。	各班5%ずつ で計20%
②必要な検査の選択と 解釈 ④小児特有の検査およ び手技の理解	検査担当医 レポート① (10点) レポート② (10点)	検査同席・介助 (採血・静脈確保 /小児内視鏡/骨 髄穿刺/髄液検査 /脳波検査/MRI 鎮静/帝王切開)	1回/2週 ・各グループにて	・ミニレ ポート評価	総括		提出があれば合格。 遅延や内容の不備で 減点。高質は加点。	②10% ④10%
③症候から、緊急性の 判断および方針の説明	救急担当医 (10点)	小児蘇生シミュ レーション/緊急 帝切立ち合い	1回/4週	事前予習後 ・ポストテ スト (MCQ)	総括		6点未満は不合格で 再テスト。	10%
⑤小児疾患の鑑別と診 断、治療方針の決定	Case study担 当医 (10点)	乳児の“発熱” case study	1回/4週	事前予習後 ・ループ リック評価	総括		ループリック評価で、 最低基準のクリア。	10%
⑥両親および患児が抱 える社会的、心理的問 題への対処への意見	教育担当主任 (10点)	振り返りカンファ レンス (心理社会的)	1回/4週	・ループ リック評価	総括	現場の指導者への フィードバック	ループリック評価で、 最低基準のクリア。	10%
⑦EBMに対する理解	各グループの 教育担当医 (5点ずつ)	病棟カンファレンス (担当症例)	1回/週	・ループ リック評価	形成 & 総括	現場の指導者への フィードバック	ループリック評価で、 最低基準のクリア。	各班5%ずつ で計20%
⑧チームの一員として 診療参加	看護師/子ど も療養支援士 (10点)	多職種カンファレ ンス	1回/4週	・360度評価	総括	現場の指導者への フィードバック	参加し、不適切行為 がなければ合格。	10%

(水)			
(木)			
(金)			

(3) 実習における評価（コンピテンシー連動）

6. 指摘する問題点がなく、優れている 5. 指摘する問題点が少なく、学生としては良くできる
4. 指摘する問題点があるが、診療に支障は生じない 3. 指摘する問題点があり、診療に支障を生じる怖れがある
2. 指摘する問題点が多くあり、診療に支障が生じる 1. 不合格

コメント欄（自由記載）※評価3以下がある場合は必ず指摘事項を記入

※欠席の場合は記載（例：〇〇さんは胃腸炎のため4日間欠席）

--

1) 積極的に診療に参加していたか （自律的学修能力を含む）CP8	6	5	4	3	2	1
2) チームの一員として行動していたか （チーム医療）CP4	6	5	4	3	2	1
3) 医療安全（患者・自分自身に対する）は守られていたかCP3	6	5	4	3	2	1
4) 倫理とプロフェッショナリズムを理解していたか （守秘義務、マナー、遅刻、課題提出 など）CP7	6	5	4	3	2	1
5) コミュニケーションはとれていたか CP5	6	5	4	3	2	1
6) 基本的な医学的知識を有しているか CP2	6	5	4	3	2	1
7) 医療の社会性について理解しているか （医療経済、検診の重要性、予防 など）CP6	6	5	4	3	2	1
8) 総合的な臨床能力（臨床推論、全人的医療 など） が身についているか	6	5	4	3	2	1
9) パフォーマンス能力はあるか （プレゼン、カルテ記載、病状説明、レポート など）	6	5	4	3	2	1
10) 医療面接をはじめ、基本的な診察や手技が できるか（技能・患者ケア）CP1	6	5	4	3	2	1

(4) 教員の感想

指導教員名 _____ ㊞

小児科学（新生児科・小児科）（静岡）

責任者：佐藤洋明、大川 夏紀（新生児科）・馬場 洋介（小児科）

1. 一般目標

すでに得た小児科学の知識を実際の患者に応用し、患者から種々の情報を得るための基本的技能を身につける。特に、高度先進医療と地域医療、両方の面を併せ持つ当院では、急性期の初期診療や集中治療、慢性期管理や在宅支援などを経験して、その診断と治療方針の立て方について理解できるようになることを目標とする。また、患児・家族の言動に触れ、その心理を理解し、疾病管理だけではない小児診療の特性を学ぶ。

2. 到達目標

上記一般目標に到達するためには、次の具体的諸項目を達成することが必要である。

- ① 患児および両親の問診、患児の診察などから、その所見を把握することができる。
- ② 患児の診断および重症度の判断に必要な検査を選択し、その検査結果を解釈することができる。
- ③ 患児の呈する症候から、対症療法もしくは緊急処置の必要性の有無を判断し、その治療方針を説明することができる。
- ④ 主要な小児の検査および治療手技を見学する。
- ⑤ 問診、診察、検査の結果から小児疾患の診断ができ、治療方針を立てることができる。
- ⑥ 小児科疾患の診療を円滑に進めるには、両親および患児にどのような社会的、心理的問題が障害となるか、また、それにどのように対処すべきが述べることができる。

3. 実習の方法

- (1) 実習のオリエンテーションに出席する。
- (2) 指導医の監督下で、病棟内の診療・回診に参加し、各患者の病態・治療方針を理解すること。
 - ① 新規入院や救急車出動の際には担当医に同行し、入院までの診察、処置、判断の過程を見学すること。
 - ② 患児の診療録を開き、検査結果、看護記録、医師の記録を参照し、病態・治療について学習すること。
 - ③ 回診およびカンファレンスに参加し、積極的にベッドサイドでの討議に参加する。その際必ずメモを持参のこと。
 - ④ 医師として適切な服装で出席のこと。
- (3) 下記予定表によりミニレクチャー、カンファレンスに参加する。
- (4) 毎週木曜日の新生児回診時に正常新生児の診察を行い、これを以て mini CEX の評価とする。
- (5) Group discussion についてのレポートの提出を実習の評価とする。
- (6) 実習に当り下記に注意する。
 - ① 小児科実習の際には聴診器を各自用意する。新生児科の際は不要。
 - ② 患児の診療は指導医または、主治医の責任で行われるので、その指導のもとに行う。
 - ③ 時間を守り、実習時間内は常に所在を担当医に知らせること。
- (7) 分娩立ち会いと救急搬送を経験する。
- (8) 実習終了時、下記を実習教育担当の小児科馬場或いは新生児科大川に提出する。
 - ① 出席表 2 種類（コアレクチャー担当者、実習指導医のサインをうけたもの）
 - ② 実習中各グループにて作成したカルテ・レポート（学生用 2 号紙）

実習予定表

小児科	AM	PM	新生児科	AM	PM
月曜日	8:15- カンファレンス	14:00- 外来陪席, 夕回診	月曜日	9:00- カンファレンス	13:30- 新生児回診 16:00- 周産期カンファ 16:30- 夕回診
火曜日	8:15- カンファレンス	13:30- 乳児健診, 夕回診	火曜日	9:00- カンファレンス	12:30- 伊豆医療回診, 16:00- 夕回診
水曜日	8:15- カンファレンス	13:30- 予防接種外来, 夕回診	水曜日	9:00- カンファレンス	16:00- 夕回診
木曜日	8:15- カンファレンス	13:00- 乳児健診, 夕回診	木曜日	9:00- カンファレンス	13:30- 新生児回診, mini CEX 16:00- 夕回診
金曜日	8:15- カンファレンス	15:00- 総括	金曜日	9:00- カンファレンス	16:00- 夕回診

オリエンテーション：第1月曜日 大川 (11:00-)

クルズス 毎日 11:00、14:00 または 15:00

総括：第2金曜日 馬場 (15:00-)

小児科新生児科合同勉強会：毎週水曜日 16:30-

- *1 実習初日はNICU医局に集合。
- *2 クルズスの担当者、集合時間は別途配布する日程表に従う
- *3 最終日の総括時に出席表、レポート、Mini-CEX、学生評価表を持参すること。

実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

佐藤洋明、大川 夏紀、馬場 洋介、池田奈帆、佐藤浩之、宮平憲、鳥海俊、戸田方紀 他全医局員

4. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

- ①予習：今までに配布された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
特に正常新生児・乳幼児・小児・学童の生理や発達についての知識を整理しておくこと。
- ②指定教科書：標準小児科学第9版（医学書院）、新生児学入門第5版（医学書院）。
- ③実習上の注意点：実習期間中は、小児科スタッフの一員であるという自覚を持ち、適切な態度および「医師服装マニュアル」等に記載された適切な服装で実習に臨むこと。積極的な姿勢で参加すること。
- ④復習：当日の実習終了後、不明な専門用語や内容に関してはそのままにせず、必ず担当医に確認するなどその日のうちに理解してから翌日の実習に臨むこと。また患者や家族とのコミュニケーションにおいても、対応が適切であったかを指導医等に確認しておく。

⑤体調不良等の理由により実習を欠席する場合、実習開始前に上級担当医に電話連絡を必ず行い指示を仰ぐこと。

5. 初回集合時間・場所

臨床実習のオリエンテーションは第1週月曜日、午前10:30に新生児科医局に集合すること。

●一般小児の回診、カンファレンス、小児科レクチャー

集合場所：カンファレンス棟1階101号室、管理棟5階小児科医局、2C小児科病棟

●一般小児科および新生児フォローアップ外来陪席

B棟2階 小児科外来

●新生児カンファレンス・回診、新生児レクチャー

H棟2階新生児センター

小児科学（浦安）

責任者 高橋 健

1. 一般目標

小児科学の知識を実際の患者に応用し、患者から種々の情報を得るための基本的技能を身につける。
患児を診察し、理学的所見を整理し、検査計画を立案し、系統的に診断・治療を行う能力を習得する。
患児および親の心理を理解し、小児の診療を円滑に進める基本的態度を身につける。

2. 到達目標

- ① 患児および両親の問診、患児の診察などから、異常所見を把握することができる。
- ② 患児の診断および重症度の判断に必要な検査を選択し、検査結果を解釈することができる。
- ③ 患児の呈する症候から、対症療法（緊急処置）の必要性の有無を判断し、その治療方針（処置）を説明することができる。
- ④ 主要な小児の検査法および治療手技を見学する。
- ⑤ 問診、診察、検査の結果から小児疾患の鑑別診断ができ、治療方針を立てることができる。
- ⑥ 患児の社会的、心理的問題についても考慮できる。

3. 実習の方法

- (1) 実習のオリエンテーションに出席する。
- (2) 主治医の監督下で、数例の患者を担当する。医師として適切な服装で出席のこと。
問診と診察結果から問題リストをPOS形式で作成し、診断計画をカルテに記載する。
患者の臨床検査を見学あるいは実施し、その結果を判定する。
以上に関して、主治医との間で十分な討議を行い、文献を検索し、学習する。
小児科長および新生児回診を含む各グループ回診に参加し、積極的にベッドサイドでの討議に参加する。その際必ずメモを持参のこと。
診断の結果から治療計画を立てる。また、毎日の診察、検査結果などから、診断や治療が適切かどうかを繰り返し評価判断し、その経過を論理的にまとめカルテに記載する。
両親および患児に社会的、心理的問題点があるときは、主治医と十分な討議をし、内容をカルテに記載する。
主治医の監督下で担当の患児を診察し、Mini-CEXを用いて評価する。
- (3) 新患カンファレンス（水曜日午後2:00～3:30、3A/B病棟カンファレンスルーム）、
小児科科長回診（水曜日午後3:30～5:00、3A病棟、他病棟、救命救急センター）に出席する。
カンファレンスでは症例のプレゼンテーションを行い、口頭試問評価を実施する。
- (4) 実習の期間中、小児科の各分野に関するコアレクチャー（主に午後実施）や、保健所や地域クリニックへの同伴によるクリニカルクラークシップ（実習）を予定している。外部講師によるシミュレーション形式の参加型コアレクチャーも行っている。実習開始時に配布される実習予定を確認し、担当医に連絡をとり集合場所や時間を確認する。

- (5) 実習 4 週間のうち、原則 2 週間を小児科一般、1 週間を NICU でのローテーションとし、最終 1 週間は希望により一般または NICU のどちらかで実習する。また NICU ローテーション中は帝王切開の立ち合いを原則とする。
- (6) 実習に当り下記に注意する。
 - 聴診器など診療器材を各自用意する。
 - 患者の診療は指導医または、主治医の責任で行われるので、その指導のもとに行う。
 - カルテ、心電図、脳波、X線フィルム、医局図書を持ち出してはならない。
 - 時間を守り、実習時間内は所在を主治医に知らせること。
 - 規定の出席日数に達しないときは受験資格を失うことがある。
 - メモ用紙を常に用意し、重要事項（例：質問を受けた事項等）はメモを取る。
 - 不明の事項に関してはその日のうちに解決しておくこと。
- (7) 実習はクラークシップ方式をとる。主治医と行動を共にして診療活動を行なう。
 - 評価は特に出席・実習態度に重点を置く。
- (8) 実習終了時、下記を医局長に提出する。
 - 出席表 2 種類（コアレクチャー担当者、実習指導医のサインをうけたもの）
 - 実習における評価表（指導医より評価を受ける）、口頭試問評価表
 - 実習中、作成したカルテ・レポート（学生用 2 号紙）

4. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

- ①予習：今までに配布された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
 - 特に正常新生児・乳幼児・小児・学童の生理や発達についての知識を整理しておくこと。
- ②指定教科書：「標準小児科学第 9 版（医学書院）」を中心に参考教科書や参考書の上記正常小児の生理・発達を一読しておくこと。またそれぞれの病棟グループ実習開始前に、その分野の項を一読し、知識を整理しておく。
- ③実習上の注意点：実習期間中は、小児科スタッフの一員であるという自覚を持ち、適切な態度および「医師服装マニュアル」等に記載された適切な服装で実習に臨むこと。また質問等、積極的な姿勢で参加すること。
- ④復習：当日の実習終了後、不明な専門用語や内容に関してはそのままにせず、必ず指導医等に確認するなどその日のうちに理解してから翌日の実習に臨むこと。また患者や家族とのコミュニケーションにおいても、対応が適切であったかを指導医等に確認しておく。

5. Meet the Professor の実施時間帯

実習期間中、毎週水曜日の入院カンファレンスおよび科長回診、コアレクチャーにおいて、対面指導の時間を設けている。

6. 実習日程

		9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	
第1週	月	朝カンファ・ 回診	病棟・外来実習	NICU オリエンテーション(西崎)			オリエンテーション(小川)				
	火						小児科 総論 (高橋)				
	水						入院カンファレンス		病棟回診 (高橋)		
	木						循環器 (西山)				
	金						腎臓 (松田)				
第2週	月								発達 (小川)		
	火								救急 (高橋)		
	水								入院カンファレンス	病棟回診 (高橋)	
	木										
	金										
第3週	月								血液 (矢賀部)		
	火								内分泌 (石川)		
	水								入院カンファレンス	病棟回診 (高橋)	
	木								新生児 (西崎)		
	金								消化器 (青木)		
第4週	月										
	火								問診レクチャー (藤森)		ポストテスト (高橋)
	水								入院カンファレンス	病棟回診 (高橋)	
	木										
	金										

7. 小児科学生担当指導医

実習は次の教員、以下全医局員が担当する

高橋 健、西崎直人、谷本愛子、石川有希美、渡邊晶子、松田明奈、西山 樹、青木香央里、小川 悠、矢賀部彩音 ほか全医局員

●初回集合時間・場所

臨床実習のオリエンテーションは第1週月曜日、午前9:00に総合医局1に集合すること。

●コアレクチャー集合時間・場所

コアレクチャーは総合医局1に予定時間に集合。

コアレクチャーは、参加型臨床実習中であっても参加することが原則だが、NICUローテーション中で帝王切開の立ち合いがある場合は指導医に相談する。

また予定が変更される場合があるので、前日または当日に各担当医へ確認の連絡を取ること。

8. 実習の出席、学習事項および総合評価

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 受持患者

	患者の年齢と性別	病名
第1週		
第2週		
第3週		
第4週		

(2) 実習項目

(3)

出席表

実習項目	月日	教員サイン
オリエンテーション (小川・西崎)		
一般小児科学 (高橋)		
プレテスト (小川)		
循環器 (西山)		
腎疾患 (松田)		
発達 (小川)		
新生児・未熟児 (西崎)		
血液 (矢賀部)		
内分泌 (石川)		
消化器 (青木)		
救急 (高橋)		
ホストテスト (高橋)		

実習項目	月日	教員サイン	
		朝	夕
病棟実習 第1週 (月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			
第2週 (月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			
第3週 (月)			
(月)			
(木)			
(木)			

(金)			
第4週 (月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			

(3) 実習における評価

(A : 大変良い B : 良い C : 普通 D : やや劣る E : 大変劣る N : 実施しなかったので評価できない)

1. 出席	A	B	C	D	E	
2. 約束時刻の遵守	A	B	C	D	E	
3. 積極的に学ぶ態度	A	B	C	D	E	
4. 患者に対する礼儀正しい態度	A	B	C	D	E	
5. 診療チームにおける態度・協調性	A	B	C	D	E	
6. 基礎知識	A	B	C	D	E	
7. BSL期間中における知識の増加	A	B	C	D	E	
8. 問診技能	A	B	C	D	E	N
9. 理学的診察法	A	B	C	D	E	N
10. 簡単な臨床検査技能	A	B	C	D	E	N
11. 病歴、所見の記載	A	B	C	D	E	N
12. 病歴、診察・検査結果からの問題の設定	A	B	C	D	E	N
13. 検査、治療計画の立案	A	B	C	D	E	N
14. 臨床検査所見等の解釈	A	B	C	D	E	N
15. 診断、鑑別診断能力	A	B	C	D	E	N
16. プレゼンテーションの能力	A	B	C	D	E	N

(4) テスト成績

1. プレテスト点数 _____ 点
 2. ポストテスト点数 _____ 点 合計 _____ 点 (20点満点)

(5) 教員の感想

小児科学(練馬)

責任者 大友 義之 (小児医療)
寒竹 正人 (新生児医療)

1. 一般目標

- (1) 臨床研修の基本となるコア科の一つである小児科に必要な基本的態度・技能・知識を体験する。
当科での診療状況から、病棟では「急性・亜急性小児疾患」と「新生児医療」、外来では「慢性疾患、救急疾患、乳幼児の発達のフォローアップ」の研修が重要である。
- (2) 医師として、必要な基本的臨床能力(態度・知識・技能)を身につける。
対象が新生児から思春期まで幅広い年齢層であるので、患児のみならず保護者・養育者等より種々の情報を得るための技能の習得が重要である。
- (3) 臨床実習の意義を理解し、積極的に学習する。
すでに得た小児科学・新生児学の知識を実際の患者に応用し、患児を診察し、診断のアセスメントをし、治療方針を立てる能力を獲得し、それと共に患児および親の心理を理解し、小児の診療を円滑に進める基本的態度を身につけることを目標とする。

2. 到達目標

- (1) 指導医・研修医と共に医療チームの一員となり、患児および両親の問診、患児の診察を適切に行えるようになる。
- (2) 医療チームのカンファレンスに積極的に参加して、診断に必要な検査を選択し、その検査結果を解釈することができるようになる。
- (3) 医療チームの一員として、問診、診察、検査の結果から小児疾患の診断を行い、治療方針を立てることができるようになる。
- (4) 以上のクリニカルクラークシップにおいて、患児の臨床経過、診療状況、今後の方針をプレゼンテーションできるようになる。

3. 実習の方法

- (1) 実習のオリエンテーションに出席する。
- (2) 主治医の監督下で、数例の患者を担当し、そのうち1例の患者については主治医と同一のカルテに medical term (英語) を使って記載し、署名すること。記載に際し、小児科カルテ用語集(「[小児科用語集](#)」第2版 単語検索 | 公益社団法人 日本小児科学会 JAPAN PEDIATRIC SOCIETY (jped.s.or.jp))などを参考にすること。医師として適切な服装で出席のこと。
 - ① 問診と診察の結果から問題リストをPOS形式にて作成し、診断計画を立て、カルテに記載する。
 - ② 患者の臨床検査を見学あるいは実施し、その結果を判定する。
 - ③ 以上に関して、主治医との間で十分な討議を行い、文献を検索し、学習する。
 - ④ 月曜朝の8時～9時のチャートカンファレンスと、毎日昼12時頃の病棟医回診に参加し、積極的にベッドサイドでの討議に参加する。その際必ずメモを持参のこと。
 - ⑤ 木曜日朝のカンファレンスは小児外科との合同で、英語を交えて行う。
 - ⑥ 診断の結果から治療計画を立てる。また、毎日の診察、検査結果などから、診断や治療が適切

かどうかをたえず評価、判断し、その経過を論理的にまとめカルテに記載する。

- ⑦ 両親および患児に社会的、心理的問題点があるときは、主治医と十分な討議し内容をカルテに記載する。
- (3) 火曜日 13 時～15 時、医局のカンファレンスに参加し、積極的に質疑を行う。
- (4) 実習の期間、小児科の多くの分野に関するクルズスや保健所実習などが予定されている。実習開始時に配布される実習予定を確認し、担当医に連絡をとり集合場所や時間を確認する。
- (5) 練馬病院全科で行うクルズスにも他科実習の学生と参加する。ただし、小児科の予定が入っている場合は小児科の業務を優先する。
- (6) 実習にあたり下記に注意する。
 - ① 練馬病院の実習生受け入れのルールに準拠して実習に参加する。毎朝検温を行い、体調不良の場合は指導医に連絡をし、本院での診療を受けるか指示を仰ぐ。
 - ② 感染対策を十分に行う(サージカルマスクの着用、手指衛生)。
 - ③ 聴診器、ペンライトを各自用意する。
 - ④ 患児の診療は指導医または主治医の責任で行われるので、その指導のもとに行う。
 - ⑤ 印刷したカルテなどの医療情報、医局図書を持ち出してはならない。
 - ⑥ 時間を守り、実習時間内は常に所在を主治医に知らせること。
 - ⑦ 規定の出席日数に達しないときは受験資格を失うことがある。
 - ⑧ メモ用紙を常に用意し、重要事項(例:質問を受けた事項等)はメモを取って、不明の事項に関してはその日のうちに解決しておくこと。
- (7) 実習はクラークシップ方式をとる。朝から夜まで主治医と行動を共にして診療活動を行なう。患者さんが重症な場合は、主治医と共に宿直することもありうる。評価は特に出席・実習態度に重点を置く。
- (8) 実習期間中、保健所での乳幼児健診、乳児院での研修を予定する。
- (9) 実習終了時、下記の課題について、指導医に提出する。
 - ① 出席表 2 種類(コアレクチャー担当者、実習指導医のサインをうけたもの)、実習における評価表(各グループの Dr より評価を受ける)、Mini-CEX による口頭試問評価表
 - ② 実習中各グループにて作成したカルテ・レポート(学生用 2 号紙)
 - ③ プレテスト、ポストテスト(採点したもの)

* COVID-19 やインフルエンザ等の感染予防対応のため、上記予定は状況に応じて変更する。

4. 準備学習(予習・復習等)及び実習上の注意点

- (1) 予 習: 今までに配付された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。
- (2) 指定教科書: 「標準小児科学(第9版)」を日々の実習で使用する。
- (3) 実習上の注意点: 巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。
- (4) 復 習: 当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

5. 禁忌肢

- (1) 動脈管依存性心疾患に高濃度の酸素を投与してはいけない。
- (2) 先天性完全房室ブロックの児に β -遮断剤を投与してはいけない。

- (3) ファロー四徴症における無酸素発作に強心剤(ジギタリス)を投与してはいけない。
- (4) 失神の既往がある遺伝性QT延長症候群に過度の水泳、潜水は禁忌である。
- (5) 消化管穿孔の疑われる児に消化管造影検査をしてはいけない。
- (6) 腸重積症の児に高圧浣腸による整復では造影剤の注入圧は 100-120cmH₂O を越えてはいけない。
- (7) 頭蓋内圧亢進の疑われる児に髄液穿刺をしてはいけない。
- (8) 出血傾向のある患児に腎生検をやってはいけない。
- (9) 片腎の患児に腎生検をやってはいけない。
- (10) 重症脱水の患児に初期輸液として、血清濃度(4-5mEq/L)以上のカリウムを含む製剤を用いてはいけない。
- (11) 小児で水痘やインフルエンザ感染の疑われる場合、アスピリンは投与しない。
- (12) 初回排尿を認める前の新生児の輸液においては、カリウムの入った製剤は用いない。

6. 実習日程

●初回集合時間・場所

臨床実習のオリエンテーションは第1週月曜日、午前8:30に4号館2F会議室に集合すること。
(練馬病院全科共通)。

【実習スケジュール】

曜日	時刻	場所	内容	教員
月	8:00～9:00	4A病棟, NICU/GCU	朝回診	五十嵐 鮎子
	9:00～9:30 ^{※1)}	4A病棟 ^{※1)}	小児科オリエンテーション ^{※1)}	五十嵐 鮎子 ^{※1)}
	10:00～12:00	外部	乳児院診察見学	交代制
	12:00～13:00	4A病棟, NICU/GCU	昼回診	五十嵐 鮎子
	14:00～15:00	4A病棟	クルズス	交代制
火	10:00～11:00	4A病棟	クルズス	交代制
	11:00～12:00	4A病棟, NICU/GCU	昼回診	宮野 洋希
	13:00～17:00	3号館1階多目的室A	医局間ファンレンス・回診	宮野 洋希
水	8:00～9:00	4A病棟, NICU/GCU	朝回診	宮野 洋希
	10:00～11:00	4A病棟	クルズス	交代制
	12:00～13:00	4A病棟, NICU/GCU	昼回診	宮野 洋希
	14:00～15:00	4A病棟	クルズス	交代制
木	8:00～9:00	4A病棟	合同カンファレンス	柏木 項介
	10:00～11:00	4A病棟	クルズス	交代制
	12:00～13:00	4A病棟, NICU/GCU	昼回診	柏木 項介
	14:00～15:00	4A病棟	クルズス	交代制
金	8:00～9:00	4A病棟, NICU/GCU	朝回診	柏木 項介
	10:00～11:00	4A病棟	クルズス	交代制
	12:00～13:00	4A病棟, NICU/GCU	昼回診	柏木 項介
	14:00～15:00	4A病棟	クルズス	交代制
	15:00～16:00 ^{※2)}	4A病棟 ^{※2)}	総括 ^{※2)}	宮野 洋希 ^{※2)}

※1) 第1週目, ※2) 第4週目

クルズス: 実習開始の際に配布されるスケジュールを確認し、その日のクルズス担当教員に時間と場所を確認する。

合同カンファレンス: 小児科・新生児科・小児外科の3科合同カンファレンスに参加する。

実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

大友 義之、寒竹 正人、鈴木 恭子、岩崎 友弘、五十嵐 鮎子、山崎 晋、宮田 恵理、宮野 洋希、岡部 朗子、加護 祐久、柏木 項介、野村 望、田畑 恭輔、他全医局員
--

7. 実習の出席、学習事項および総合評価

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 実習で経験したこと

	チューター氏名	実習内容
第1週		
第2週		
第3週		
第4週		

(2) 実習における評価

(A:大変良い B:良い C:普通 D:やや劣る E:大変劣る N:実施しなかったので評価できない)

1. 出席		A	B	C	D	E	
2. 約束時刻の遵守		A	B	C	D	E	
3. 積極的に学ぶ態度		A	B	C	D	E	
4. 患者に対する礼儀正しい態度	A	B	C	D	E		
5. 診療チームにおける態度・協調性		A	B	C	D	E	
6. 基礎知識		A	B	C	D	E	
7. BSL期間中における知識の増加		A	B	C	D	E	
8. 問診技能		A	B	C	D	E	N
9. 理学的診察法		A	B	C	D	E	N

10. 簡単な臨床検査技能	A	B	C	D	E	N	
11. 病歴、所見の記載		A	B	C	D	E	N
12. 病歴、診察・検査結果からの問題の設定	A	B	C	D	E	N	
13. 検査、治療計画の立案		A	B	C	D	E	N
14. 臨床検査所見等の解釈		A	B	C	D	E	N
15. 診断、鑑別診断能力	A	B	C	D	E	N	
16. プレゼンテーションの能力		A	B	C	D	E	N

(3) 実習項目

出席表

実習項目	月日	教員サイン	
		朝	夕
病棟実習 第1週(月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			
第2週(月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			
第3週(月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			
第4週(月)			
(火)			
(水)			
(木)			
(金)			

指導教員名 _____ 印

産婦人科学(産科・婦人科)

1. 一般目標

正常女性の性機能、女性性機能の異常、不妊、性器の良性および悪性腫瘍、性器感染症など主要な婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥、新生児の生理と主要な異常、合併症のある妊産婦などについて問題を解決するための基本的な診断学的技能とその臨床応用能力、基本的な治療法とその活用能力、産婦人科患者に臨床医として接する態度、母性保健への理解を涵養する。

2. 到達目標

- (1) 患者と良好な人間関係を形成し、チームの一員として診療に参加する。
- (2) 産婦人科の特殊性を理解し、女性の健康について全般的な視点から捉えられるようにする。
- (3) 妊娠・分娩・産褥経過を理解し、正しく評価できる。
- (4) 分娩・産科手術に立ち会う。
- (5) 骨盤部、後腹膜の解剖を理解し、婦人科手術の介助ができる。
- (6) 産婦人科の急性腹症の鑑別診断と治療について理解し説明できる。
- (7) 病棟回診、カンファレンスで担当患者のプレゼンテーションを要領よくできる。
- (8) 適切に文献検索を行い症例発表ができる。

3. 実習方法

- (1) 4週間の実習で、専門グループ(a:周産期グループ2週間、b:生殖内分泌、良性腫瘍グループ1週間、c:悪性腫瘍グループ1週間)に所属し、チームの一員として診療に参加する。
- (2) 各グループで指導医の監督・指導の下で病棟実習、外来陪席、分娩立ち会い、手術見学・参加などを行い、実際の産婦人科診療を学ぶ。
- (3) 担当患者の病歴や入院後経過を把握し、回診でプレゼンテーションを行う。
- (4) 症例カンファレンスに参加し、症例報告について理解し議論を深める。
- (5) パワーポイントを用いて学会形式で症例発表を行う。
- (6) 鉗子分娩や産科超音波、腹腔鏡手術についてハンズオン実習を行う。
- (7) 周産期・リプロダクション・悪性腫瘍・女性アスリートのクルズスに参加し、各専門領域の診療の理解を深める。

5. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

①予習：

臨床系統講義（Group3 および Group7）の復習を行い、講義で配付された資料を読み返し略語を含む専門用語を理解しておくこと。周産期の臨床現場に参加するため、該当分野において知識を整理しておくこと。

②指定教科書：「標準産科婦人科学：第5版」を一読のこと。

③参考教科書：「フローチャート産婦人科研修・救急対応マニュアル」を一読のこと。

④参考書：「婦人科・乳腺外科＜病気が見える 9＞」「産科＜病気が見える 10＞」

⑤実習上の注意点：

巻頭の「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。

思春期から壮年期の女性や妊産婦を診療する現場に立ち会います。繊細な女性を相手にするため立ち振る舞いや身だしなみに配慮し、実習に臨むこと。

⑥復習：

当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

臨床系統講義（Group3 および Group4）で配付された資料やクルズスなどで使用した資料を読み返すこと。

6. 担当教員

責任者：寺尾泰久

学生担当：瀬山理恵（産科）、村上圭祐（婦人科）

※実習は全医局員が担当する。

7. 初回集合時間・場所

7:50 ZOOM オリエンテーション

8:10 各グループ集合場所（周産期グループ 1号館 11A 病棟カンファレンスルーム、腫瘍グループ 1号館 7B 病棟カンファレンスルーム、腹腔鏡・リプログループ 産婦人科医局（サテライト 2 5階）

8. 実習における評価

出席状況、積極性、チーム医療、知識、基本的な診療や手技、プレゼンテーション、症例発表の内容などをもとに総合的に評価します。

産婦人科学（産科・婦人科 / 静岡病院）

1. 一般目標

女性のすべてのライフスタイルを診ることができる産婦人科は、その年齢により様々な視点を持ちながら診療を行う必要がある。周産期医療、婦人科腫瘍、性感染症、生殖内分泌医療などを中心に臨床診療が行われており、産婦人科の基本的な診断学や技能、基本的な治療適応と方法、臨床医として患者や妊婦や婦人に接する態度、さらには母子保健への理解が要求される。実習を通して産婦人科の知識と経験を涵養する。

2. 到達目標

- ① 女性生殖器の発生・形態・解剖・機能を理解し、産婦人科の診察や病態の把握に基づかせる。
- ② 性ホルモンの種類・作用・機序を学習し、生殖内分泌の仕組みや疾患を理解する。
- ③ 妊娠・分娩・産褥の生理と経過を学習し理解する。
- ④ 妊娠・分娩・産褥の異常に対する診断方法や治療方法の臨床を体験し理解を深める。
- ⑤ 婦人科良性・悪性腫瘍の成立原理、診断、治療方法について理解する。

3. 実習方法

- ① 実習の全過程における責任者は診療科長で、実習の指導は学生担当と指導医によって行われる。
- ② 第一週のオリエンテーションで指導医を指名され、基本的に指導医の指示に従い、チャート回診、病棟回診、カンファレンス、外来診療、手術などに参加し、臨床の現場を体験し知識や経験を習得する。
- ③ 周産期、婦人科腫瘍、内分泌などのクルズスに参加し臨床講義の復習とBSL実習の理解を深める。
- ④ 指導医の所属するグループ内で挙げられる産科婦人科学的課題を一緒に参加して解決することに努める。
- ⑤ 2週間で学習した内容を第2週にプレゼンテーションを行い総括とする。

4. 準備学習（予習・復習等）

本郷の記載事項に準じる。

5. 実習日程

別紙参照

6. 担当教員（学生担当）

責任者：田中利隆

学生担当：矢田昌太郎

※実習は全医局員が担当する。

7. 初回集合時間・場所

9時30分 H棟5階（5H病棟） ナースステーション

8. 実習における評価

学生持参のもの及び教育要項の所定の評価表に記入する。

産婦人科学（産科・婦人科 / 浦安病院）

以下に週間予定を示します。

これを参考にして各自、指導医と相談の上4週間の予定を立ててください。

一般目標、到達目標、準備学習（予習・復習等）に関する項目は、本院に準ずる。

	9:00～12:00	13:00～18:00	18:00～19:00	19:00以降
月	病棟 外来（産科・婦人科） 手術室	病棟 外来（一ヶ月検診） 手術室	入院・分娩・手術 カンファレンス	当直実習
火	病棟 外来（産科・婦人科） 手術室	病棟 外来（ヒステロスコープ） 手術室	入院・分娩・手術 カンファレンス	当直実習
水	病棟 外来（産科・婦人科） 手術室	病棟 外来（コルポスコープ） 手術室	入院・分娩・手術 カンファレンス	当直実習
木	病棟 外来（産科・婦人科 合併症妊娠外来）	教授カンファレンス 外来症例カンファレンス 予定手術カンファレンス 病理カンファレンス（第三） 初期研修医症例発表（最終週） 学生症例発表（実習第四週） 製品説明会（お弁当あり）		当直実習
金	病棟 外来（産科・婦人科） 手術室	病棟 外来（コルポスコープ） 手術室	入院・分娩・手術 カンファレンス	当直実習

※当直実習は4週間のうち一度は行ってください。

※Meet the Professor の時間帯は 実習内にて別途指示します。

担当教員（学生担当）

責任者 : 牧野真太郎

学生担当 : 菅直子

※実習は全医局員が担当する。

初回集合時間・場所

9時00分 3B病棟

産婦人科学（産科・婦人科 / 練馬病院）

1. 一般目標

産婦人科学は生命誕生前から終末までの、生殖現象、妊娠と分娩、内分泌、感染症、良性・悪性腫瘍、加齢変化などの各種現象・疾患を通じ、女性の一生より人間を見つめることのできる学問である。生殖内分泌医療、感染症学、周産期・新生児医療、婦人科腫瘍学を通じて、各種疾患に対してその問題を解決するための基本的な診断学的技能、基本的な治療の適応と方法、臨床医として患者に接する態度、母子保健への理解を涵養する。

2. 到達目標

- ① 女性生殖器の発生、形態、解剖、機能を理解する。
- ② 性ホルモンの種類、作用、機序を学び、生殖内分泌疾患の理解を深める。
- ③ 妊娠・分娩の生理を学び、その異常に対して診断方法、治療方法の理解を深める。
- ④ 婦人科良性・悪性腫瘍の成立原理、診断、治療方法について理解する。

3. 実習方法

- ① 実習の責任者は診療科長で、責任者より指導医が決められる。
- ② 指導医のもと、チャート回診、病棟回診、カンファレンス、外来診療、手術に参加し、医師としての基礎的能力を習得する。
- ③ 各指導医がおこなう内分泌、周産期、婦人科腫瘍のクルズスに参加し、各疾患への理解を深める。
- ④ 各指導医から出される産科婦人科学的課題をグループで解決してゆく。
- ⑤ 学習した内容を学会形式で発表して、プレゼンテーション能力を高める。

4. 準備学習（予習・復習等）

本郷の記載事項に準じる。

5. 実習日程

5. 実習日程
M4 BSL 産科婦人科スケジュール

- 3~5人が二班に分かれて産科と婦人科を二週間ずつローテーションする
- 四週間のうちクルズは10コマ 担当者で相談の上、日時を決定する
- 産科ローテーション中は、2症例の分娩に立ち会い、分娩経過図(パルトグラム)を作成し、第4週金曜日にその一例を発表する
- 婦人科ローテーション中は、第一週木曜日、金曜日の悪性腫瘍手術の患者さんを受け持ち、第4週金曜日に症例発表する
- 絶えず受け持ち指導医とコンタクトをとり、受け持ち患者を含めて臨床、学問上の問題点をディスカッションする

		月	火	水	木	金
産科 1週目	午前	8:00 チャート回診	カンファ/チャート回診*	8:00 チャート回診	8:00 チャート回診	8:00勉強会**
		9:00 帝切手洗い	病棟 (正常分娩経過)	9:00産科外来	9:00 帝切手洗い	病棟 (正常分娩経過)
	午後	13:30 産科外来	15:00 医局カンファレンス (症例検討会など)	病棟 (正常分娩経過)	病棟 (正常分娩経過)	13:00産科外来
		クルズ		クルズ	クルズ	クルズ
産科 2週目	午前	8:00 チャート回診	カンファ/チャート回診*	8:00 チャート回診	8:00 チャート回診	8:00勉強会**
		9:00 帝切手洗い		9:00産科外来	9:00 帝切手洗い	病棟 (正常分娩経過)
	午後		15:00 医局カンファレンス (症例検討会など)	病棟 (正常分娩経過)	病棟 (正常分娩経過)	13:00産科外来
		クルズ		クルズ	クルズ	クルズ
婦人科 1週目	午前	8:00 チャート回診	カンファ/チャート回診*	8:00 チャート回診	8:00 チャート回診	8:00勉強会**
		婦人科外来	腹腔鏡手術見学	病棟回診	病棟回診	
	午後	婦人科手術手洗い	木曜手術患者受け持ち 15:00 医局カンファレンス (症例検討会など)		婦人科悪性腫瘍手洗い	婦人科悪性腫瘍手洗い
		クルズ		クルズ	クルズ	クルズ
婦人科 2週目	午前	8:00 チャート回診	カンファ/チャート回診*	8:00 チャート回診	8:00 チャート回診	8:00勉強会**
		婦人科外来	腹腔鏡手術見学	病棟回診		
	午後	婦人科手術手洗い	15:00 医局カンファレンス (症例検討会など)		婦人科悪性腫瘍手洗い	婦人科悪性腫瘍手洗い
		クルズ		クルズ	クルズ	クルズ

*カンファ/チャート回診 第1火曜 病理カンファ 第3火曜 周産期カンファ 第2、4、5 チャート回診

病理カンファ 周産期カンファは8:00よりマグノリア2階 チャート回診は8:20より外来11番診察室

**8:00 勉強会 第1金曜 抄読会 第2、4金曜 ガイドライン読み合わせ 第3金曜 プログレスカンファ 実習最終の金曜日は学生発表場所は4Fカンファレンスルーム

クルズ日程	月	火	水	木	金
午後 16:00~17:00	第1	ガイダンス	クルズ1		クルズ5
	第2		クルズ4		クルズ8
	第3	クルズ9	クルズ2	クルズ10	
	第4	クルズ3			
					まとめ

原則は上記の日程で行うが、具体的な日時は担当者と要相談

担当者	日時(担当者で決める)	講義内容	婦人科 指導医	前半	後半
クルズ1	月 日 :	産婦人科とは	指導医1	学生1	学生3
クルズ2	月 日 :	卵巣癌の治療法戦略	指導医2	学生2	学生4
クルズ3	月 日 :	産科合併症・PIH			
クルズ4	月 日 :	CTGの読み方と対応	産科 指導医	前半	後半
クルズ5	月 日 :	女性の急性腹症	指導医3	学生3	学生1
クルズ6	月 日 :	妊娠と薬	指導医4	学生4	学生2
クルズ7	月 日 :	子宮頸癌の予防と治療			
クルズ8	月 日 :	分娩の生理(回診とその異常)			
クルズ9	月 日 :	性周期とホルモン			
クルズ10	月 日 :	婦人科良性疾病			

6. 担当教員

責任者 : 荻島大貴

学生担当 : 丸山洋二郎

※実習は全医局員が担当する。

7. 初回集合時間・場所

8時20分 3号館1階 多目的室A

(病院オリエンテーションがある場合は、9時00分、1号館4階4C病棟)

8. 実習における評価

学生持参のもの及び教育要項の所定の評価表に記入する。

9. 実習の学習事項および総合評価

学生番号 _____ 氏名 _____

(1) 受持患者

	病 名

(2) 事前もしくはBSLで学習し理解する事項 (学習し、理解しえたと思われるものに○)

学 習 の 内 容	学生チェック欄	教員チェック欄
(1) 女性性器の形態、機能		
(2) 女性の臨床内分泌学		
(3) 婦人科疾患の診断と治療		
(4) 不妊の検査、治療		
(5) 産科婦人科の手術		
(6) 妊婦の正常経過		
(7) 異常妊婦の症状と管理		

(3) 実習において行なう実技の内容 (実施したものに◎ 見学したものに○)

臨床実技等の内容	学生チェック欄	教員チェック欄
(1) 問診、診察		
(2) コルポスコピー		
(3) 創傷処置 (消毒、縫合、抜糸)		
(4) 子宮卵管造影		
(5) 超音波検査		
(6) 人工授精		
(7) 体外受精・顕微授精・胚移植		
(8) 分娩		
(9) 開腹手術		
(10) 腹腔鏡手術		

(4) 実習における評価

(A : 大変良い B : 良い C : 普通 D : やや劣る E : 大変劣る N : 実施しなかったので評価できない)

1. 出席	A	B	C	D	E	
2. 約束時刻の遵守	A	B	C	D	E	
3. 積極的に学ぶ態度	A	B	C	D	E	
4. 患者に対する礼儀正しい態度	A	B	C	D	E	
5. 診療チームにおける態度・協調性	A	B	C	D	E	
6. 基礎知識	A	B	C	D	E	
7. BSL期間中における知識の増加	A	B	C	D	E	
8. 問診技能	A	B	C	D	E	N
9. 理学的診察法	A	B	C	D	E	N
10. 簡単な臨床検査技能	A	B	C	D	E	N
11. 病歴、所見の記載	A	B	C	D	E	N
12. 病歴、診察・検査結果からの問題の設定	A	B	C	D	E	N
13. 検査、治療計画の立案	A	B	C	D	E	N
14. 臨床検査所見等の解釈	A	B	C	D	E	N
15. 診断、鑑別診断能力	A	B	C	D	E	N
16. プレゼンテーションの能力	A	B	C	D	E	N

(5) テスト成績

1. プレテスト点数 _____ 点
2. ポストテスト点数 _____ 点 合計 _____ 点 (20点満点)

(6) 教員の感想

学生番号 _____ 氏名 _____

指導教員名 _____ (印)

救急・災害医学（浦安）

責任者 浦安病院 岡本 健

1. 一般目標

コア科臨床実習の一般目標に準じる。

2. 到達目標

- (1) 救急外来において、患者の重症度と治療優先度を判断できるようになる。
- (2) 重症患者の呼吸・循環・栄養管理と感染対策の基本を理解する。
- (3) 外傷初期診療の基本を理解する。
- (4) BLS・ACLSの基本を学び、実施できるようになる。
- (5) 小児救急の特異性と診療の基本を理解する。
- (6) 災害医療の特徴を理解する。
- (7) カンファレンスにおいて、救急患者の mini-CEX の評価基準を満たす症例提示ができるようになる。
- (8) 多職種連携で診療を進める救急医療の一員として診療に参加し、チーム医療の実際を体験する。

3. 実習方法

浦安病院救急診療科では、緊急を要する病態や疾病・外傷に対して適切かつ迅速な対応が将来できるようになることを目標として、実習中数多くの救急患者の初療に触れる機会を設けている。常に患者の vital sign と治療優先順位を考慮しながら診療に臨む姿勢を身につけ、救急医療領域で行われている、呼吸・循環・栄養・感染管理など重症患者治療の基本を学習する。加えて基本的な一次・二次救命処置や外傷初期診療、災害医療および小児救急医療の基本を学ぶ。

- (1) 予習：今までに配付された資料を読み返し、略語を含む専門用語を理解しておくこと。特に初期外傷診療や心肺蘇生法、救急診断・治療総論の分野において知識を整理しておくこと。標準救急医学（第5版）や救急診療指針（第5版）を一読のこと。
- (2) 実習上の注意点：「病院等での実習の心得」「医師服装マニュアル」等を事前に確認・理解したうえで実習に臨むこと。
- (3) 復習：当日の実習終了後、不明な用語や内容はかならず指導医等に確認するなどしてから翌日の実習に臨むこと。

4. 実習日程

	月	火	水	木	金
午前	8:30～ 申し送り 救命救急センター ・病棟回診 担当：末吉孝一 郎・中村有紀 (学生ラウンド /集中治療)	8:30～ 申し送り 救命救急センター 教授回診 Meet the Professor 担当：岡本健(病 院前診療・災害 医療)	8:30～ 申し送り 救命救急センター ・病棟回診 担当：森川美 樹・牧千佳(救 急外来初期診 療)	8:30～ 申し送り 救命救急センター ・病棟回診 担当：末吉孝一 郎・石原唯史(外 傷初期診療、小 児救急)	8:30～ 症例検討会 救命救急センター ・病棟回診 担当：井上樹里・ 三好ゆかり(救 急医学概論)
午後	13:00～ 救急外来診療 担当：学生担当 医	13:00～ 救急外来診療 担当：学生担当 医	13:00～ 救急外来診療 担当：学生担当 医	13:00～ 救急外来診療 担当：学生担当 医	13:00～ 救急外来診療 担当：学生担当 医、口頭試問： (岡本健)
夕方 夜間	17:30～(希望者) 夜間救急診療 (夜勤体制) 申し送り 救命救急センター 回診	17:30～(希望者) 夜間救急診療 (夜勤体制) 申し送り 救命救急センター 回診	17:30～(希望者) 夜間救急診療 (夜勤体制) 申し送り 救命救急センター 回診	17:30～(希望者) 夜間救急診療 (夜勤体制) 申し送り 救命救急センター 回診	17:30～(希望者) 夜間救急診療 (夜勤体制) 申し送り 救命救急センター 回診
備考	夜間当直実習は 行わない	夜間当直実習は 行わない	夜間当直実習は 行わない	夜間当直実習は 行わない	夜間当直実習は 行わない

実習2週目の金曜・症例検討会で、各担当患者のプレゼンテーションを行う。

担当患者の割り当てが不明の場合には、担当教員に速やかに申し出ること。

- * 朝の実習開始前に救急診療科医局で秘書が当日の学生担当医師名を連絡する。
- * 救急リサーチカンファレンス・研修医症例発表会などの勉強会が適宜開催されるので参加すること
- * 発熱や体調不良等があれば速やかに担当教員まで申し出ること

5. 担当教員

※実習は次の教員、以下全医局員が担当する。

担当教員	スマホ・PHS	担当教員	スマホ・PHS
岡本 健	5187	中村有紀	5188
田中 裕	5186	牧 千佳	5362
森川美樹	5361	三好ゆかり	5363
末吉孝一郎	5359	井上樹里	5863
石原唯史	5189		

6. 集合場所・時間

毎日午前8時30分・救命救急センター病棟(2階)

7. 実習における評価

- (1) 毎日の実習担当者(午前)が実習中に口頭試問を実施し評価とする。
- (2) 実習最終週の金曜日午前の症例検討会での発表では mini-CEX を用いて評価する。
- (3) 実習最終週の金曜日午後に実習総括と口頭試問を行い、最終評価する。

救急・災害医学（練馬）

責任者
練馬病院
杉田 学

1. 一般目標

- 救急医学に必要な基本的態度・技能・知識を体験する
- 医師として、救急臨床能力の基礎（態度，知識，技能）を身につける
- 救急分野での臨床実習の意義を理解し，積極的に学習する

2. 到達目標

多くの救急患者の初療に触れ，患者の観察と治療優先順位を考慮することができる
経験した症例の診断，治療までのプロセスをプレゼンテーションできるようになる

3. 準備学習（予習・復習等）及び実習上の注意点

- ① 予習：本邦の救急医療システムや略語を含む専門用語を理解しておく。
- ② 実習上の注意点：練馬病院で研修する M5 学生はシニア・スチューデントドクターとして医師に準じて扱われるため，自覚を持って高い目標を持つ。患者に対する接遇や服装については特に意識して行動する。
- ③ 復習：**携帯可能なメモ帳を持参**し，カンファレンスや実習中にわからなかった語句や事象については**必ずメモを取り，その日のうちに解決**する。
- ④ 実習方法
 - ・カンファレンスに参加し，救急患者の診断や治療を導く手法について学ぶ
 - ・プレゼンテーション手法を学び，実際にプレゼンテーションをおこなう
 - ・指導医の監視のもとで基本的検査手技を学び，実践する
 - ・入院患者について回診に参加し，指導医とともに鑑別診断の技術を学ぶ
 - ・症候と疾患について自分なりにまとめる
 - ・救急患者の診療に立ち会いその対応を学び，診療に積極的に参加する
 - ・救急患者の disposition(初療後の展開)について考える

4. 実習日程

	月	火	水	木	金
午前	8:30～ カンファレンス (入院患者) 10:30～ ICU・病棟回診	8:30～ カンファレンス (入院患者) 10:30～ ICU・病棟回診	8:30～ カンファレンス (入院患者) 10:30～ ICU・病棟回診	8:30～ カンファレンス (入院患者) 10:30～ ICU・病棟回診	8:30～ カンファレンス (入院患者) 10:30～ ICU・病棟回診
午後	13:00～ 救急外来診療 16:00～ タカンファ	13:00～ 救急外来診療 16:00～ タカンファ	13:00～ 救急外来診療 16:00～ タカンファ	13:00～ 救急外来診療 16:00～ タカンファ	13:00～ 救急外来診療 16:00～ タカンファ
夕方 夜間	17:00～ (当直実習)	17:00～ (当直実習)	17:00～ (当直実習)	17:00～ (当直実習)	17:00～ (当直実習)
備考	14:00 Meet The Professor 担当：野村	時間未定 PBL 開催あり		時間未定 PBL 開催あり	11:00, 14:00 Meet The Professor 担当：杉田, 野村

***注：実習期間中に最低1回の当直実習を経験することを推奨する。**

5. 担当教員

※実習は、次の教授、准教授、講師、助教、助手 以下全教員が担当する。

担当教員	PHS (No.)	担当教員	PHS (No.)
杉田教授	3099	大杉助手	3414
野村先任准教授	3093	發知助手	3415
薄田講師	3406	下澤助手	3420
高見助手	3408	田中助手	3545
水野助手	3409	鈴木助手	3419
三島助手	3411		
伊藤助手	3426		

6. 集合場所・時間

初日のオリエンテーションの場所と時間は研修センターより別途連絡する
毎日 8:30 から行われるカンファレンスに参加する